名城大学FD·SD活動報告書

令和3年度

名城大学

大学教育開発センター委員会

目 次

1. はじめに◆ 令和 3 年度の FD・SD 活動を振り返って	て学教育開発センター委員会委員長 山田	
2. 令和3年度大学教育開発センター委員会● 委員構成····································		3 5
3. 令和3年度 FD・SD 活動一覧 (FD・SD フォーラム、FD 学習会、授業改 名城大学 FD NEWS、名城大学教育年報、 教育功労賞表彰、学外セミナー・研究集会	FD·SD 活動報告書、	11
4. 令和3年度正課外教育活動一覧 (入学前オリエンテーション、入学前学習フ 名城サプリメント教育、学習サポートルー、		15
5. 令和3年度各学部・研究科等におけるFI	D・SD 活動報告 ····································	21
 6. トピックス ● 第23回 FD・SD フォーラム実施報告 … ● FD 学習会 … ● 教育功労賞表彰報告 … 		124
7. 資料◆大学教育開発センター要項····································		
8. おわりに • あ と が き		175

1. はじめに

令和3年度のFD·SD活動を振り返って

大学教育開発センター委員会 委員長 山田 宗男

今年度もコロナ禍での教育活動を強いられる1年でした。それでも本学では、対面・遠隔の併用 や講義収録システムの活用による欠席者への対応など、昨年度の経験を活かし、極めて短期の準備 期間にも拘らず、大きな問題もなく授業運営を行えました。これは言うまでもなく、教職員の方々 の教育を止めない思いとご尽力の賜物であったと確信すると共に、敬意を表します。

大学教育開発センター委員会では、コロナ禍における教育の実践と共に、来年度に受審する第三期認証評価、さらには、今後益々重要となる数理データサイエンス・DX人材育成を見据えたFD·SDフォーラム·FD学習会の開催、名城サプリメント教育および学習サポートルームのリモート対応など、各種対応を可能な限り行いました。今年度においても、コロナ禍によって諦めた、あるいは、廃止した取り組みは一つもなく、ご尽力をいただいた委員をはじめご協力をいただいた教職員の皆様には、重ねて御礼申し上げます。以下に今年度の取り組みについて省察します。

先ず、授業改善アンケートについては、質問項目の継続的な見直しを図ると共に、学生自身の授業に対する姿勢についても振り返りができる質問を加えるなど、質問内容についても毎年改善を重ねています。今年度の回答率は、前期:51.8%、後期:41.3%と過去最高となりました。これは、昨年度のLMSによる遠隔講義の経験によって、LMSの日常利用が学生に馴染んできたことや、LMSを基本とする教員・学生間のやり取りが定着しつつあること、さらには遠隔講義の経験によって、講義の内容や方法への関心が高まったものと考えられます。アンケートの回答率に関しては、学生への周知徹底や動機付けとの相関も大きいことから、回答マニュアルの整備、アンケートの回答を促すポスターの講義室への貼付、学生ホールおよび食堂での周知、授業改善アンケート集計結果閲覧コーナーの設置など、引き続き努力していきたいと考えています。

学修成果の可視化に関する外部調査については、全学部全学科にて実施していただいております。本調査の目的は、学生個々の学修行動・学修成果について調査・可視化することで、教育の成果がどの程度上がっているかを把握するものであり、今後の教育プログラムの在り方やFD・SDの進め方、さらには学生指導方法の見直し等に役立つ情報を得ようとするものです。現段階ではJSAAP、PROG、GPS-Academic等の外部団体による調査を活用する試行段階であり、本来は学部独自でアセスメントポリシーに基づく適正な調査・評価方法を検討いただくことが望ましいと考えています。またこの調査は、単年度対象の調査ではなく、年次推移に関する分析・検討が重要となります。今年度は多くの学部・学科において、複数年次を対象とした調査が実施され、学修成果の可視化に関する重要性の認知とその活用が進んでいることが伺えます。本調査の実施に関しては、引き続き援助の準備を進めていますので、ご協力の程、よろしくお願いします。

今年度のSD・FD フォーラムは、メインテーマを「内部質保証の実質化と恒常化を目指して一認証評価を目前に考える一」としました。本学は来年度、第三期の認証評価を受審するため、今一度、内部質保証についての理解を深めることを目的として、オンラインにて開催しました。公益財

団法人 大学基準協会 評価研究部 部長の田代 守 さま,名古屋大学 教養教育院 副院長の栗本 英和教授を講師としてお招きし,田代さまからは,メインテーマである内部質保証の実質化と恒常化について,栗本先生からは,現場感覚により近いプログラムレベルおよび授業レベルで考える内部質保証についてご講演いただきました。当日は193名の多くの参加があり,質疑応答も活発に行われ関心の高さが伺えました。お忙しい中,貴重な時間を割いて参加いただいた教職員の皆様には心より御礼申し上げます。

FD 学習会については、昨年度に引き続き「数理・データサイエンス・AI 教育の必要性と実践」のテーマで第13回 FD 学習会を開催しました(7月20日(火)、Zoom によるオンライン開催). 数理・データサイエンス・AI 教育は、情報社会で活躍するために必要となる基盤的なスキルであり、本学においても、来年度から全学共通科目としての教育がスタートします。今後、益々必要となる統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能などの「数理・データサイエンス・AI 教育」に関して、本学理工学部において実践されている取り組みを、理工学部長 齊藤 公明 教授にご紹介いただきました.

また8月には、新任教員 FD 研修会を兼ねての第14回 FD 学習会を開催しました(8月25日(水)、Zoom によるオンライン開催). PBL や実験・実習科目における実践レポートの客観評価および学生が省察可能な評価手法の一つであるルーブリックについて、名古屋大学 高等教育研究センターの加藤 真紀 教授をお招きし、ルーブリック評価方法の基礎についてご紹介いただきました。実践事例紹介に基づくわかりやすい内容で、多くの参加者から好評を博しました。さらに9月には、「大学の授業運営における著作権への考え方について」のテーマで第15回 FD 学習会を開催しました(9月2日(木)、Zoom によるオンライン開催). 今後の遠隔・対面併用の授業運営に不可避な授業における著作権の問題について、帝京大学共通教育センター長の木村 友久 教授をお招きしてご講演いただきました.

新任教員 FD 研修会については、本学の専任教員に着任された先生方を対象に、授業運営や学生指導にあたり困っていることや苦心していることなどを共有し意見交換することで、FD 活動の動機づけおよび教員の交流を深める機会としたく思っており、来年度も引き続き開催していきたいと考えています。

FDニュースについては、令和3年10月に Vol.15を、令和4年1月に Vol.16を発刊いたしました、 Vol.15では、ルーブリックの活用方法について、Vol.16では、第三期認証評価についてわかりやすく紹介しました。FD・SD に関する学内外の最新の取り組みおよび高等教育改革の最新動向等を、スピーディーかつ端的に情報提供・共有するための媒体として有効に活用したく考えています。

本学における FD・SD の取り組みは、本来の趣旨を念頭に教職員の創発によって取り組みを深めていく体制とすることで、現場感覚に基づいた実践的な FD・SD 活動が遂行可能である点が他大学にない特色であると思います。また、「with コロナ」「after コロナ」時代においては、ICT 活用を主軸としたこれまでにない教育改革が必須であり、それに伴う FD・SD 活動も変革の時期を迎えていると思います。教職員の皆様におかれましては引き続き、より一層のご理解とご協力をお願いできれば幸いです。

2. 令和3年度 大学教育開発センター委員会

令和3年度 大学教育開発センター委員会委員

所属等	職名	氏 名	職名	氏 名
大学教育開発センター長	委員長・教授	山田 宗男		
学務センター長	教授	山本 雄吾		
法学部	教授	渡邊 亙	准教授	仁井田 崇
経営学部	教授	堀川 新吾	准教授	相川 奈美
経済学部	教授	伊藤 健司	准教授	山田 浩貴
理工学部	教授	松村 昌紀	教授	古川裕之
農学部	教授	新妻 靖章	准教授	橋本 啓史
薬学部	教授	大津 史子	教授	湯川和典
都市情報学部	教授	酒井 順哉	教授	稲葉 千晴
人間学部	教授	安藤 喜代美	教授	岡戸 浩子
外国語学部	教授	ウィキン ポール	助教	萩藤 大明
総合学術研究科	准教授	神藤 定生		
教職センター	教授	竹内 英人		
学務センター	事務部長	犬飼 斉		
大学教育開発センター	事務部長	鶴田 弘樹		

令和3年度 大学教育開発センター委員会 専門委員会 分担表

【教育支援専門委員会(11名)】

所属等	職名	氏 名	備考
大学教育開発センター	センター長	山田 宗男	座長
法学部	教授	渡邊 亙	
経営学部	准教授	相川 奈美	
経済学部	准教授	山田 浩貴	
理工学部	教授	松村 昌紀	
農学部	教授	新妻 靖章	
薬学部	教授	湯川 和典	
都市情報学部	教授	稲葉 千晴	
人間学部	教授	安藤 喜代美	
外国語学部	助教	萩藤 大明	
学務センター	事務部長	犬飼 斉	

【FD·SD 専門委員会 (13名)】

所属等	職名	氏 名	備考
大学教育開発センター	センター長	山田 宗男	
学務センター	センター長	山本 雄吾	
法学部	准教授	仁井田 崇	
経営学部	教授	堀川 新吾	
経済学部	教授	伊藤 健司	座長
理工学部	教授	古川 裕之	
農学部	准教授	橋本 啓史	
薬学部	教授	大津 史子	
都市情報学部	教授	酒井 順哉	
人間学部	教授	岡戸 浩子	
外国語学部	教授	ウィキン ポール	
総合学術研究科	准教授	神藤 定生	
教職センター	教授	竹内 英人	

令和3年度 大学教育開発センター委員会活動記録

• 「第1回 令和3年4月1日 (木)]

【はじめに】

- 1. 大学教育開発センター委員会について
 - (1)委員について
 - (2) 2021年度開催日程について

【審議事項】

- 1. 副委員長の選出について
- 2. 令和3年度の委員会活動について
 - (1) 令和2年度大学教育開発センター委員会活動実績について
 - (2) 専門委員会の設置について
- 3. 令和3年度院高度化費(充実施策)について
 - (1) 院高度化費(充実施策)の使途及び予算配分額
 - (2) 大学院生研究助成(A)·(B) の募集
 - (3) 大学院生研究助成(A)・(B) の審査方法・審査項目、スケジュール
 - (4) 大学院生研究助成(A)·(B) 申請学生リスト
 - (5) 大学院生 FD 企画参加(プレ FD)の助成について
- 4. 令和3年度大学院生研究助成(A)・(B)の審査担当について

【その他】

- 1. 令和3年度学習サポートルーム相談員の一次募集結果及び二次募集について
- 2. 令和3年度前期名城サプリメント教育シラバスについて
- 3. 令和3年度名城サプリメント教育・学習サポートルームのチラシについて
- 4. 委員会欠席の際の取り扱いについて(委任状)
- [第2回 令和3年5月6日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第1回)

【審議事項】

- 1. 各学部・研究科等における FD・SD 取組を推進する組織の活動について
- 2. 令和3年度FDフォーラム・FD学習会・新任教員FD研修会年間予定について
- 3. 令和3年度前期授業改善アンケートについて

【報告事項】

- 1. 大学教育開発センター委員会専門委員会の分担について
- 2. 令和3年度大学院生研究助成(A)・(B)の審査担当について
- 3. 令和3年度大学院生研究助成(A)・(B)の申請状況、審査スケジュールについて

• [第3回 令和3年6月3日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第2回)

【審議事項】

- 1. 大学院生研究助成の採択者の決定について
- 2. 令和3年度大学教育開発センター委員会刊行物の発刊について
 - (1) 刊行物(名城大学教育年報、名城大学 FD·SD 活動報告書)の発刊について
 - (2)「各学部・研究科等における FD・SD 取組を推進する組織の活動報告」について
- 3. 令和3年度教育年報投稿(教育実践報告)原稿の募集について
- 4. 令和4年度入学前オリエンテーション及びMECプログラムについて

【報告事項】

1. 令和3年度入学前オリエンテーション及びMECプログラム実施結果について

【その他】

- 1. 令和3年度新任教員FD研修会について
- [第4回 令和3年7月1日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第3回)

【審議事項】

- 1. 第13回 FD 学習会の実施について
- 2. 第14回 FD 学習会・新任教員 FD 研修の実施について
- 3. 令和4年度 入学前オリエンテーションについて
- 4. 令和 4 年度 MEC プログラムについて
- [第5回 令和3年7月30日(金)](メール開催)

【審議事項】

1. 第15回 FD 学習会の実施について

【報告事項】

- 1. 第13回 FD 学習会の実施報告について
- [第6回 令和3年9月2日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第4回、第5回)

【審議事項】

- 1. Campusmate-Jのアクセス権限付与の依頼について
- 2. 令和3年度後期 名城サプリメント教育・学習サポートルームの実施について
- 3. FD に係る学生意見聴取の実施について

【報告事項】

- 1. 学修ポートフォリオの運用について
- 2. 令和3年度前期 名城サプリメント教育の実績報告について
- 3. 令和3年度前期 学習サポートルームの実績報告について
- 4. 令和3年度前期授業改善アンケート集計結果報告について
- 5. 第14回 FD 学習会・新任教員 FD 研修会 アンケート結果報告について
- [第7回 令和3年10月7日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第6回)

【審議事項】

- 1. 令和3年度教育功労賞の募集について
 - (1) 内容・スケジュールについて
 - (2) 審査に係る申し合わせ事項について
- 2. 各学部・研究科等における FD・SD 活動報告(中間)の作成について
- 3. 令和4年度学修成果の可視化に係る外部調査実施の希望聴取について
- 4. 令和3年度後期授業改善アンケートの実施について
- 5. 第23回 FD・SD フォーラムの開催について
 - (1) 企画の名称変更について
 - (2) 企画内容について
- 6. FD ニュースの発刊について

【報告事項】

- 1. 令和3年度前期授業改善アンケート結果報告について
- 2. 第15回 FD 学習会の実施報告について
- 3. 令和 4 年度 MEC プログラムについて
- 4. 令和4年度入学前オリエンテーションについて
- 5. FD に係る学生意見聴取の実施について
- 6. 高等教育局主要事項 令和 4 年度概算要求 について
- [第8回 令和3年11月2日(火)](メール開催)

【確認事項】

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第7回)

【審議事項】

なし

【報告事項】

- 1. 令和 4 年度 入学前学習プログラム (MEC プログラム) について
 - (1) 英語科目の名称について

- (2) 入学前学習プログラム (MEC プログラム) ご案内について
- 2. 令和4年度 学修成果の把握に係る外部調査実施の希望聴取結果について
- 「第9回 令和3年12月2日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第8回)

【審議事項】

1.「講義収録サービス」を利用した FD 動画の視聴方法及び参加(視聴)報告書の提出 について

【報告事項】

- 1. 後期授業改善アンケートについて
- 2. 教育年報投稿結果及び原稿確認依頼・今後のスケジュールについて
- 3. FD·SD 取組を推進する組織の活動報告(中間)について
- 4. FD に係る学生意見聴取の実施結果について
- 5. 第23回 FD・SD フォーラムの実施報告について
- [第10回 令和4年1月6日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第9回)

【審議事項】

- 1. 令和3年度教育功労賞審査について
- 2. 教育年報について
- 3. 授業改善アンケート結果データの利用願いについて(理工学部)
- 4. FD ニュース Vol.16の発刊について

【報告事項】

- 1. 令和3年度後期授業改善アンケートの実施報告(中間)について
- 2. 大学コンソーシアム京都「第27回 FD フォーラム」の開催案内について
- [第11回 令和4年3月3日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第10回)

【審議事項】

- 1. 令和4年度名城サプリメント教育及び学習サポートルームの実施について
- 2. 令和4年度学習サポートルーム相談員の募集について

【報告事項】

- 1. 令和3年度後期名城サプリメント教育の実績報告について
- 2. 令和3年度後期学習サポートルームの実績報告について

- 3. 令和4年度入学者向け入学前オリエンテーションの報告について
- 4. 令和 4 年度入学者向け MEC プログラム受講者数の報告について
- 5. 大学教育開発センター刊行物の編集状況について
 - (1) 名城大学教育年報
 - (2) FD·SD 活動報告書
- 6. 学修成果の可視化に係る外部調査の予算配布について
- 7. 令和3年度後期授業改善アンケートの実施報告について
- 8. 令和3年度大学教育開発センター委員会の活動報告について

3. 令和3年度 FD·SD活動一覧

令和3年度 FD·SD活動一覧

1. 第23回 FD・SD フォーラム

日 時:令和3年11月4日(木)13:30~16:00

開催方法: Zoom によるオンライン開催

基調講演テーマ:内部質保証の実質化と恒常化を目指して

基調講演講師:田代守氏(公益財団法人 大学基準協会 評価研究部 部長)

事例報告テーマ:プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証

事 例 報 告 講 師: 栗本 英和 氏(名古屋大学 教養教育院 教授·副院長(質保証担当))

参加者数:193人

2. 第13回~第15回 FD 学習会·第3回新任教員 FD 研修会

(1) 第13回 FD 学習会

日 時:令和3年7月20日(火)13:00~14:00

開催方法: Zoom によるオンライン開催

テ - マ:数理・データサイエンス・AI教育の必要性と実践

講師:齊藤公明教授(名城大学 理工学部)

参加者数:95人

(2) 第14回 FD 学習会·第3回新任教員 FD 研修会

日 時: 令和3年8月25日(水)13:30~14:45

開催方法: Zoom によるオンライン開催

テーマ:大学で教えるためのルーブリック(基礎編)

講 師:加藤 真紀 教授(名古屋大学 高等教育研究センター)

参加者数:60人

(3) 第15回 FD 学習会

日 時:令和3年9月2日(木)10:00~11:30

開催方法:Zoomによるオンライン開催

テーマ:大学の授業運営における著作権への考え方について

講師:木村 友久 教授(帝京大学 共通教育センター センター長)

参加者数:124人

3. 令和3年度前・後期授業改善アンケート

実施期間:前期…令和3年7月1日~令和3年7月27日

後期…令和3年12月13日~令和4年1月15日

対 象 科 目:学部の授業を担当する専任教員及び非常勤講師について、原則1人1科目以上対象

科目を持つこととし、昨年度(令和2年度)前・後期にアンケートを実施した授業

科目を中心として対象科目を設定した。昨年度の対象科目がない場合は、担当授業

科目のうち、最も履修者数が多いものを対象科目とした。(ただし、体育科目、オムニバス形式の科目、実験・実習・演習科目、履修者数が10名未満の科目は除く)

実施科目数:前期786科目(学生回答数:延べ32,603件) 後期765科目(学生回答数:延べ25,015件)

概 要:学生の視点から授業改善の手がかりを探り、授業改善につなげることで教育の質を 向上させることを目的に実施した。

アンケートは LMS である WebClass 上で実施。集計結果は教員個人にフィードバックするほか、分析結果を報告書としてまとめ、学内及びホームページにて公開している。

4. 名城大学 FD NEWS

(Vol.15) 発刊日:令和3年10月

内 容: ~ルーブリックとは何か~

- (1) ルーブリックについて
- (2) FD 学習会「大学で教えるためのルーブリック【基礎編】」の概要について
- (3) 前期授業改善アンケート
- (4)刊行物の紹介
- (5)書籍の紹介

(Vol.16) 発刊日:令和4年1月

内容:~第三期認証評価の受審に向けて~

- (1) 第三期認証評価について
- (2) FD・SDフォーラム「内部質保証の実質化と恒常化を目指して」の概要について
- (3) 大学教育開発センターの学生支援
- (4)刊行物の紹介

5. 名城大学教育年報 第16号発刊

発刊日:令和4年3月

投稿資格:名城大学の教職員(教員・事務職員)。本大学の教育に携わる他大学等の教育職員(非 常勤講師)の投稿も可。退職者については退職後3年以内を目安とする。

概 要:本学における教育活動の研究・実践活動を共有・蓄積し、広く教育の質の向上に資することを目的として、教育実践報告を募集、教育功労賞受賞者による特別寄稿を依頼した。投稿・寄稿された原稿は、大学教育開発センターの専門委員会委員によるチェックを経たうえで、本学ホームページ上に掲載する。教育年報の種別・内容等は次のとおりである。

区分	令和3年度件数	内容等
特別寄稿	3件	教育功労賞受賞者による特別寄稿
教育実践報告	5件	教育実践を対象とした取り組みで、本学及び他大学の学部・研究科・ センター・部署の参考になる報告

6. 令和3年度FD·SD活動報告書発刊

発刊日:令和4年3月

概 要:令和3年度の本学におけるFD·SD活動についてまとめたもの。本学ホームページ

上に掲載する。

7. 教育功労賞表彰

概 要:教育功労賞は、教職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的とし、各学部及び研究科等において、教育活動及び教育改善に大きく貢献した専任教員またはグループ(事務職員を含む)に授与するもの。令和3年度は計1件の申請があり、大学教育開発センター委員会による審査を経て、大学協議会で協議の結果、相応しい内容であることから、表彰すると共に本報告書に活動内容を記載し、周知を図ることとする。

令和3年度教育功労賞受賞一覧

候補者等氏名	所属学部	推薦対象となった活動・テーマ
佐藤 布武	理工学部	名城大学建築学科・大学院建築学専攻 優秀作品集

8. 令和3年度学外セミナー・研究集会等への派遣

【大学教育開発センター把握分のみ掲載】

No.	開催日	企画名称	主催機関	派遣人数
1	令和3年 4月19日	GPS×学内データ可視化セミナー	株式会社ベネッセiキャリア 大社接続事業本部	3名
2	5月7日	これからの数理・データサイエンス・AI教育を考える会	株式会社ベネッセコーポレーション	5名
3	6月4日	2021年度帝京大学八王子キャンパス第 1 回 FD フォーラム	帝京大学高等教育開発センター	6名
4	6月5日 ~6日	大学教育学会第43回大会	一般社団法人大学教育学会	1名
5	8月5日	第8回 大学・専門学校 教職員対象オンライン配信セミナー	株式会社ナガセ	1名
6	8月6日	数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 2021年度関東・首都圏ブロック第 2 回ワークショップ	数理・データサイエンス 教育強化拠点コンソーシアム	9名
7	8月20日	大学・短期大学スタディー・プログラム(テーマ1)	公益財団法人 大学基準協会	5名

No.	開催日	企画名称	主催機関	派遣 人数
8	8月24日	オープンバッジ活用事例セミナー:関西学院大学	一般財団法人 オープンバッジ・ネットワーク	4名
9	8月25日	2021年度 ICT 利用による教育改善研究発表会	公益社団法人 私立大学情報教育協会	2名
10	8月28日	IR フォーラム	共同開催 公益財団法人 大学コンソーシ アム京都 株式会社リアセック	1名
11	10月9日	数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 総会及び公開シンポジウム	数理・データサイエンス 教育強化拠点コンソーシアム	3名
12	9月13日	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」における説明会	文部科学省高等教育局専門教育課	4名
13	9月21日	多摩大学 IR セミナー	多摩大学 IR 推進室	1名
14	9月28日	これからの数理・データサイエンス・AI教育を考える会	株式会社ベネッセコーポレーション	1名
15	10月14日	Society5.0における高等教育について	文部科学省高等教育局専門教育課	1名
16	10月29日	教育の質保証・質向上オンラインセミナー	株式会社朝日ネット	1名
17	11月1日	大学改革シンポジウム	一般社団法人国立大学協会	2名
18	11月11日	数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 第2回中部・東海ブロック会議	滋賀大学	2名
19	11月18日	東海デジタル人材フォーラム2021 一地域 DX 人材の育成に向けて―	東海国立大学機構教育基盤統括本部 (アカデミック・セントラル) シームレス数理・データ科学教育共創部門	6名
20	11月30日	数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 中部・東海ブロック第3回FD研究会	滋賀大学	2名
21	12月17日	2021年度東海地区大学教育研究会代表者会及び研究大会	東海地区大学教育研究会	5名
22	12月24日	令和3年度名古屋市立大学 FD・SD 講演会 -名古屋六大学共催 -	名古屋市立大学	3名
23	令和 4 年 1 月18日	2021年度第5回アカデミック・リンクセミナー	千葉大学	3名
24	1月26日	数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 関東・首都圏ブロック第7回ワークショップ	数理・データサイエンス 教育強化拠点コンソーシアム	1名
25	1月26日	数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 中部・東海ブロック第4回 FD 研究会	滋賀大学	5名
26	2月9日	応用基礎レベル認定制度 Q&A 会	数理・データサイエンス 教育強化拠点コンソーシアム	4名
27	2月19日,20日 26日,27日	2021年度 第27回 FD フォーラム	大学コンソーシアム京都	5名
28	2月25日	FD のための情報技術研究講習会	私立大学情報教育協会	1名
29	3月3日	第11回大学評価シンポジウム	公益財団法人 大学基準協会	1名
30	3月5日	大学教育改革フォーラム in 東海2022	大学教育改革フォーラム in 東海 2022実行委員会	8名

4. 令和3年度正課外教育活動一覧

令和3年度正課外教育活動一覧

1. 令和 4 年度入学者向け 入学前オリエンテーション

(1) 概要

・対象者:総合型選抜、学校推薦型選抜、特別入試の合格者を対象とし、以下の方法で実施。

・視聴・出席人数:826名(令和4年2月4日時点)

学部名	期間	方法	参加者人数
法 学 部	12/9 ~ 3/31	学部 HP	88名
経 営 学 部	12/9 ~ 3/31	YouTube	114名
経済学部	12/9 ~ 3/31	YouTube	118名
理工学部	12/9 ~ 3/31	YouTube	162名
情報工学部	1/8	Zoom	53名
農学部	1/8	Zoom	68名
薬 学 部	12/9 ~ 3/31	YouTube	44名
都市情報学部	12/9 ~ 3/31	YouTube	55名
人 間 学 部	12/9 ~ 3/31	YouTube	57名
外国語学部	1/8	Zoom	67名

(2) アンケート結果

質問1. 入学前オリエンテーションの内容はわかりやすかったですか?

	法学部	経営	経済	理工	情報工	農学部薬学	薬学部	都市情報	人間	外国語
	太子 部	学部	学部	学部	学部			学部	学部	学部
とてもわかりやすかった	60.2%	63.2%	66.1%	67.3%	66.7%	64.7%	81.8%	72.7%	68.4%	76.1%
わかりやすかった	38.6%	36.0%	33.1%	32.7%	33.3%	35.3%	18.2%	27.3%	31.6%	22.4%
あまりわからなかった	1.1%	0.9%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%
わからなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 2. 入学前オリエンテーションの視聴・参加を終え、あなたご自身に当てはまることを教えてください(複数選択可)

	法学部	経営	経済	理工	情報工	農学部	薬学部	都市情報	人間	外国語
	12. 7 21	学部	学部	学部	学部	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	210 0 111	学部	学部	学部
学部・学科のカリキュラム について理解できた	76.1%	79.8%	79.7%	65.4%	72.7%	73.5%	90.9%	80.0%	45.6%	83.6%
大学と高校の違いについて 理解できた	69.3%	78.9%	65.3%	80.9%	33.3%	69.1%	50.0%	69.1%	63.2%	58.2%
先輩や大学の雰囲気をつか むことができた	18.2%	17.5%	9.3%	23.5%	27.3%	19.1%	15.9%	47.3%	68.4%	73.1%
大学生活でやりたいことを 考えるようになった	47.7%	35.1%	37.3%	36.4%	36.4%	41.2%	31.8%	49.1%	38.6%	61.2%
大学入学前に、高校までの学 習の復習が必要だと感じた	67.0%	73.7%	66.1%	77.8%	48.5%	79.4%	86.4%	72.7%	86.0%	74.6%
その他	0.0%	0.0%	1.7%	0.6%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%

2. 令和 4 年度入学者向け入学前学習プログラム (MEC プログラム)

(1) 概要

本学の総合型選抜、学校推薦型選抜、特別入試に合格後、学習習慣を維持するとともに、入学 後に大学での学習を円滑に開始するための一助とすることを目的とした教育プログラム。「共通 課題」、「通信教育教材」、「自己学習テキスト」で構成されている。

◆ MEC プログラム学部別開講科目一覧 【表の見方】◎ · · · 学部推奨 ○ · · · 開講

	学	部別開講科目	法	経営	外国語	人間	都市情報	情報工	理工	農	薬
科目 学習内容 (概要)			学部	学部	学部	学部	学部	学部	学部	学部	学部
1	日本語表現	大学で必要となる 「読む・書く」の基本	0	0	0	0	0	0	0		
	英語の基礎	高校で学ぶ英文法基礎 (英検3級〜準2級)	0	0		0	0	0	0	0	
英語	Reading I (初級)	平易な中文・長文読解 (英検準2級~2級)	0	0		0	0	0	0	0	
	Reading II (中級)	中文・長文読解等 (英検 2 級)	0	0	0	0	0	0	0	0	
	数学(文系)	数Ⅰ A、数Ⅱ B まで 四則計算、統計等	0	0		0	0				
数学	数学(理系) <基礎>	三角関数、微積等数Ⅰ・Ⅱが 不得意な人						0	0	0	
学	数学(理系) <応用>	三角関数、微積等基礎力を 高めたい人						0	0	0	
	数学 (薬)	数Ⅱ・数Ⅲ、関数の極限・ 微積等									0
	物理 (理系) <基礎>	力学・運動方程式等 物理基礎が未履修・不得意な人						0	0	0	
物理	物理(理系) <応用>	力学・運動方程式等 基礎力を高めたい人						0	0	0	
	物理(薬)	力学・運動方程式等									0
化学 電子配置・化学結合等								0	0		
	生物	細胞・遺伝子・呼吸等								0	0

^{※1} 上記から2科目選択。

^{※2} 経済学部は、MEC プログラムは未開講(学部独自の入学前教育を実施)。

(2) 受講者の選択科目状況(令和4年2月4日時点)

	兴		₩	○#±**	中江李			選択された	2科目※2		
	学部名		対象者数	受講者数	申込率	日本語表現	英語	数学	物理	化学	生物
法	学	部	251名	142名	56.6%	88.0%	97.2%	14.8%	_	_	-
経	営学	部	218名	129名	59.2%	55.0%	89.9%	55.0%	_	_	-
理	工 学	部	472名	233名	49.4%	6.0%	23.6%	74.7%	83.3%	12.4%	-
情報	報工学	色部	89名	39名	43.8%	10.3%	23.1%	82.1%	84.6%	-	-
農	学	部	187名	68名	36.4%	1	50.0%	2.9%	14.7%	77.9%	54.4%
薬	学	部	71名	59名	83.1%	-	_	79.7%	86.4%	_	33.9%
都市	方情報 ⁴	学部	103名	69名	67.0%	52.2%	85.5%	62.3%	_	_	-
人	間学	部	109名	57名	52.3%	64.9%	77.2%	57.9%	_	_	-
外	国語学	生部	99名	39名	39.4%	100.0%	100.0%	_	_	_	_
合		計	1599名	835名	52.2%	326名	494名	423名	288名	82名	57名

^{※1} 経済学部は学部独自の入学前教育を実施

※2 科目は英語で3種類、数学で4種類、物理で3種類のレベルがあるが、1科目として集計

(3) 実施内容

課題区分		ご自宅到着予定日	提出締切日	返却予定日			
共通課題		12/20 (月) ~	1/25 (火)	2/25(金)~			
通信教育			第1回:2/9 (水)	第1回:2/25(金)~			
教 材	2 ≠1	4	第2回:2/16(水)	第2回:3/5 (土)~			
(3回分)	科目選	2/2 (水) ~	第3回:2/24(木)	第3回:3/12(土)~			
自己学習テキスト			提出不要 (日本語表現選択者のみ提出有) 3 /18 (金) 締め切り				

3. 名城サプリメント教育

(1) 概要

本学の専門教育を履修する上で特に重要な内容であるにもかかわらず、高等学校段階において 未履修、もしくは学習が不十分な教科・科目について補習を行い、正課における学修の充実を図 る教育プログラム。

≪開講科目≫

科目名称		開講期	・曜日・時間(キャンパス)	実施回数	参加者数※
	前期	水曜日	16:30~18:00 (天白)	12回	11名
日本語表現	月17六月	木曜日	16:30~18:00 (ナゴヤドーム前)	11回	0名
口平时红坑	丝 詽	水曜日	16:30~18:00 (天白)	13回	13名
	後期	木曜日	16:30~18:00 (ナゴヤドーム前)	12回	0名
化学	前期	月曜日	16:30~18:00 (天白)	14回	30名
16 +	後期	月曜日	16:30~18:00 (天白)	13回	12名
生物	前期	木曜日	16:30~18:00 (天白)	13回	16名
生 物	後期	木曜日	16:30~18:00 (天白)	12回	12名
数 学	前期	月曜日	16:30~18:00 (天白)	14回	39名
女 子	後期	月曜日	16:30~18:00 (天白)	13回	58名
物理	前期	火曜日	16:30~18:00 (天白)	14回	58名
物理	後期	火曜日	16:30~18:00 (天白)	13回	75名
薬学部向け物理	前期	金曜日	16:30~18:00 (八事)	10回	591名

※参加者数は延べ人数

≪実施期間≫

前期: 令和 3 年 4 月 14 日 \sim 7 月 27 日 後期: 令和 3 年 9 月 21 日 \sim 12 月 24 日

% 5/19~ 6/20については、原則遠隔授業となったことにより Zoom(薬学部向け物理)・ WebClass での資料掲載での対応

※ WebClass で実施した科目については、半期内資料閲覧可能

4. 学習サポートルーム

(1) 概要

主に学部生の学びに関する相談を受け付ける窓口。大学教育開発センター委員会にて選考した 大学院生を在室させ、時間割を組むことにより、授業時間中は安心して相談できる体制を構築し ている。

令和 3 年度は、 $5/19 \sim 6/20$ の期間において原則遠隔授業となったことにより、全て Zoom にて実施した。6/21以降は対面相談、Zoom による遠隔相談を選択できる形で実施した。

≪開室時間帯≫

天白キャンパス	月~金 10:50~16:20
ナゴヤドーム前 キャンパス	月 13:10~16:20 (5/14まで12:30~14:40) 木 10:50~14:40 (5/15より開室) 金 10:50~16:20 (5/14まで10:50~14:40)

(2) 利用者数延べ数

天白キャンパス	前期(令和3年4月14日~7月27日)	17名
ZG4 Y Z ZZ	後期(令和3年9月21日~12月24日)	24名
ナゴヤドーム前	前期(令和3年4月14日~7月27日)	12名
キャンパス	後期(令和3年9月21日~12月24日)	0名

(3)相談内容(利用実績)

- レポート・卒業論文に関する相談
- 計算問題に関する相談
- 学習計画に関する相談

5. 令和3年度 各学部・研究科等における FD・SD活動報告

各学部・研究科等における FD・SD 取組を推進する組織一覧

学部	推進組織名	推進組織構成メンバー
法学部	FD·SD 委員会	法学部長、協議員、大学教育開発センター委員 (教務委員、学生委員の兼任を含む)、FD・SD 委員
法学研究科	FD·SD 部会	修士課程部会および博士後期課程部会構成員全員
経営学部	GP等教育支援プロジェクト 委員会・経営学部FD・SD 委員会	経営学部長、経営学部協議員、経営学科長、国際経営学科長、 キャリア委員、教務委員、FD 委員、担当委員
経営学研究科	教育制度改革委員会	経営学研究科長、主任教授、経営学部協議員、経営学研究科 長が指名した者
経済学部	経済学部 FD・SD 委員会	経済学部長、協議員、経済学科長、産業社会学科長、教務委員
経済学研究科	経済学研究科 FD·SD 委員会	研究科長、主任教授、研究科委員
理工学部	理工学部 教育改善委員会	委員長、学科委員(11名)、教養教育委員、物理教室委員、 教務委員長、学部評価副委員長、大学教育開発センター委員 (2名)、事務職員(2名)
理工学研究科	理工学研究科 教育改善委員会	委員長、専攻委員(11名)、教養教育委員、物理教室委員、 教務委員長、学部評価副委員長、大学教育開発センター委員 (2名)、事務職員(2名)
農学部	農学部 FD・SD 委員会	農学部 FD・SD 委員を中心とする農学部関係教職員 (生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の各学科 会議および農場教員会議を分科会と位置づける)
農学研究科	農学研究科 FD・SD 委員会	農学研究科大学院運営委員会(農学研究科主任教授、農場長、生物資源学科長、応用生物化学科長、生物環境科学科長、農学部学務担当職員で構成)
薬学部	薬学部 FD・SD 委員会	FD・SD 委員長、協議員、教務委員長、学生委員長、就職委 員長、国試・CBT 対策委員長、教育開発センター長、教務 係事務職員1名
薬学研究科	大学院薬学研究科 FD·SD 委員会	薬学研究科主任教授、FD・SD 委員 2 名、大学院担当事務職 員 1 名。委員長は薬学研究科主任教授を充てる。
都市情報学部	都市情報学部 FD·SD 委員会	委員長、委員2名、担当事務職員1名
都市情報学研究科	大学院学務委員会	委員長(主任教授)、委員4名、担当事務職員1名
人間学部	人間学部 FD・SD 委員会	FD·SD 委員長、FD·SD 委員 (4名)、教務事務職員1名
人間学研究科	人間学研究科 FD·SD 委員会	FD·SD委員長(主任教授)、FD·SD委員(3名)、教務事務職員1名
外国語学部	外国語学部 FD・SD 委員会	FD·SD 委員会委員長、FD·SD 委員会委員(4名)
総合学術研究科	総合学術研究科教育検討部会	◎景山伯春教授 ○伊藤康児教授 衣斐大祐准教授志村ゆず准教授 神藤定生准教授
教職センター	教職センターFD 推進委員会	曽山和彦 (教授・教職センター) 竹内英人 (教授・大学教育開発センター委員会委員)

FD·SD 活動報告

学部・研究科・センター(法学部)

1. 令和3年度の活動報告

令和3年度においては前年度と同様、「学生の現況にかかる情報、ならびに授業運営の知識と 経験の共有化を図ることで、教育の改善と充実を目指す」という活動目標を掲げ、それを実施し た。ただし新型コロナウイルスの影響により前期の活動を制約せざるを得ず、結果として活動が 後期に集中することになってしまったことは否めない。

また、対面での活動を抑制する必要があることから、従来の活動の形態を変更する必要に迫られたものも多かった。対面と遠隔では得られる効果に大きな違いがあり、その調整が必ずしもうまくいかなかったことは大きな反省材料である。

なお、前年度から「内部質保証」の取り組みとして、成績評価基準に関する検討を行うようになった。今年度からは検討のポイントをより明確にしたことで、意識の浸透も進んだのではないかと考えている。

以下、取り組みについて具体的に報告する。

1) 初年次教育研究会の開催(FD/SD)

法学部では、質の高い初年次教育のあり方を集中的に議論するための研究会(初年次教育研究会)を6年前から定期的に開催しており、一定の成果を挙げている。第1回会合では、a)初年次生の文章作成能力の現状分析とその結果の共有、b)得られた知見を授業へフィードバックする方法の検討、c)GPS-Academicを用いた学生の能力把握とそれに基づく初年次教育の手法の構築、というテーマについて議論を重ねた(12/9開催)。また、第2回会合では、上記 a に加え、初年次教育の中核に位置付けられている「法学入門」の講義のあり方について意見を交換した(3月開催予定)。【←①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善、②内部質保証、③その他学部独自の取組(SD 含む)】

2) 小論文課題の実施と講評会の開催 (FD)

「学びのコミュニティ創出支援事業」と連動させる形で、初年次生を対象にした小論文課題を10 月下旬から実施しており、その講評会を1/7に開催した。【←③その他学部独自の取組(SD含む)】

3) 外部機関を用いた学生意識調査の実施(FD/SD)

大学教育開発センターの協力を得て、ベネッセ i キャリアが提供する GPS-Academic を $4 \sim 6$ 月にかけて実施しており、WebClass を用いてこのテストの意義と大学での学びにそれをどう生かすかに関するオンライン講演会を開催した。また、12月にはこの調査によって得られたデータをより精緻に分析した結果にかかる会合を開催した(12/9 開催)。【 \leftarrow ①学生の学修成果を可

4) 成績評価の平準化について (FD/SD)

学部にかかる授業科目の GP 分布を算出し、現状について周知を行った。その際、履修者数に着目して分析を行うことで、履修者数が多い科目ほど遠隔授業において成績評価が上振れする傾向にあることが分かり、特にこの点に関しての問題意識を共有した。【←①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善、②内部質保証】

2. 今後の課題、方向性

本学部においては、とりわけ初年次教育研究会を中心とした FD/SD 活動が定着しつつあり、 教員間の授業運営にかかる意識と知識の共有はかなりの程度において進んできている。ただし新型コロナウイルス問題の影響は大きく、従来の対面を前提とした FD/SD 活動では不十分ではないかという問題意識を有している。

そこで次年度は、従来通り学修成果の検証にかかる取り組みに特に重点を置きつつも、対面と 遠隔の効果の違いについての検証をより一層進めたいと考えている。とはいえ、基本的には大き く体制を変化させることなく、これまでの成果をさらに発展させる方向での活動を行いたい。

3. 活動記録

田	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和3年 4月1日~5月30日	GPS-Academic の実施	FD·SD	【実施主体】 FD·SD 委員会
2	令和3年7月1日	GPS-Academic の結果を学びにどう 生かすかにかかる学生向けオンライ ン講演会の実施	FD	【実施主体】 FD·SD 委員会
3	令和3年9月16日	成績基準の平準化にかかる会合の実施	FD·SD	【出席者】伊川、伊藤(亮)、植木、仮屋、河北、川元、近藤、佐藤、庄村、髙松、二本柳、野上、野口、日比野、平井、前田、松田(恵)、松本、柳澤(武)、柳沢(雄)、吉行、渡邊、高橋、田中、山田、足立、川原、川元、北見、久米、笹岡、代田、杉浦、滝谷、仁井田、萩野、長谷川、松田(真)、山口、小山田、仲
4	令和3年12月9日	第1回初年次教育研究会の実施	FD·SD	【出席者】足立、伊川、植木、河北、川原、仮屋、川元、北見、久米、庄村、代田、高橋、仁井田、野口、萩野、長谷川、松田(真)、松本、山口、柳澤(武)、柳沢(雄)、渡邊
5	令和4年1月7日	小論文講評会の実施	FD	【実施主体】 FD·SD 委員会

耳	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
6	令和4年3月11日	第2回初年次教育研究会の実施	FD·SD	【出席者】伊川、植木、河北、仮屋、 北見、久米、近藤、佐藤(一)、 庄村、代田、滝谷、仁井田、野口、 平井、前田、松本、山口、柳澤(武)、 柳沢(雄)、山田、渡邊、武末

学部・研究科・センター (法学研究科)

1. 令和3年度の活動報告

従来、法学研究科においては、研究科の運営に関する議論と FD・SD 活動との区別は必ずしも明確なものではなかった。これを改めるべく、令和3年度から、新たに「大学院委員会」と「FD・SD 研究会」を発足させた。3ポリシーの検討・これに基づく研究科の運営(教務・入試など)・関連する制度の検討や見直しについては、「学部等評価委員会」または「大学院委員会」で予備的な審議を行った上で、従来どおり「研究科委員会」で審議を行うこととした。これとは別に、「教育の質保証」やコースワーク・リサーチワークに関する各教員の取り組みなど、純粋に FD・SD 活動に分類される内容について、「FD・SD 研究会」で情報の共有や検討を行うこととした。

以下は、この「FD·SD研究会」の記録のみを報告する。

2. 今後の課題、方向性

今年度のFD·SD研究会で明らかになった課題は、何より、各教員による教育活動の改善に 資することが期待される。加えて、研究科全体の運営に関わる課題については、翌年度の事業計 画書に反映させ、翌年度に順次、「学部等評価委員会」または「大学院委員会」での審議を経て、 「研究科委員会」で審議する。

FD・SD活動自体の課題としては、第1に、今年度に続き来年度も、適宜「FD・SD研究会」を開催し、「教育の質保証」や各教員の教育活動に関する情報と課題の共有を行う。第2に、平成31年度より変更となった博士後期課程のカリキュラム(コースワークとリサーチワークの区分の明確化を柱とする)が、令和3年度をもって完成年度を迎えるため、翌令和4年度に、その効果を検証する。

田	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和3年9月30日	第1回 FD・SD 研究会 ・修士課程のコースワークについて ・大学院の教育の質保証について	FD·SD	伊川、伊藤(亮)、植木、仮屋、河北、川元、近藤、佐藤、庄村、高松、二本柳、野上、野口、日比野、平井、前田、松田(恵)、松本、柳澤(武)、柳沢(雄)、吉行、渡邊、北見、代田、杉浦、川原、滝谷、仁井田、萩野、長谷川、松田(真)、山口
2	令和3年11月25日	第2回FD・SD研究会 ・カリキュラムポリシー ・ディプロマポリシーとシラバス ・修士課程のリサーチワーク:修士 論文報告会の定例化 ・博士後期課程のコースワーク(平成31年度導入)とリサーチワーク ・その他「大学院教育・研究の質保証」	FD·SD	伊川、伊藤(博)、植木、仮屋、河北、川元、近藤、佐藤、庄村、高松、二本柳、野上、野口、日比野、平井、前田、松田(恵)、松本、柳澤(武)、柳沢(雄)、吉行、渡邊、北見、代田、杉浦、川原、滝谷、仁井田、萩野、長谷川、松田(真)、山口
3	令和4年2月16日	第3回 FD・SD 研究会 予定している議題:修士論文審査結 果及び修了判定の検討	FD·SD	伊川、伊藤(亮)、植木、仮屋、河北、川元、佐藤、髙松、二本柳、野上、野口、日比野、平井、前田、松田(恵)、松本、柳澤(武)、柳沢(雄)、吉行、渡邊、北見、代田、杉浦、川原、滝谷、仁井田、萩野、長谷川、松田(真)、山口

学部・研究科・センター(経営学部)

1. 令和3年度の活動報告

- ①学修成果を可視化する取組
 - ・2021年度第1回経営学部 FD・SD 研修会において、本年度も「学修成果可視化の外部調査 (PROG テスト)」の実施を決定した。
 - ・2021年度第3回経営学部FD・SD研修会において、「学修成果可視化の外部調査 (PROG テスト)」の実施形態、実施体制と役割分担、受験対象、周知方法について決定した。
 - ・経営学部懇談会の援助によって、簿記・情報処理・TOEIC 他の各種資格取得を促している。
 - ・専門ゼミナール単位での、インゼミ他に参加することを支援している。

②学部独自の取組

- (i) 学生の主体的な学びに関する取組、かつ、多様な学修経験に関する取組
 - ・「学びのコミュニティ創出支援事業」の資金的支援によって、「ビジネスモデル」の構築能力 の形成、「会計実務能力」の形成などの事業を実施した。ただし、今年度前期は、新型コロ ナウイルス感染拡大によって、大きな影響を受けることになった。
 - ・FSP 講座を 4 社の協力により「基礎ゼミナール」(1 年配当) 4 クラスで実施した。
- (ii)カリキュラム改正検討委員会の設置
 - ・現行カリキュラムの問題点を検討し、より質の高い教育を可能とするカリキュラムの策定を 行うためにカリキュラム改正検討委員会を設置し、議論を進めている。

2. 今後の課題、方向性

名城大学および経営学部が目指す「生涯学びを楽しむ」「学びのコミュニティを創り広げる」ため、継続的な産学連携を可能とする(特定の個人に依存しない)制度的な受け皿の形成が課題となっている。そして、学部の取組については、今後もPDCAサイクルを推進する組織として、FD・SD委員会とGP等教育支援プロジェクト委員会を一体化し、実学としての経営学部の教育についてFD活動を進めていく。

同委員会は、学部長・協議員・両学科長・キャリア委員・教務委員・FD委員(オブザーバーとして事務長)をメンバーとして、毎月1回の開催を目安に招集し、その都度、学部のGP/FD・SD活動の年度計画のPDCA活動を行うとともに、教授会開催前に、全構成員で教育改善のための議論を行っている。

回	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者		
1	【教授会】 第1回 令和3年4月8日	障がい等を理由とする修学支援について、情報倫理教育の実施について、「(一社) SCCC・リアルタイム経営推進協議会 JIT 本社力養成スクール」共催について、カリキュラム改正検討委員会報告について、地域経済データ・プラットフォーム活用説明会について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槇野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、田中、西垣、 東田、堀川、堀畑、村松、山岡、 桑島、高山、中川、山本、山田、 木下、榊原(委任者:澤田(貴) には別途資料配布)		
2	【FD·SD研修会】 2021年度 第1回 令和3年4月22日	PROG テストの実施結果について	FD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槇野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、田中、西垣、 東田、堀川、堀畑、村松、山岡、 桑島、高山、中川、山本(委任者: 澤田(貴)には別途資料配布)		
3	【教授会】 第2回 令和3年4月22日	障がい等を理由とする修学支援について、数理・データサイエンス・AI に関連する科目の設置について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槇野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、田中、西垣、 東田、堀川、堀畑、村松、山岡、 桑島、高山、中川、山本、山田、 木下、榊原(委任者:澤田(貴) には別途資料配布)		
4	【FD·SD 研修会】 2021年度 第 2 回 令和 3 年 5 月27日	学びのコミュニティ創出支援事業の支援額について、2020年度自己点検・評価報告書を踏まえた本年度の課題について、「FD·SDを推進する組織」の活動における令和3年度共通課題について、ららぽーと社会連携事業について、「(一社) SCCC・リアルタイム経営推進協議会 JIT 本社力養成スクール キックオフ研修会」、FSPの実施状況について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、橋場、宮崎、柳田、相川、東、五十畑、澤田(慎)、村上、新美、大西、澤田(貴)、西垣、東田、堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、山田、木下、榊原(委任者:長尾、槇野、田中には別途資料配布)		
5	【教授会】 第5回 令和3年6月10日	障がい等を理由とする修学支援につ いて	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 西垣、東田、堀川、堀畑、村松、 山岡、桑島、高山、中川、山本(委 任者:田中には別途資料配布)		
6	【教授会】 第7回 令和3年7月8日	成績不振者の対象基準について、令 和4年度 学位授与方針対応表等を 用いた教育課程の自己点検の実施に ついて	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、山岡、桑島、高山、中川、 山本、深川、木下、榊原		

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
7	【FD·SD研修会】 2021年度 第 3 回 令和 3 年 7 月29日	「ゆとりーとライン活性化プロジェクト」への参加募集について、PROGテストの実施について、FSPの実施状況について	FD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、相川、東、五十畑、澤田(慎)、村上、新美、大西、澤田(貴)、田中、西垣、東田、堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本
8	【教授会】 第8回 令和3年7月29日	2021年度経営学部新規開校科目について((特I) データサイエンス・AI入門)、ゆとりーとライン沿線の魅力発信事業に関する令和3年度連携協定書について、産官学連携「JIT経営本社力養成スクール」例会第1回講座について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、相川、東、五十畑、澤田(慎)、村上、新美、大西、澤田(貴)、田中、西垣、東田、堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下、榊原
9	【FD·SD 研修会】 2021年度 第4回 令和3年9月2日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、橋場、槇野、宮崎、柳田、相川、東、五十畑、澤田(慎)、村上、新美、大西、澤田(貴)、西垣、東田、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本(委任者:長尾、田中、堀川には別途資料配布)
10	【教授会】 第9回 令和3年9月2日	成績不振者の対応について、障がい 等を理由とする修学支援について、 令和4年度 学位授与方針対応表等 を用いた教育課程の自己点検の実施 について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、橋場、槇野、宮崎、柳田、相川、東、五十畑、澤田(慎)、村上、新美、大西、澤田(貴)、西垣、東田、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下、榊原(委任者:長尾、田中、堀川には別途資料配布)
11	【教授会】 第10回 令和3年9月18日	障がい等を理由とする修学支援につ いて	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、宮崎、柳田、相川、東、五十畑、澤田(慎)、村上、新美、大西、澤田(貴)、田中、西垣、東田、堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下、榊原
12	【FD·SD 研修会】 2021年度 第 5 回 令和 3 年10月14日	PROG テストの実施について	FD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、相川、東、五十畑、澤田(慎)、村上、新美、大西、澤田(貴)、西垣、東田、堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下、榊原(委任者:田中には別途資料配布)

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
13	【教授会】 第11回 令和3年10月14日	障がい等を理由とする修学支援について	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 西垣、東田、堀川、堀畑、村松、 山岡、桑島、高山、中川、山本、 深川、木下、榊原(委任者:田中 には別途資料配布)
14	【教授会】 第12回 令和3年10月28日	定期試験監督・補助監督・追試験監 督のあり方について	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槇野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、山岡、桑島、高山、中川、 山本、深川、木下、榊原
15	【教授会】 第13回 令和3年11月11日	「MS-26戦略プラン(部署版)」「2022 年度事業計画書(部署版)」について	FD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、相川、東、五十畑、澤田(慎)、村上、新美、大西、澤田(貴)、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下、榊原(欠席者:堀畑には別途資料配布)
16	【教授会】 第14回 令和3年11月25日	障がい等を理由とする修学支援について、国際 FW2022年度日程について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槇野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 西垣、東田、堀川、堀畑、村松、 山岡、桑島、高山、中川、山本、 深川、木下、榊原(委任者:田中 には別途資料配布)
17	【FD·SD 研修会】 2021年度 第 6 回 令和 3 年12月 2 日	PROGテストの実施とフィードバックの返却について、「輝く女性講演会」の実施について、「マナー講座」の実施について、「キャリア特論」事前説明会について、「ビジネスモデル・ワークショップ(BMW)」の開催について、ららぽーと社会連携事業について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槇野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、堀畑、 村松、山岡、桑島、高山、中川、 山本、深川、木下、榊原
18	【教授会】 第16回 令和3年12月23日	教員業績評価の評価項目・評価基準 等について	FD·SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槇野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 西垣、東田、堀川、村松、山岡、 桑島、高山、中川、山本、深川、 木下、榊原(委任者:田中、欠席 者:堀畑には別途資料配布)

口	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
19	【教授会】 第20回 令和 4 年 2 月28日	ハラスメント防止研修について	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、槙野、宮崎、柳田、 相川、東、五十畑、澤田(慎)、 村上、新美、大西、澤田(貴)、 田中、西垣、東田、堀川、村松、 山岡、桑島、高山、中川、山本、 深川、木下(欠席者:堀畑には別 途資料配布)

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター(経営学研究科)

1. 令和3年度の活動報告

- ①研究科独自の取組
 - ・後期に修士論文事前報告会を実施。

2. 今後の課題、方向性

入学定員確保に向けて、学生確保における日本語運用力問題解決の試みを含め、海外協定校との連携強化および愛知県社会保険労務士会等との連携強化の他、学内の他研究科との連携についても協議する。また、学生の学修成果を可視化する取組として、学部における「学修成果可視化の外部調査(PROGテスト)」の結果を踏まえ、大学院における学修成果可視化の外部調査導入の検討(予算措置含む)を行う。

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和3年4月8日	令和3年度経営学研究科修士課程指導教員について、2021年度(9月)修士学位論文提出要領について、令和3年度経営学研究科博士課程指導教員について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 (慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、 田澤、田代、田中、長尾、西垣、 橋場、東田、宮崎、柳田、山本 (委任者:鳥居、堀川には別途資 料配布)
2	令和3年5月13日	9月修了修士学位論文事前報告会に ついて、令和4年度学位授与方針対 応表等を用いた教育課程の自己点検 の実施について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
3	令和3年5月27日	2021(令和3)年度大学院学業優秀 奨学生候補者の選考について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 (慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、 田澤、田代、鳥居、西垣、橋場、 東田、堀川、宮崎、柳田、山本 (委任者:田中、長尾には別途資 料配布)
4	令和3年6月10日	2021(令和3)年度大学院学業優秀 奨学生候補者の選考について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 (慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、 田澤、田代、鳥居、長尾、西垣、 橋場、東田、堀川、宮崎、柳田 (委任者:田中、山本には別途資 料配布)

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
5	令和3年6月24日	2021年度後期追加(変更)履修登録について、令和3年度(9月修了)修士学位論文審査委員及び審査日程案、2022年度学位授与方針対応表について、2021年度秋季入学生オリエンテーションについて	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
6	令和3年7月8日	2021年度大学院奨学生(特別奨学生)対象者について、2022年度学位授与方針対応表について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
7	令和3年7月29日	令和3年度(9月修了)修士学位論 文審査および修了判定について、 2022年度学位授与方針対応表につい て	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 (慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、 田澤、田代、田中、鳥居、長尾、 西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、 山本(委任者:柳田には別途資料 配布)
8	令和3年9月2日	令和3年度修士学位論文審査日程に ついて	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 (慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、 田澤、田代、鳥居、西垣、橋場、 東田、宮崎、柳田、山本(委任者: 田中、長尾、堀川には別途資料配 布)
9	令和3年9月18日	2021年度修士学位論文提出要領について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 (慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、 田澤、田代、鳥居、西垣、橋場、 東田、宮崎、柳田、山本(委任者: 田中、長尾、堀川には別途資料配 布)
10	令和3年10月14日	2022年度経営学研究科(修士課程)時間割編成について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 (慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、 田澤、田代、鳥居、長尾、西垣、 橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、 山本(委任者:田中には別途資料 配布)
11	令和 3 年10月28日	2022年度経営学研究科(修士課程) 時間割編成について、2021年度経営 学研究科修士学位論文事前報告会 (案)について、令和3年度「学位論 文ワークショップ」の日程等につい て	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 (慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、 田澤、田代、鳥居、長尾、西垣、 橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、 山本(委任者:田中には別途資料 配布)
12	令和3年11月11日	2022年度シラバスの作成について、 「MS-26戦略プラン(部署版)」「2022 年度事業計画書(部署版)」について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本

口	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
13	令和3年11月25日	令和3年度経営学研究科修士学位論 文一覧について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 (慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、 田澤、田代、鳥居、長尾、西垣、 橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、 山本(委任者:田中には別途資料 配布)
14	令和3年12月2日	2022年度新入生オリエンテーション (案) について、2022年度経営学研究 科時間割表(案)、中部地区単位互換 制度について、国公私単位互換制度 について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
15	令和4年1月13日	大学院入学試験出題(採点)委員等 について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 (慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、 田澤、田代、鳥居、長尾、西垣、 東田、宮崎、柳田、山本(委任者: 田中、橋場、堀川には別途資料配 布)
16	令和4年1月22日	2022年度経営学研究科(修士課程) 入学試験判定について、2021年度 修士学位論文審査委員および審査日 程案	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本
17	令和4年2月28日	ハラスメント防止研修について	SD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、宮崎、柳田、山本

学部・研究科・センター (経済学部)

1. 令和3年度の活動報告

2019年度末から新型コロナ感染症がいまだ収束には至っていない中、今年度の活動目標を「"誰一人取り残さない"という考え方で、コロナ禍の状況に対応して、学生に十分な教育を提供する。」とした。

FD に関する全学的な今年度の活動方針である「学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善」については、10月から11月にかけて学部3年生を対象として「大学生調査 ジェイ・サープ」を実施した。この集計結果と「カリキュラムの自己点検・評価のためのダッシュボード」の集計結果をもとに、FD・SD 懇談会にて教育改善について意見交換をして検討した。

SD に関する重点項目としては、「遠隔講義有効活用への対応」を設定した。特に、教室規模と受講学生数との関係で対面授業と遠隔授業を併用で実施している授業における課題と対応について FD・SD 懇談会を開催して 6 名からの話題提供をもとに検討した。

今年度は、学部のFD・SD 懇談会を6回開催した。FD・SD 懇談会としての実施の他にも、教務委員会においてコロナ禍における授業実施方法などについて継続的に検討し、教授会で認識の共有をおこなった。特にコロナ禍において年度始めの導入教育の重要性が増していると考えられるため、教務委員会を中心に次年度の1年生向け新入生ガイダンスと各学年のガイダンスの持ち方について検討して準備を進めている。

この他、大学教育開発センターの主催で開催された第 $13\sim15$ 回 FD 学習会、第23回 FD・SD フォーラムに、それぞれ 1 名から14名の教員が参加した。

2. 今後の課題、方向性

今年度に引き続き、次年度も、コロナ禍という状況の中で学生に必要な教育を提供することを FD・SD 活動においても最優先として対応していく。具体的には学部での FD・SD 懇談会を継続的に開催して情報の収集や意見交換、対応の協議をしていく。一部授業については、次年度も 遠隔授業での実施の可能性もある。そのため授業実施レベルでは、今年度の経験をもとに効果的 な遠隔授業の授業実施方法についての共有をはかる。

学生の学修成果の可視化については、引き続き「大学生調査 ジェイ・サープ」を実施する。 大学で実施する学生アンケートや卒業時アンケートの結果とも合わせて、特に課題を把握することで教育改善につなげていく。

日	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和3年4月22日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇 談会「テーマ:卒業生アンケート結 果について」	FD·SD	李、伊藤(健)、井内、太田、大瀧、 折原、川森、岸川、岸野、斎藤、 佐土井、渋井、神野、杉本、谷村、 名和、西山(賢)、松尾、蓑輪、 焼田、山田、山本、浅岡(23名)
2	令和3年5月24日	経済学部 FD・SD 委員会・経済学研 究科 FD・SD 委員会「テーマ: 2021 年度の FD・SD 活動」(今年度の活動 計画の策定)	FD·SD	新井、伊藤 (志)、伊藤 (健)、折原、 渋井、杉本、名和 (7名)
3	令和3年5月27日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇 談会「テーマ:2021年度の FD・SD 活動」	FD·SD	新井、李、伊藤(健)、井内、太田、 大瀧、折原、勝浦、川森、小泉、 岸川、岸野、斎藤、佐土井、渋井、 神野、杉本、谷村、名和、西山(賢)、 西山(徹)、松尾、蓑輪、焼田、 山田、山本(26名)
4	令和3年7月20日	第13回 FD 学習会「数理・データサイエンス・AI 教育の必要性と実践」 (大学教育開発センター)	FD	伊藤 (健)、太田、勝浦 (3名)
5	令和3年8月25日	第14回 FD 学習会「大学で教えるためのルーブリック(基礎編)」(大学教育開発センター)	FD	山本(1名)
6	令和3年9月2日	第15回 FD 学習会「大学の授業運営 における著作権への考え方」(大学教 育開発センター)	FD	李、伊藤(健)、勝浦、佐土井、谷村、野口、山本(7名)
7	令和3年10月13日 ~11月20日	「大学生調査ジェイ・サープ」実施	FD·SD	_
8	令和3年11月4日	第23回 FD・SD フォーラム「内部質保証の実質化と恒常化を目指して一認証評価を目前に考える一」(大学教育開発センター)	FD·SD	伊藤(健)、勝浦、岸川、小泉、 斎藤、佐土井、澤田、渋井、杉本、 谷村、野口、焼田、山田、山本 (14名)
9	令和3年11月24日	経済学部 FD・SD 委員会・経済学研 究科 FD・SD 委員会「テーマ: 2021 年度の FD・SD 活動」(今年度の年度 途中での進捗状況の把握)	FD·SD	新井、伊藤 (志)、伊藤 (健)、折原、 渋井、杉本、名和 (7名)
10	令和3年11月25日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇談会「テーマ:①シラバスの書き方について、②「MS-26戦略プラン(部署版)」「2022年度事業計画書(部署版)」について」	FD·SD	新井、李、伊藤(健)、伊藤(志)、 井内、太田、大瀧、折原、勝浦、 川森、岸川、岸野、小泉、斎藤、 佐土井、澤田、渋井、神野、杉本、 谷村、名和、西山(賢)、西山(徹)、 野口、松尾、蓑輪、焼田、山田、 山本、薄井(30名)

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
11	令和 3 年12月16日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇 談会「テーマ:対面授業と遠隔授業 の併用実施における課題と工夫」	FD	新井、李、伊藤(健)、井内、太田、 大瀧、折原、勝浦、川森、岸川、 岸野、小泉、斎藤、佐土井、澤田、 渋井、神野、杉本、谷村、名和、 西山(賢)、西山(徹)、野口、松尾、 蓑輪、焼田、山田、山本、薄井 (29名)
12	令和 4 年 2 月22日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 委 員会「テーマ:年度内に実施する取 り組み」	FD·SD	新井、伊藤(健)、伊藤(志)、折原、 渋井、杉本、名和(7名)
13	令和4年2月25日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇談会「テーマ:大学生調査(ジェイ・サープ)とダッシュボードから考える経済学部の教育」	FD·SD	新井、李、伊藤(健)、伊藤(志)、 井内、太田、大瀧、折原、勝浦、 川森、岸川、岸野、小泉、斎藤、 佐土井、澤田、渋井、神野、杉本、 谷村、名和、西山(賢)、西山(徹)、 野口、松尾、蓑輪、焼田、山田、 山本、薄井(30名)
14	令和4年3月11日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇談会「テーマ:コロナ禍のゼミナール・研究活動」	FD·SD	新井、李、伊藤(健)、伊藤(志)、 井内、大瀧、折原、川森、岸川、 岸野、斎藤、佐土井、澤田、渋井、 神野、杉本、谷村、名和、西山(賢)、 西山(徹)、野口、松尾、蓑輪、 山田、山本、薄井(26名)

学部・研究科・センター(経済学研究科)

1. 令和3年度の活動報告

2019年度末からの新型コロナ感染症の感染がいまだ収束に至っていない中、大学院経済学研究 科では、FD・SD 活動に関する今年度の活動方針・目標として、"誰一人取り残さない"という 考え方で、「コロナ禍の状況に対応して、大学院生に十分な教育を提供する」こととした。

研究科委員会では、学務センター・学部事務室・学内の様々な部署と協力して、継続的に状況 把握に努め、情報を共有しつつ対応を進めた。また、学部と合同でFD・SD 懇談会を継続的に 開催するとともに、年度末には研究科の教育全般をテーマとする研究科 FD・SD 懇談会を開催 した。

このほか、大学教育開発センターの主催で開催された第 $13\sim15$ 回 FD 学習会、第23回 FD・SD フォーラムに、それぞれ 1 名から14名の教員が参加した。

2. 今後の課題、方向性

今年度に引き続き、次年度も、コロナ禍という状況の中で、大学院生に必要な教育を提供することを FD・SD 活動においても最優先として対応していく。本研究科は大学院生の人数が多くないため、講義科目・演習科目の担当教員が日常的に連携することが、より重要と考えている。また、研究科での FD・SD 懇談会を継続的に開催して情報の収集や意見交換、対応の協議をしていく。

日	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和3年4月22日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇談会「テーマ:卒業生アンケート結果について」	FD·SD	李、伊藤(健)、井内、太田、大瀧、 折原、川森、岸川、斎藤、佐土井、 渋井、杉本、谷村、名和、西山(賢)、 松尾、蓑輪、焼田、山田、山本、 浅岡(21名)
2	令和3年5月24日	経済学部 FD・SD 委員会・経済学研 究科 FD・SD 委員会「テーマ: 2021 年度の FD・SD 活動」(今年度の活動 計画の策定)	FD·SD	新井、伊藤(志)、伊藤(健)、折原、 渋井、杉本、名和(7名)
3	令和3年5月27日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇 談会「テーマ:2021年度の FD・SD 活動」	FD·SD	新井、李、伊藤(健)、井内、太田、 大瀧、折原、勝浦、川森、岸川、 斎藤、佐土井、渋井、杉本、谷村、 名和、西山(賢)、西山(徹)、松尾、 蓑輪、焼田、山田、山本、浅岡 (24名)

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
4	令和3年7月20日	第13回 FD 学習会「数理データサイエンス・AI 教育の必要性と実践」(大学教育開発センター)	FD	伊藤 (健)、太田、勝浦 (3名)
5	令和3年8月25日	第14回 FD 学習会「大学で教えるためのルーブリック(基礎編)」(大学教育開発センター)	FD	山本 (1名)
6	令和3年9月2日	第15回 FD 学習会「大学の授業運営 における著作権への考え方について」 (大学教育開発センター)	FD	李、伊藤(健)、勝浦、佐土井、谷村、野口、山本(7名)
7	令和3年11月4日	第23回 FD・SD フォーラム「内部質 保証の実質化と恒常化を目指して一 認証評価を目前に考える一」(大学教 育開発センター)	FD·SD	伊藤(健)、勝浦、岸川、斎藤、 佐土井、渋井、杉本、谷村、野口、 焼田、山田、山本(12名)
8	令和3年11月24日	経済学部 FD・SD 委員会・経済学研 究科 FD・SD 委員会「テーマ: 2021 年度の FD・SD 活動」(今年度の年度 途中での進捗状況の把握)	FD·SD	新井、伊藤(志)、伊藤(健)、折原、 渋井、杉本、名和(7名)
9	令和3年11月25日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇談会「テーマ:①シラバスの書き方について、②「MS-26戦略プラン(部署版)」「2022年度事業計画書(部署版)」について」	FD·SD	新井、李、伊藤(健)、伊藤(志)、 井内、太田、大瀧、折原、勝浦、 川森、岸川、斎藤、佐土井、渋井、 杉本、谷村、名和、西山(賢)、 西山(徹)、野口、松尾、蓑輪、 焼田、山田、山本、薄井(26名)
10	令和 3 年12月16日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇 談会「テーマ:対面授業と遠隔授業 の併用実施における課題と工夫」	FD	新井、李、伊藤(健)、井内、太田、 大瀧、折原、勝浦、川森、岸川、 斎藤、佐土井、渋井、杉本、谷村、 名和、西山(賢)、西山(徹)、野口、 松尾、蓑輪、焼田、山田、山本、 薄井(25名)
11	令和4年2月22日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 委 員会「テーマ:年度内に実施する取 り組み」	FD·SD	新井、伊藤(健)、伊藤(志)、折原、 渋井、杉本、名和(7名)
12	令和4年2月25日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇談会「テーマ:大学生調査(ジェイ・サープ)とダッシュボードから考える経済学部の教育」	FD·SD	新井、李、伊藤(健)、伊藤(志)、 井内、太田、大瀧、折原、勝浦、 川森、岸川、斎藤、佐土井、渋井、 杉本、谷村、名和、西山(賢)、 西山(徹)、野口、松尾、蓑輪、 焼田、山田、山本、薄井(26名)
13	令和4年3月11日	経済学部・経済学研究科 FD・SD 懇談会「テーマ:コロナ禍のゼミナール・研究活動」	FD·SD	新井、李、伊藤(健)、伊藤(志)、 井内、大瀧、折原、川森、岸川、 斎藤、佐土井、渋井、杉本、谷村、 名和、西山(賢)、西山(徹)、野口、 松尾、蓑輪、山田、山本、薄井 (23名)

学部・研究科・センター(理工学部)

1. 令和3年度の活動報告

学部教育に必要な学生の基礎学力向上と教育改善を推進し、学生が満足できる教育体制の構築を目的とした。具体的な取り組みとして、基礎演習科目の履修促進、数学相談室・物理相談室の開設などを行い、目標とする基礎学力向上、教育改善への取り組みを引き続き進める。さらに、教員の学生指導能力向上に関わる教育フォーラム(FD・SDフォーラム)への参加を促した。また、各学科のFD・SD会議の活動を強化し、推進組織である教育改善委員会で各学科のFD・SD会議議事録を集約した。今後、各学科FD・SD会議の活動内容を検討し、連携を図る。

「学生の学修成果を可視化する取組」としては、JSAAP、PROG、GPS-Academic を用いた外部機関による調査を行っている。ただし、理工学部には11の学科があり、統一的な外部調査を実施するのではなく、先にあげた3つの外部調査機関が実施する調査方法の有効性判断を含め、各学科が独自に外部調査方法を選択し、実施している。選択した外部調査方法はJSAAP(数学科、材料機能工学科、機械工学科:以上3年次実施)、PROGテスト(電気電子工学科、応用化学科、交通機械工学科、メカトロニクス工学科、社会基盤デザイン工学科、環境創造工学科、建築学科)、GPS-Academic(情報工学科)である。将来的には理工学部全体として同一の学修成果調査方法を選定し、学科間で連携が取れるように各学科のFD・SD会議の母体となる教育改善委員会で検討を進めていきたい。

理工学部では基礎学力に自信がない新入学生向けに数学・物理学・化学・英語の基礎演習科目を置くとともに、数学・英語に関してはさらに発展的な内容を勉強できるよう基礎演習(アドバンストコース)科目も開講している。入学時に、数学習熟度診断テストを実施し、学生が自ら習熟度の判断ができるように診断テストの点数により、これらの科目の活用を促すように指導した。例年、数学相談室、物理相談室の運営状況は教育改善委員会で報告され、実施結果等に基づき、今後の実施方法等について、検討を行っている。

2. 今後の課題、方向性

学修成果の追跡調査は、教育を改善していく上で重要な情報を与える。そのためには、複数年次にわたり個々の学生の調査を実施することが必要となる。現在、各学科が独自に外部調査を実施し、その有効性を判断している段階である。このような中で、FD·SDに取り組む教育改善委員会としては、学部全体としての方向性を示し、統一した学修成果可視化の調査が必要かどうかを検討する必要があり、今後の課題としたい。

現在、各学科のFD・SD会議は順調に機能しており、個々の課題解決に向けた検討がなされている。多様な学科から成る理工学部では、このような個別会議は重要な役割を果たす。しかし、それらを取りまとめる教育改善委員会では、共通の課題を設定して理工学教育の改善に反映していきたい。

口	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名	
1	令和3年4月15日	令和3年度教育改善委員会名簿の確認および副委員長の任命について、令和2年度第12回大学教育開発センター委員会報告について、令和3年度物理相談室について、令和3年度理工学部および理工学研究科の事業計画について	FD·SD	児玉,山中,鍛治,宇佐見,田崎,赤堀,坂東,古川,前川,大原,中村,片桐,谷田,松村,大久保(教員計15名)鈴木(職員計1名)	
2	令和3年7月29日	スタッフ・ディベロップメント (SD) の課題について、MEC (Meijo EnCouraging) プログラムの対象について、MEC プログラムの基礎診断テストについて、入学前オリエンテーションについて、大学教育開発センター委員会(第3回)の報告について	FD·SD	児玉,加鳥,山中,鍛治,字佐見,田崎,赤堀,坂東,古川,前川,大原,中村,片桐,谷田,松村,大久保(教員計16名)東海林,藤井(職員計2名)	
3	令和 3 年10月21日	令和4年度予算要求について、附属 高校特別推薦入学者への入学前指導 について、令和3年度前期数学相談 室の利用状況報告および後期数学相 談室について、令和3年度FD·SD 活動報告書(中間)について、第4・ 5・6・7回大学教育開発センター 委員会報告について	FD·SD	児玉,山中,鍛治,字佐見,田崎,赤堀,坂東,古川,前川,中村,片桐,谷田,松村,大久保(教員計14名)東海林,橘(職員計2名)	
4	令和 3 年12月16日	学生面談の記録方法について、教養教育(G科)からの教育改善委員選出における任用ルールの変更について、令和3年度各学部・研究科等におけるFD・SD活動報告の作成について、線形代数及び微分積分の再試験対象者への補講実施・課題提出に替わる対応について、数学相談室の運営体制について	FD·SD	児玉,山中,鍛治,宇佐見,田崎,赤堀,坂東,古川,前川,中村, 片桐,谷田,松村,大久保(教員計14名)東海林,橘(職員計2名)	
*4.22	各学科 FD·SD 会議 数学科 FD·SD 会議				
数字	M FD・SD 会議			植松,内村,大西,鍜治,許斐,	
1	令和3年6月24日	前期数学相談室について	FD·SD	佐藤, 柴田, 鈴木, 土田, 冨田, 長郷, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬(16名)	

田	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
2	令和3年9月9日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD·SD	植松,内村,大西,小澤,鍜治, 許斐,佐藤,柴田,鈴木,土田, 冨田,長郷,橋本,日比野,前野, 三町,村瀬(17名)
3	令和3年12月23日	後期数学相談室について	FD·SD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍜治, 許斐, 佐藤, 柴田, 鈴木, 土田, 冨田, 長郷, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (17名)
情報	工学科 FD・SD 会	議		
1	令和3年4月8日	新入生向けスタートアップセミナー について、リフレッシュセミナーの アンケート集計結果の報告、PC 必携 化に関するアンケート中間報告、学 生向け学科アカウントに関する報告	FD·SD	田中(議長), 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎(記録), 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤(計19名)
2	令和3年4月22日	新入生パソコン・インターネット環境 調査結果,遠隔講義困難科目と学外実 施科目の調査,濃厚接触者の連絡につ いて,学科ICT関連,スタートアッ プセミナー発表会,実験室の後始末	FD·SD	田中(議長), 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓),山田(宗),山本,吉川, 米澤(記錄)(計19名)
3	令和3年5月13日	実験室整備計画と予算執行について、「情報工学の世界」オープンラボ日程と実施方法、AWS Educate・卒業研究向けクラスについて、数理・データサイエンスについて、コロナに関連した研究室学生の管理について	FD·SD	田中(議長), 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎(記録), 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤(計19名)
4	令和3年5月27日	情報工学実験 III で使用する新教材検 討用の物品購入,「情報工学の世界」 オープンラボの実施方法	FD	田中(議長), 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓),山田(宗),山本,吉川, 米澤(記錄)(計19名)
5	令和3年6月10日	IT エンジニア育成プロジェクト	SD	田中(議長), 旭, 字佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 水沼(記錄)(計19名)
6	令和3年6月24日	教育改善委員会審議事項, フレッシュ マンセミナー関連	SD	田中(議長), 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 水沼(記錄)(計19名)
7	令和3年7月15日	ゼミナール・配属関連、後期の授業の開講方法の調査、Google ドライブのセキュリティアップデートの適用について、ハッカソン・コンテスト関係の周知、2022年度授業時間割のチェック	FD·SD	田中(議長), 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 水沼(記録)(計19名)

回	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
8	令和3年9月9日	教育改善委員会審議事項, TOEIC-IP 試験, GPS-Academic, 研究室配属お よびゼミナール, 後期の講義教室の 修正,成績不振者面談, JPHACKS2021 について	FD·SD	田中(議長),旭,字佐見,亀谷,川澄,小中,佐川,鈴木,中野,野崎,坂野,向井,柳田,山田(啓),山田(宗),山本,吉川,米澤,水沼(記録)(計19名)
9	令和3年9月30日	令和4年度教育課程編成方針に係る 検討について	FD·SD	田中(議長), 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 水沼(記錄)(計19名)
10	令和3年10月14日	学習成果可視化および MEC プログラムについて	FD·SD	田中(議長), 旭, 字佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 水沼(記錄)(計19名)
11	令和 3 年12月23日	学びのコミュニティ申請,情報工学 部ポータルサイトの提案,グローバ ルゼミナール	FD·SD	田中(議長), 旭, 字佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 水沼(記錄)(計19名)
電気	電子工学科 FD·S	D会議		
1	令和3年7月9日	遠隔授業に関するアンケート実施に ついて	FD·SD	平松, 伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
2	令和3年8月2日	ダッシュボードの活用について	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
3	令和3年8月28日	2021年度前期三者面談について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
4	令和3年9月9日	GPA を用いた成績評価に関して	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
5	令和3年9月30日	後期授業方法について	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
6	令和3年10月14日	学修成果の可視化に係る外部調査について	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)

	<u> </u>		FD · SD	
口	日程	議題	区分	出席者氏名
7	令和3年11月25日	附属高校特別推薦入学者への入学前 指導について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
8	令和3年11月12日	附属高校特別推薦入学者への入学前 指導について, ダッシュボードの活 用について	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
9	令和4年1月13日	コロナ禍における新しい授業の取り組みについて	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
10	令和4年1月27日	誰もが安心して著作物が利用できる 環境について、2021年度活動自己点 検について	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
材料	機能工学科 FD・S	SD会議		
1	令和3年4月8日	第1回材料機能工学科FD・SD会議: 科学技術リテラシー (ラボツアー, プレゼン実習) の日程確認と実施内容の検討, 基礎学力テストの実施内容確認, 材料機能工学概論の実施内容確認 (実感教育のみ対面授業での実施)	FD	六田,成塚,上山,竹内,宇佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計12名)
2	令和3年4月22日	第2回材料機能工学科FD·SD会議:2,3年生のグループ面談の実施日程内容確認、ラボツアーの実施日程内容確認、数理・データサイエンス・AIに関連する科目の内容確認と年次決定、アクティブラーニングの実施状況と啓蒙活動報告	FD	六田,上山,竹内,字佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計11名)
3	令和3年5月27日	第3回材料機能工学科FD·SD会議:2年生プレゼンテーション実習の実施について,2,3年生のグループ面談の実施状況について,本学科および応用化学科教員との共同運営内容の提案	FD·SD	六田,上山,竹内,字佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計11名)
4	令和3年6月10日	第4回材料機能工学科FD·SD会 議:JABEE審査に関する審査日程お よび内容確認	FD	六田,上山,竹内,字佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計11名)
5	令和3年6月24日	第5回材料機能工学科FD·SD会議: 2022年度共同開講の状況説明, 学習成果の把握と可視化について JSAAP活用と内容説明, NASを利 用した JABEE 審査の効率化	FD	六田,成塚,上山,竹内,宇佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計12名)

田	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和3年7月8日	第6回材料機能工学科FD・SD会議: コース制への移行に関する検討, 材料機能工学実験IIの成績報告と懸 念学生のリストアップ	FD·SD	六田,成塚,上山,竹内,宇佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計12名)
7	令和3年7月15日	第7回材料機能工学科FD·SD会 議:データサイエンス・AI入門の設 定年次決定(3年次前期), JABEE 審査における補助資料の作成と内容 確認ならびに改善例追加	FD·SD	六田,成塚,上山,竹内,宇佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計12名)
8	令和3年9月9日	第8回材料機能工学科FD·SD会議:教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に関する検討,同議題における成績分布の現状確認及び把握,課題の有無を確認し,検討事項以下列挙・コロナ禍における授業形態の変化のため(有事),単純比較困難,平時での比較が妥当・他分野の科目間での成績評価基準の平準化は困難・教養・専門科目間においてGPAに乖離あってしかるべき	FD	六田,成塚,上山,竹内,字佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計12名)
9	令和3年9月30日	第9回材料機能工学科FD·SD会議: JABEE 審査の評価項目の検討依頼, 卒業研究の前期取組点集計完了報告と学生周知連絡, 材料機能工学実験Ⅲ(エンジンの組み立て)の実験に関して他学科との装置の共同利用の検討, 卒業研究未着手の4年生の面談報告, キャリアアップセミナー開催報告, フレッシュマンセミナー開催報告	FD	六田, 榎本, 今井, 田中, 上山, 竹内, 岩谷, 宇佐美, 服部, 成塚, 赤堀, 宮嶋(計12名)
10	令和 3 年10月14日	第10回材料機能工学科FD·SD会議: 材料機能工学科と応用化学科の改組に関する協議, 地区懇談会の総括	FD	六田,岩谷,宇佐美,上山,竹内,成塚,服部,宮嶋,赤堀,今井,田中,榎本(計12名)
11	令和 3 年10月28日	第11回材料機能工学科FD·SD会議:複数教員担当科目のシラバスおよび成績入力責任者の変更検討,新入生オリエンテーションの説明,プラクティカルイングリッシュ(3年生)のコマ選択数増加の検討,研究紹介WEB版担当者の選出,材料機能工学科と応用化学科の改組に関する協議	FD	六田, 岩谷, 宇佐美, 竹内, 成塚, 宮嶋, 田中, 榎本, 今井(計9名)

□	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
12	令和3年11月25日	第12回材料機能工学科FD·SD会議:外部評価委員会の報告,基礎ゼミナール(基礎から学ぶ機械加工1および2)開講の説明,JABEEの対応表の改訂検討,新入生オリエンテーションおよび在学生ガイダンスの開催説明,材料機能工学科と応用化学科の改組に関する協議	FD	六田,服部,上山,竹内,榎本,宇佐美,宫嶋,赤堀,今井,成塚,田中,岩谷(計12名)
13	令和3年12月23日	第13回材料機能工学科FD・SD会 議:データサイエンス・AI入門の学 習教育目標対応表の確認	FD	六田,岩谷,宇佐美,服部,竹内,宫嶋,赤堀,榎本,田中,今井,成塚,上山(計12名)
14	令和4年1月13日	第14回材料機能工学科FD・SD会 議:2年次のフレッシュマンセミナー 開催説明,来年度の1,2年次の TOEIC実施の検討	FD	六田, 宇佐美, 成塚, 田中, 赤堀, 上山, 宮嶋, 今井, 服部, 竹内(計 10名)
応用	化学科 FD・SD 会	議		
1	令和3年4月8日	第1回応用化学科・応用化学専攻FD・SD合同会議:前期休学(SD),校内安全環境改善(SD),学年間の学生交流(SD),実験共通設備関連(SD),外部評価委員(SD),MS-26(SD),新入生啓蒙活動(SD)	SD	丸山, 大脇, 坂, 坂東, 永田, 池邉, 小澤, 田浦, 田中, 才田(計10名)
2	令和3年5月13日	第2回応用化学科・応用化学専攻FD・SD合同会議:大学見学会 津島東高校(SD),安全配慮を要する学生への対応(SD),オープンキャンパス(SD),外部評価委員(SD),教育改善関連(FD・SD),実験設備関連(FD),数理・データサイエンス・AIに関連する科目の設置(FD),カリキュラムWG(FD),改組検討委員会(SD),MS-26のポスターセッション(SD)	FD·SD	丸山, 永田, 坂, 坂東, 池邉, 田中, 小澤, 才田, 田浦, 大脇(計10名)
3	令和3年5月27日	第3回応用化学科・応用化学専攻FD・SD合同会議:学科別懇談会関連(SD),6月以降の授業形態・PROGテストについて(SD・FD),教務関連(FD・SD),オープンキャンパス関連(SD),将来問題検討関連(SD),実験実習費(SD)	FD·SD	丸山,池邉,大脇,小澤,才田,田浦,田中,永田,坂東,坂(計10名)
4	令和3年6月24日	第4回応用化学科・応用化学専攻FD·SD合同会議:学生の面談(SD), オープンキャンパスについて(SD), 教育改善関連(SD), カリキュラムWG(FD), 教務関連(FD·SD), 学科予算(SD),自己点検評価(SD), 学生委員会(SD)	FD·SD	丸山,才田,坂東,田中,田浦,小澤,池邉,坂,大脇,永田(計10名)

□	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
5	令和3年9月17日 ~21日	第5回応用化学科 FD·SD 会議(メール審議):GPA に基づく成績分布データの把握および課題摘出(FD・SD)	FD·SD	丸山, 才田, 坂東, 田中, 田浦, 小澤, 池邉, 坂, 大脇, 永田(計 10名)
6	令和3年9月30日	第6回応用化学科・応用化学専攻 FD・SD合同会議: 学生対応について(SD), 外部評価委員会(SD), 就職関連(SD), 教務関連(FD), 地区懇談会(SD)	FD·SD	丸山, 永田, 田浦, 坂, 池邉, 才田, 田中, 小澤, 大脇, 坂東(計10名)
7	令和3年10月14日	第7回応用化学科・応用化学専攻 FD・SD合同会議: PROGテスト (SD),将来問題検討小委員会 (SD), 地区懇談会開催 (SD)	SD	丸山, 坂東, 坂, 大脇, 永田, 池邉, 小澤, 才田, 田浦, 田中(計10名)
8	令和3年11月25日	第8回応用化学科・応用化学専攻 FD・SD合同会議: さくらサイエン スプラン (SD), 外部評価委員会 (SD), 教務関連 (FD・SD), 総務関連 (SD), 将来問題検討小委員会 (SD)	FD·SD	丸山, 坂東, 坂, 大脇, 永田, 池邉, 才田, 田浦, 田中, 小澤(計10名)
9	令和 3 年12月 2 日	第9回応用化学科・応用化学専攻FD・SD合同会議:応用化学ゼミナールオープンラボ(FD),非常勤講師の任用(SD),R4年度のクラス担任(SD),応化チャレンジの発表会(SD),学生関係(SD),機器分析室の使用に関して(SD),将来問題検討会(SD)	FD·SD	丸山, 永田, 坂, 大脇, 坂東, 田中, 小澤, 田浦, 才田, 池邉(計10名) 将来問題検討会:(学部長)齊藤 先生,(協議員)児玉先生
10	令和 3 年12月23日	第10回応用化学科・応用化学専攻 FD・SD 合同会議: 学生関係 (SD), 機器分析室の使用 (SD), 応化実験 時の実験ノート作成にかかわる統一 (FD)	FD·SD	丸山, 坂東, 坂, 大脇, 永田, 池邉, 小澤, 才田, 田中, 田浦(計10名)
11	令和4年1月8日 ~17日	第11回応用化学科・応用化学専攻 FD・SD合同会議:学科機器分析室 利用について(SD),定期試験にお けるコロナ対応(SD),R2棟学科使 用面積再配分について(SD)	SD	丸山, 大脇, 永田, 坂, 池邉, 才田, 小澤, 田中, 田浦, 坂東(計10名)
12	令和 4 年 1 月21日 ~27日	第12回応用化学科・応用化学専攻 FD・SD合同会議:R2棟の再配分 面積使用計画について(SD)	SD	丸山, 大脇, 永田, 坂, 池邉, 才田, 小澤, 田中, 田浦, 坂東(計10名)
機械	工学科 FD・SD 会	議	1	
1	令和3年4月15日	卒業アンケートについて	FD·SD	久保, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川(計13名)
2	令和3年5月27日	卒業生調査報告書について	FD·SD	久保, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川(計13名)

日	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
3	令和3年6月10日	帝京大学FDフォーラム「大学の授 業運営における著作権への考え方に ついて」に基づく教育改善について	FD·SD	久保, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川(計13名)
4	令和3年9月9日	第13回 FD 学習会「数理・データサイエンス・AI 教育の必要性と実践」に基づく教育改善について	FD·SD	久保, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川(計13名)
5	令和3年9月9日	教員間もしくは授業科目間の成績評 価基準の平準化に係る検討について	FD·SD	久保, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川(計13名)
6	令和3年9月30日	第15回 FD 学習会を受講し、今後の 教育研究への活用について	FD·SD	久保, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川(計13名)
7	令和3年11月11日	FD・SDフォーラム「内部質保証の 実質化と恒常化を目指して一認証評価を目前に考える一」を受講し、今 後の教育研究への活用について	FD·SD	久保,池本,大島,川村,來海, 清水,塚田,中西,成田,古川, 松田,横田,吉川(計13名)
交通	機械工学科 FD・S	SD 会議		
1	令和3年4月22日	第1回交通機械工学科FD·SD会 議:遠隔講義終了後の対面講義対応 他について	FD·SD	加鳥,前川,鈴木,中島,西村,菅,横谷,仙場,宮田,村尾,山崎(計11名)
2	令和3年5月27日	第2回交通機械工学科FD・SD会議:来年度在学生ガイダンスの実施方法他について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 菅, 横谷, 仙場, 宮田, 早藤, 村尾, 山崎(計13名)
3	令和3年6月24日	第3回交通機械工学科FD·SD会議:学位授与方針に定められた学修目標と学修成果他について	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 菅, 横谷, 仙場, 宮田, 早藤, 村尾, 山崎 (計13名)
4	令和3年9月9日	第4回交通機械工学科FD・SD会 議:教員間もしくは授業科目間の成 績評価基準の平準化に係る検討他に ついて	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 大蔵, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎(計14名)
5	令和3年12月23日	第5回交通機械工学科FD·SD会 議:1) 感染症を理由とする定期試 験欠席取り扱いの説明,2) 教員間 ネットワーク ものづくり分科会か らの報告	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤(計14名)
6	令和4年1月13日	第6回交通機械工学科FD·SD会議:1)2022年度学生便覧「卒業要件」の一部変更について,2)コロナ感染拡大時の定期試験の対応について説明	FD·SD	加鳥,前川,鈴木,中島,西村,大蔵,菅,横谷,菅野,仙場,宮田,村尾,山崎(計13名)

回	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
7	令和4年1月27日	第7回交通機械工学科FD·SD会議: 1)2022年度学生便覧「卒業要件」の一部変更について,2)就職で大学推薦を希望する学生に対する誓約書の署名・捺印者について,3)修士論文公聴会のリモート開催について,4)2024年度以降のT科入学定員について,5)就職で大学推薦を希望する学生に対する誓約書の発行開始日時について,6)企業及び本学大学院への推薦書発行について	FD·SD	加鳥,前川,相馬,鈴木,中島,西村,大蔵,菅,横谷,菅野,仙場,宮田,村尾(計13名)
メカ	トロニクス工学科	FD·SD 会議		
1	令和3年5月13日	新型コロナ感染者・濃厚接触者発生 時の演習の実施方法について	FD	井上,楊,関山,佐伯,大原,目黒, 芦澤,畑,市川,星野,野々川, 太田(計12名)
2	令和3年7月15日	授業改善アンケートについて	FD	井上,楊,関山,佐伯,大原,目黒, 芦澤,畑,市川,星野,野々川, 太田(計12名)
3	令和3年9月21日	理工学部成績分布について	FD	井上,楊,関山,佐伯,福田,大原, 目黒,芦澤,畑,市川,星野,野々川, 太田(計13名)
4	令和3年9月30日	成績評価の方法について	FD	井上,楊,関山,佐伯,大原,目黒, 芦澤,畑,市川,星野,野々川, 太田(計12名)
5	令和3年10月14日	成績の平準化について、PROGテストについて、FD・SDフォーラムについて、ルーブリック作成ワーキングについて	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
6	令和3年11月25日	1・2年生の面談について、必修講義の学習達成度評価作成に係る方針について	FD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
7	令和 3 年12月23日	PROG テストの結果の活用方法について	FD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
8	令和4年1月13日	学位授与(修士課程)のための評価 基準の検討について	FD·SD	芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原(計7名)
社会	基盤デザイン工学科	FD・SD 会議	1	
1	令和3年4月8日	「グローバルインターンシップ」「社会 基盤デザインセミナー I 」の実施方 法について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
2	令和3年4月22日	「フレッシュマンセミナー」「キャリア デザイン」の実施方法について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
3	令和3年5月27日	「キャリアデザイン」の実施方法と学 内業務での感染対応について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)

四 日 程 議 題 区分 日本音 日本 日本				FD · SD	
4 令和3年6月24日 外部計画委員会と裏馬子舞配がについて 歴史 (計18名) 別金商談の実施方法と大学院奨学生 の研究業録の評価方法について 成業評価基準の平準化とグローバル	回	日程	議題		出席者氏名
5 令和3年7月15日 「動産回該の実施方法とついて 松本 溝上 岩下 中本 藤井 渡辺 (計1)名) 松本 溝上 選辺 (計1)名) 松本 溝上 選辺 (計1)名) 石川 板橋 第 小 森 新木 第下 中本 様本 第四 第十 第下 中本 接本 第四 第十 第下 中本 接本 第四 第四 第四 第四 第四 第四 第四 第	4	令和3年6月24日		FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
日 令和3年9月9日 インターンシップの中間報告について 下D 松本、溝口、新井、岩下、中村 藤井・渡辺 (計13名) 石川、板橋、葛、小高、鈴木、原口 ・ 接上・渡辺 (計13名) 石川、板橋、葛、小高、鈴木、原口 ・ 接上・渡辺 (計13名) 石川、板橋、葛、小高、鈴木、原口 ・ 接上・ 接上・ 接上・ 接上・ 接上・ 接上・ 接上・ 接上・ 接上・ 接	5	令和3年7月15日		FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
 7 令和3年9月30日 オンライン講義のあり方について 8 令和3年10月14日 グローバルインターンシップ報告会 について 9 令和3年11月25日 学科内教育改善委員会報告について 副査面談の情報共有 10 令和3年12月23日 就職について,研究室配属について 所力・SD 宏本、溝口、渡辺、新井、岩中村、藤井(計13名) 11 令和4年1月13日 出アに、卒業時アンケートについて、卒業関連提出物の電子化について、公開講座について、公開講座について、公開講座について、公開講座について、公用はないで、が予止の形式の記載について、アウルチェので、大学では受与方針」に定められた学修目を含む、計算を学修成果に関する情報の関係について、アウルチェのいて、アウルチェのいて、アウルチェのいて、アウルチェのいて、アウル・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・	6	令和3年9月9日	インターンシップの中間報告につい	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
8 令和3年10月14日	7	令和3年9月30日	オンライン講義のあり方について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 渡辺, 新井, 岩下, 中村, 藤井(計13名)
9 令和3年11月25日 字科内教育改善委員会報告について 副金面談の情報共有 FD·SD 松本、溝口、渡辺、新井、岩 中村、藤井(計13名) 10 令和3年12月23日 就職について、研究室配属について FD·SD 松本、溝口、渡辺、新井、岩 中村、藤井(計13名) 11 令和4年1月13日 HPについて、卒業時アンケートについて、卒業関連提出物の電子化について、公開講座について 公開講座について 公開講座について 公開講座について 公開講座について FD・SD 松本、溝口、渡辺、新井、岩 中村、藤井(計13名) 1 令和3年4月2日 シラバスへのアクティブ・ラーニングの手法の記載について 学位授与方針」に定められた学修目標と学修成果に関する情報の関係について 理工学部入学前オリエンテーションについて、FD学習会について、要目間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について PROGテストの実施について、教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について 前期授業改善アンケートについて FD	8	令和3年10月14日		FD·SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 渡辺, 新井, 岩下, 中村, 藤井(計13名)
10 令和3年12月23日 就職について、研究室配属について FD・SD 松本、溝口、渡辺、新井、岩ー中村、藤井 (計13名) 日	9	令和3年11月25日		FD·SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 渡辺, 新井, 岩下, 中村, 藤井(計13名)
11 令和4年1月13日 いて、卒業関連提出物の電子化について、	10	令和 3 年12月23日	就職について、研究室配属について	FD·SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 渡辺, 新井, 岩下, 中村, 藤井(計13名)
1 令和3年4月2日 シラバスへのアクティブ・ラーニン グの手法の記載について FD	11	令和4年1月13日	いて、卒業関連提出物の電子化につ	FD·SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計12名)
1 令和3年4月2日 グの手法の記載について 日比、広瀬、武藤(計8名) 「学位授与方針」に定められた学修目標と学修成果に関する情報の関係について 理工学部入学前オリエンテーションについて、FD学習会について、PROGテストの実施について、教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について 前期授業改善アンケートについて 方の実施について 方の手法の記載について、附属高校特別推薦入学者への入学前指導について 方の手法の記載について、附属高校特別推薦入学者への入学前指導について 方の手法の記載について、附属高校特別推薦入学者への入学前指導について 方の手法の記載について、所属高校特別推薦入学者への入学前指導について 方の手法の記載について、所属高校特別推薦入学者への入学前指導について 方の手法の記載について、所属高校特別推薦入学者への入学前指導について 方の手法の記載について、所属高校特別推薦入学者への入学前指導について 方の子の表別を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を	環境	創造工学科 FD・S	SD 会議		
2 令和3年6月24日 標と学修成果に関する情報の関係についてのいて、	1	令和3年4月2日		FD	道正,西山,三宅,小塩,片桐, 日比,広瀬,武藤(計8名)
3 令和3年9月9日 について、FD学習会について、 PROGテストの実施について、教員 間もしくは授業科目間の成績評価基 準の平準化に係る検討について 「お押し、広瀬、武藤(計9名 「お押し、広瀬、武藤(計9名 「お押し、広瀬、武藤(計9名 「お押し、広瀬、武藤(計9名 「お押し、広瀬、武藤(計9名 「お押し、広瀬、武藤(計9名 「お押し、「お押し、「お押し、「お押し、「お押し、「お押し、「お押し、「お押し、	2	令和3年6月24日	標と学修成果に関する情報の関係に	FD·SD	道正,西山,三宅,小塩,片桐, 日比,広瀬,武藤(計8名)
4 令和3年9月30日 前期授業改善アンケートについて FD 片桐, 日比, 広瀬, 武藤(計9名) 1	3	令和3年9月9日	について、FD学習会について、PROGテストの実施について、教員間もしくは授業科目間の成績評価基	FD·SD	道正,西山,三宅,吉村,小塩, 片桐,日比,広瀬,武藤(計9名)
5 令和3年10月14日 の実施について FD·SD 片桐,日比,広瀬,武藤(計9名 6 令和3年11月25日 シラバスへのアクティブ・ラーニン グの手法の記載について、附属高校 特別推薦入学者への入学前指導について FD·SD 道正,西山,三宅,吉村,小サ 片桐,日比,広瀬,武藤(計9名 7 令和3年12月23日 PROGテストの結果および返却につ PROGテストの結果および返却につ FD·SD 道正,西山,三宅,吉村,小サ	4	令和3年9月30日	前期授業改善アンケートについて	FD	道正, 西山, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 日比, 広瀬, 武藤(計9名)
6 令和 3 年11月25日 グの手法の記載について、附属高校 特別推薦入学者への入学前指導について、	5	令和3年10月14日		FD·SD	道正,西山,三宅,吉村,小塩,片桐,日比,広瀬,武藤(計9名)
1 7 分和 3 年12月23日 FD→SD FD→SD	6	令和3年11月25日	グの手法の記載について、附属高校 特別推薦入学者への入学前指導につ	FD·SD	道正,西山,三宅,吉村,小塩,片桐,日比,広瀬,武藤(計9名)
	7	令和3年12月23日		FD·SD	道正,西山,三宅,吉村,小塩, 片桐,日比,広瀬,武藤(計9名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
建築	学科 FD·SD 会議			
1	令和3年9月2日	平準化について、評価のスタンスに ついて、科目特性について、学生レ ベルについて、達成内容について、 大学レベルについて	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤, 岡田,石井,大塚,生田,吉永, 平岩,谷田,三浦,高橋,松田, 米澤,佐藤(計17名)
2	令和3年9月16日	附属高校プレテストについて,地区 懇談会について,外部評価委員会に ついて	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤, 岡田,石井,大塚,生田,吉永, 平岩,谷田,三浦,高橋,松田, 米澤,佐藤(計17名)
3	令和3年9月30日	Web オープンキャンパスについて、 教育課程編成方針について、学生へ の推奨 PC スペックについて	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤,岡田,石井,大塚,生田,吉永,平岩,谷田,三浦,高橋,松田,米澤,佐藤(計17名)
4	令和3年10月14日	PROGテストについて、国際専門研修プログラムについて、単位認定インターンシップについて	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤,岡田,石井,大塚,生田,吉永,平岩,谷田,三浦,高橋,松田,米澤,佐藤(計17名)
5	令和3年10月28日	将来問題検討について, 附属高校特別推薦入学者への入学前指導について	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤, 岡田,石井,大塚,生田,吉永, 平岩,谷田,三浦,高橋,松田, 米澤,佐藤(計17名)
6	令和3年11月11日	編入学基礎学力調査科目について, 外部評価委員会開催に関して	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤, 岡田,石井,大塚,生田,吉永, 平岩,谷田,三浦,高橋,松田, 米澤,佐藤(計17名)
7	令和3年12月2日	ゼミ配属方法について, エクステン ション講座について	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤,岡田,石井,大塚,生田,吉永,平岩,谷田,三浦,高橋,松田,米澤,佐藤(計17名)
8	令和 3 年12月23日	新入生オリエンテーション・在学生 ガイダンス実施方法について,フレッ シュマンセミナーに関して	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤, 岡田,石井,大塚,生田,吉永, 平岩,谷田,三浦,高橋,松田, 米澤,佐藤(計17名)
教養	教育 FD・SD 会議			
1	令和3年4月23日	・理工学部の事業計画書について	FD	土屋(科長),中山(議長),景山, 大久保,鈴木,斎藤,大知,森口, 本田,長澤,神藤,中村,松村, 榎本,加藤,内田,日比野,田中, 宮北(書記)(計19名)
2	令和3年6月24日	・教員業績評価について・授業改善アンケートについて	FD·SD	土屋(科長),中山(議長),大久保, 景山,宫北,本田,加藤,長澤, 松村,中村,森口,日比野,鈴木, 榎本,田中,齊藤,内田(書記) (計18名)

□	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
3	令和3年7月15日	・第13回 FD 学習会の開催について ・第14回 FD 学習会の開催について	FD	土屋(科長),中山(議長),大久保,齊藤,森口,宮北,中村,本田,加藤,日比野,内田,長澤,榎本,田中,鈴木,松村,神藤(書記)(計17名)
4	令和3年9月9日	・成績評価基準の平準化について	FD	土屋(科長),中山(議長),景山, 大久保,鈴木,斎藤,大知,森口, 長澤,神藤,中村,松村,榎本, 加藤,内田,日比野,本田(書記) (計17名)
5	令和3年9月30日	・JABEE 資料の提出について ・授業評価アンケートの教員コメン トについて	FD	土屋(科長),中山(議長),景山, 鈴木,斎藤,大知,森口,本田, 長澤,神藤,中村,松村,榎本, 加藤,内田,日比野,田中,大久保 (書記)(計18名)
6	令和3年10月14日	・FD・SDフォーラムの開催案内に ついて	FD·SD	土屋(科長),中山(議長),景山, 鈴木,斎藤,大知,森口,本田, 長澤,神藤,中村,松村,榎本, 加藤,内田,日比野,田中,大久保 (書記)(計18名)
7	令和3年12月23日	・授業改善アンケートについて・FD 研修会について・シラバスのアクティブラーニング 記載について	FD	土屋(科長),中山(議長),鈴木, 斎藤,大知,本田,長澤,神藤, 中村,松村,榎本,加藤,内田, 日比野,田中,森口(書記)(計16名)
8	令和4年1月27日	・外国語学部 FD ワークショップに ついて・大学教育改革フォーラムについて	FD·SD	土屋(科長),中山(議長),景山, 大久保,鈴木,斎藤,大知,森口, 本田,長澤,神藤,中村,宮北, 榎本,加藤,内田,日比野,田中, 松村(書記)(計19名)

学部・研究科・センター(理工学研究科)

1. 令和3年度の活動報告

高等教育の改革に伴い、令和2年度から大学院博士(後期)課程において授業科目の単位制を導入した。これによりリサーチワークだけでなくコースワークとして特殊講義科目を設定し、博士(前期)課程・特論科目との連携体制を敷いた。このような連携により修士(博士前期)課程と博士(後期)課程が密接に関わり合い、学生の多様な要望に応える基盤となりうる。また、各専攻科の大学院FD・SD活動については、各学科のFD・SD会議において、合同で大学院FD・SDに関する議題の報告および審議を行っている。

昨年度に引き続き、感染症拡大防止のため、学生に対して例年通りの教育、研究指導を実施することができない。このような状況に対処するため、各専攻 FD・SD 会議を中心として、修士課程の特論講義の実施方法、感染症拡大を予防する実験活動推進方法を検討し、実施してきた、理工学研究科においては、研究室へ入室できる最大人数を制限した時分割や日分割方式を実施し、研究活動の遅滞を防ぐ方策を取った。

大学院生は国内外での積極的な学会発表により、大きな成長を遂げることが多い. しかし、本年度も感染症拡大防止により各種学会が中止されたり、リモート開催されたりと学生の士気が落ち込みがちであった. このような事態を踏まえ、リモート開催される学会での発表方法や質疑応答などの指導について各専攻 FD・SD 会議を中心として検討を行っている.

理工学分野における英語教育の重要性は、学際的情報を全世界に発信するという観点から必要不可欠である。大学院への入学条件としても TOEIC 受験を課し、理工学部 3 年在籍時に全学生が受験している。幅広くコミュニケーションを行う能力を追求する TOEIC は、学際的情報発信という観点に立ち学生たちに大学院進学を意識させ、大学院の英語教育へと円滑に導く一翼を担うものである。このことに加え、各専攻で独自に開設する科学技術英語は、専門性を高めるとともに国際的に活動できる知識・能力をもつ若手研究者・技術者養成の礎となる。このように学部から大学院教育へと円滑に導く体制の整備活動を継続して実施している。

2. 今後の課題、方向性

大学院 FD・SD の中心組織は、大学院理工学研究科教育改善委員会であり、各専攻 FD・SD 会議(各学科 FD・SD 会議と合同)と連絡を密にしながら理工学研究科としての大学院 FD・SD 活動を推進する。昨年度「集中講義」については、専攻横断的な研究プロジェクトとして始め、教員間の研究プロジェクトを基盤として発足させ、学生に対する啓蒙を行い学生が自主的に参加して行くという方向性を出したが、昨今の感染症拡大防止の方策に追われ、具体的な実施方法の議論がなされていない状況である。今後、議論を進め、学生の自主的な研究活動をバックアップするための体制作りを優先させなければならない。このため単位制度のみに注目するのではなく、

大学院生が早い段階で研究方針を立て、自ら実践して結果を得ることができる能力を身につけさせることが重要であり、教育偏重にならないように検討し、方向性を打ち出す必要がある.

回	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名	
1	令和3年4月15日	令和3年度教育改善委員会名簿の確認および副委員長の任命について、令和2年度第12回大学教育開発センター委員会報告について、令和3年度物理相談室について、令和3年度理工学部および理工学研究科の事業計画について	FD·SD	児玉,山中,鍛治,字佐見,田崎,赤堀,坂東,古川,前川,大原,中村,片桐,谷田,松村,大久保(教員計15名)鈴木(職員計1名)	
2	令和3年7月29日	スタッフ・ディベロップメント (SD) の課題について、MEC (Meijo EnCouraging) プログラムの対象について、MEC プログラムの基礎診断テストについて、入学前オリエンテーションについて、大学教育開発センター委員会(第3回)の報告について	FD·SD	児玉,加鳥,山中,鍛治,字佐見,田崎,赤堀,坂東,古川,前川,大原,中村,片桐,谷田,松村,大久保(教員計16名)東海林,藤井(職員計2名)	
3	令和3年10月21日	令和4年度予算要求について、附属高校特別推薦入学者への入学前指導について、令和3年度前期数学相談室の利用状況報告および後期数学相談室について、令和3年度FD·SD活動報告書(中間)について、第4・5・6・7回大学教育開発センター委員会報告について	FD·SD	児玉,山中,鍛治,字佐見,田崎,赤堀,坂東,古川,前川,中村,片桐,谷田,松村,大久保(教員計14名)東海林,橘(職員計2名)	
4	令和3年12月16日	学生面談の記録方法について、教養教育(G科)からの教育改善委員選出における任用ルールの変更について、令和3年度各学部・研究科等におけるFD・SD活動報告の作成について、線形代数及び微分積分の再試験対象者への補講実施・課題提出に替わる対応について、数学相談室の運営体制について	FD·SD	児玉,山中,鍛治,字佐見,田崎,赤堀,坂東,古川,前川,中村, 片桐,谷田,松村,大久保(教員計14名)東海林,橘(職員計2名)	
各専攻 FD·SD 会議					
数学専攻 FD·SD 会議					
1	令和3年6月24日	前期数学相談室について	FD·SD	植松, 内村, 大西, 鍜治, 許斐, 佐藤, 柴田, 鈴木, 土田, 冨田, 長郷, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬(16名)	
2	令和3年9月9日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD·SD	植松,内村,大西,小澤,鍜治, 許斐,佐藤,柴田,鈴木,土田, 冨田,長郷,橋本,日比野,前野, 三町,村瀬(17名)	

口	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
3	令和 3 年12月23日	後期数学相談室について	FD·SD	植松,内村,大西,小澤,鍜治, 許斐,佐藤,柴田,鈴木,土田, 冨田,長郷,橋本,日比野,前野, 三町,村瀬(17名)
情報	工学専攻 FD・SD	会議		
1	令和3年4月8日	新入生向けスタートアップセミナー について、リフレッシュセミナーの アンケート集計結果の報告、PC 必携 化に関するアンケート中間報告、学 生向け学科アカウントに関する報告	FD·SD	田中(議長), 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎(記録), 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤(計19名)
2	令和3年4月22日	新入生パソコン・インターネット環境 調査結果,遠隔講義困難科目と学外実 施科目の調査,濃厚接触者の連絡につ いて,学科ICT関連,スタートアッ プセミナー発表会,実験室の後始末	FD·SD	田中(議長), 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓),山田(宗),山本,吉川, 米澤(記錄)(計19名)
3	令和3年5月13日	実験室整備計画と予算執行について、「情報工学の世界」オープンラボ日程と実施方法、AWS Educate・卒業研究向けクラスについて、数理・データサイエンスについて、コロナに関連した研究室学生の管理について	FD·SD	田中(議長), 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎(記録), 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤(計19名)
4	令和3年5月27日	情報工学実験 III で使用する新教材検 討用の物品購入,「情報工学の世界」 オープンラボの実施方法	FD	田中(議長), 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓),山田(宗),山本,吉川, 米澤(記録)(計19名)
5	令和3年6月10日	IT エンジニア育成プロジェクト	SD	田中(議長),旭,宇佐見,亀谷,川澄,小中,佐川,鈴木,中野,野崎,坂野,向井,柳田,山田(啓),山田(宗),山本,吉川,米澤,水沼(記錄)(計19名)
6	令和3年6月24日	教育改善委員会審議事項, フレッシュ マンセミナー関連	SD	田中(議長), 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 水沼(記錄)(計19名)
7	令和3年7月15日	ゼミナール・配属関連、後期の授業の開講方法の調査、Google ドライブのセキュリティアップデートの適用について、ハッカソン・コンテスト関係の周知、2022年度授業時間割のチェック	FD·SD	田中(議長), 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 水沼(記録)(計19名)
8	令和3年9月9日	教育改善委員会審議事項, TOEIC-IP 試験, GPS-Academic, 研究室配属お よびゼミナール, 後期の講義教室の 修正,成績不振者面談, JPHACKS2021 について	FD·SD	田中(議長), 旭, 字佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 水沼(記録)(計19名)

口	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
9	令和3年9月30日	令和4年度教育課程編成方針に係る 検討について	FD·SD	田中(議長),旭,宇佐見,亀谷,川澄,小中,佐川,鈴木,中野,野崎,坂野,向井,柳田,山田(啓),山田(宗),山本,吉川,米澤,水沼(記録)(計19名)
10	令和3年10月14日	学習成果可視化および MEC プログラムについて	FD·SD	田中(議長), 旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 水沼(記録)(計19名)
11	令和3年12月23日	学びのコミュニティ申請,情報工学 部ポータルサイトの提案,グローバ ルゼミナール	FD·SD	田中(議長), 旭, 字佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 中野, 野崎, 坂野, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 水沼(記録)(計19名)
電気	電子工学専攻 FD	·SD 会議		
1	令和3年7月9日	遠隔授業に関するアンケート実施に ついて	FD·SD	平松, 伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
2	令和3年8月2日	ダッシュボードの活用について	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
3	令和3年8月28日	2021年度前期三者面談について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
4	令和3年9月9日	GPA を用いた成績評価に関して	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
5	令和3年9月30日	後期授業方法について	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
6	令和3年10月14日	学修成果の可視化に係る外部調査について	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
7	令和3年11月25日	附属高校特別推薦入学者への入学前 指導について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)

			ED CD	
回	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
8	令和3年11月12日	附属高校特別推薦入学者への入学前 指導について、ダッシュボードの活 用について	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
9	令和4年1月13日	コロナ禍における新しい授業の取り 組みについて	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
10	令和4年1月27日	誰もが安心して著作物が利用できる 環境について、2021年度活動自己点 検について	FD·SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上(計18名)
材料	機能工学専攻 FD	· SD 会議		
1	令和3年4月8日	第1回材料機能工学専攻FD・SD会議: 科学技術リテラシー (ラボツアー, プレゼン実習) の日程確認と実施内容の検討, 基礎学力テストの実施内容確認, 材料機能工学概論の実施内容確認 (実感教育のみ対面授業での実施)	FD	六田,成塚,上山,竹内,宇佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計12名)
2	令和3年4月22日	第2回材料機能工学専攻FD·SD会議:2,3年生のグループ面談の実施日程内容確認,ラボツアーの実施日程内容確認,数理・データサイエンス・AIに関連する科目の内容確認と年次決定,アクティブラーニングの実施状況と啓蒙活動報告	FD	六田,上山,竹内,字佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計11名)
3	令和3年5月27日	第3回材料機能工学専攻FD·SD会議:2年生プレゼンテーション実習の実施について,2,3年生のグループ面談の実施状況について,本学科および応用化学科教員との共同運営内容の提案	FD·SD	六田,上山,竹内,宇佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計11名)
4	令和3年6月10日	第4回材料機能工学専攻FD·SD会 議:JABEE審査に関する審査日程お よび内容確認	FD	六田,上山,竹内,宇佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計11名)
5	令和3年6月24日	第5回材料機能工学専攻FD·SD会議:2022年度共同開講の状況説明, 学習成果の把握と可視化について JSAAP活用と内容説明,NASを利用したJABEE審査の効率化	FD	六田,成塚,上山,竹内,宇佐美,宫嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計12名)
6	令和3年7月8日	第6回材料機能工学専攻FD・SD会議:コース制への移行に関する検討, 材料機能工学実験IIの成績報告と懸 念学生のリストアップ	FD·SD	六田,成塚,上山,竹内,宇佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計12名)

回	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
7	令和3年7月15日	第7回材料機能工学専攻FD·SD会 議:データサイエンス・AI入門の設 定年次決定(3年次前期), JABEE 審査における補助資料の作成と内容 確認ならびに改善例追加	FD·SD	六田,成塚,上山,竹内,宇佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計12名)
8	令和3年9月9日	第8回材料機能工学専攻FD·SD会議:教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に関する検討,同議題における成績分布の現状確認及び把握,課題の有無を確認し,検討事項以下列挙・コロナ禍における授業形態の変化のため(有事),単純比較困難,平時での比較が妥当・他分野の科目間での成績評価基準の平準化は困難・教養・専門科目間においてGPAに乖離あってしかるべき	FD	六田,成塚,上山,竹内,宇佐美,宮嶋,田中,今井,岩谷,服部,榎本,赤堀(計12名)
9	令和3年9月30日	第9回材料機能工学専攻FD·SD会議:JABEE審査の評価項目の検討依頼,卒業研究の前期取組点集計完了報告と学生周知連絡,材料機能工学実験Ⅲ(エンジンの組み立て)の実験に関して他学科との装置の共同利用の検討,卒業研究未着手の4年生の面談報告,キャリアアップセミナー開催報告,フレッシュマンセミナー開催報告	FD	六田, 榎本, 今井, 田中, 上山, 竹内, 岩谷, 宇佐美, 服部, 成塚, 赤堀, 宮嶋 (計12名)
10	令和3年10月14日	第10回材料機能工学専攻 FD·SD 会 議:材料機能工学科と応用化学科の 改組に関する協議,地区懇談会の総括	FD	六田,岩谷,字佐美,上山,竹内,成塚,服部,宮嶋,赤堀,今井,田中,榎本(計12名)
11	令和 3 年10月28日	第11回材料機能工学専攻 FD·SD会議:複数教員担当科目のシラバスおよび成績入力責任者の変更検討,新入生オリエンテーションの説明,プラクティカルイングリッシュ(3年生)のコマ選択数増加の検討,研究紹介WEB 版担当者の選出,材料機能工学科と応用化学科の改組に関する協議	FD	六田,岩谷,字佐美,竹内,成塚,宮嶋,田中,榎本,今井(計9名)
12	令和3年11月25日	第12回材料機能工学専攻 FD·SD会議:外部評価委員会の報告,基礎ゼミナール(基礎から学ぶ機械加工1および2)開講の説明,JABEEの対応表の改訂検討,新入生オリエンテーションおよび在学生ガイダンスの開催説明,材料機能工学科と応用化学科の改組に関する協議	FD	六田, 服部, 上山, 竹内, 榎本, 宇佐美, 宮嶋, 赤堀, 今井, 成塚, 田中, 岩谷(計12名)

□	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
13	令和3年12月23日	第13回材料機能工学専攻 FD・SD 会 議:データサイエンス・AI 入門の学 習教育目標対応表の確認	FD	六田,岩谷,宇佐美,服部,竹内,宫嶋,赤堀,榎本,田中,今井,成塚,上山(計12名)
14	令和4年1月13日	第14回材料機能工学専攻 FD・SD 会 議: 2年次のフレッシュマンセミナー 開催説明,来年度の1,2年次の TOEIC 実施の検討	FD	六田, 宇佐美, 成塚, 田中, 赤堀, 上山, 宮嶋, 今井, 服部, 竹内(計 10名)
応用	化学専攻 FD·SD	会議		
1	令和3年4月8日	第1回応用化学科・応用化学専攻FD・SD合同会議:前期休学(SD),校内安全環境改善(SD),学年間の学生交流(SD),実験共通設備関連(SD),外部評価委員(SD),MS-26(SD),新入生啓蒙活動(SD)	SD	丸山,大脇,坂,坂東,永田,池邉,小澤,田浦,田中,才田(計10名)
2	令和3年5月13日	第2回応用化学科・応用化学専攻FD・SD合同会議:大学見学会 津島東高校 (SD),安全配慮を要する学生への対応 (SD),オープンキャンパス (SD),外部評価委員 (SD),教育改善関連 (FD・SD),実験設備関連 (FD),数理・データサイエンス・AI に関連する科目の設置 (FD),カリキュラム WG (FD),改組検討委員会 (SD),MS-26のポスターセッション (SD)	FD·SD	丸山, 永田, 坂, 坂東, 池邉, 田中, 小澤, 才田, 田浦, 大脇(計10名)
3	令和3年5月27日	第3回応用化学科・応用化学専攻FD・SD合同会議:学科別懇談会関連(SD),6月以降の授業形態・PROGテストについて(SD・FD),教務関連(FD・SD),オープンキャンパス関連(SD),将来問題検討関連(SD),実験実習費(SD)	FD·SD	丸山,池邉,大脇,小澤,才田, 田浦,田中,永田,坂東,坂(計 10名)
4	令和3年6月24日	第4回応用化学科・応用化学専攻FD・SD合同会議:学生の面談(SD), オープンキャンパスについて(SD), 教育改善関連(SD), カリキュラムWG(FD), 教務関連(FD・SD), 学科予算(SD),自己点検評価(SD), 学生委員会(SD)	FD·SD	丸山,才田,坂東,田中,田浦,小澤,池邉,坂,大脇,永田(計10名)
5	令和3年9月30日	第6回応用化学科・応用化学専攻 FD・SD合同会議: 学生対応について (SD), 外部評価委員会 (SD), 就職関連 (SD), 教務関連 (FD), 地区懇談会 (SD)	FD·SD	丸山, 永田, 田浦, 坂, 池邉, 才田, 田中, 小澤, 大脇, 坂東(計10名)

口	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
6	令和3年10月14日	第7回応用化学科・応用化学専攻 FD・SD合同会議: PROGテスト (SD),将来問題検討小委員会(SD), 地区懇談会開催(SD)	SD	丸山, 坂東, 坂, 大脇, 永田, 池邉, 小澤, 才田, 田浦, 田中(計10名)
7	令和3年11月25日	第8回応用化学科・応用化学専攻FD・SD合同会議: さくらサイエンスプラン (SD), 外部評価委員会(SD), 教務関連 (FD・SD), 総務関連 (SD), 将来問題検討小委員会(SD)	FD·SD	丸山, 坂東, 坂, 大脇, 永田, 池邉, 才田, 田浦, 田中, 小澤 (計10名)
8	令和3年12月2日	第9回応用化学科・応用化学専攻FD・SD合同会議:応用化学ゼミナールオープンラボ(FD),非常勤講師の任用(SD),R4年度のクラス担任(SD),応化チャレンジの発表会(SD),学生関係(SD),機器分析室の使用に関して(SD),将来問題検討会(SD)	FD·SD	丸山, 永田, 坂, 大脇, 坂東, 田中, 小澤, 田浦, 才田, 池邉(計10名) 将来問題検討会:(学部長)齊藤 先生,(協議員)児玉先生
9	令和3年12月23日	第10回応用化学科・応用化学専攻 FD・SD 合同会議: 学生関係 (SD), 機器分析室の使用 (SD), 応化実験 時の実験ノート作成にかかわる統一 (FD)	FD·SD	丸山, 坂東, 坂, 大脇, 永田, 池邉, 小澤, 才田, 田中, 田浦(計10名)
10	令和4年1月8日 ~17日	第11回応用化学科・応用化学専攻 FD・SD 合同会議:学科機器分析室 利用について(SD),定期試験にお けるコロナ対応(SD),R2 棟学科使 用面積再配分について(SD)	SD	丸山,大脇,永田,坂,池邉,才田,小澤,田中,田浦,坂東(計10名)
11	令和4年1月21日 ~27日	第12回応用化学科・応用化学専攻 FD・SD 合同会議:R2棟の再配分 面積使用計画について(SD)	SD	丸山,大脇,永田,坂,池邉,才田, 小澤,田中,田浦,坂東(計10名)
機械	工学専攻 FD·SD	会議		
1	令和3年4月15日	卒業アンケートについて	FD·SD	久保, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川(計13名)
2	令和3年5月27日	卒業生調査報告書について	FD·SD	久保, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川(計13名)
3	令和3年6月10日	帝京大学 FD フォーラム「大学の授業運営における著作権への考え方について」に基づく教育改善について	FD·SD	久保, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川(計13名)
4	令和3年9月9日	第13回 FD 学習会「数理・データサイエンス・AI 教育の必要性と実践」 に基づく教育改善について	FD·SD	久保, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川(計13名)
5	令和3年9月9日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD·SD	久保, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川(計13名)

株式			-M. Her	FD · SD	all and to see to
(5) 令和3年9月30日 教育研究への活用について	П	日程	議題	区分	出席者氏名
	6	令和3年9月30日		FD·SD	久保, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川(計13名)
# 1 回交通機械工学専攻 FD・SD 会 議: 遠隔講義終了後の対面講義対応 FD・SD	7	令和3年11月11日	実質化と恒常化を目指して一認証評価を目前に考える一」を受講し、今	FD·SD	久保, 池本, 大島, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川 (計13名)
□ 令和3年4月22日 議: 遠隔講義終了後の対面講義対応 他について 第2回交通機械工学専攻 FD・SD 会 議: 来年度在学生ガイダンスの実施 FD・SD	交通	機械工学専攻 FD	· SD 会議		
2 令和3年5月27日 歳: 来年度在学生ガイダンスの実施 FD·SD 西村、菅、横谷、仙場、宮田、早崩村尾、山崎(計13名) 加鳥、相馬、前川、鈴木、中島田標と学修成果他について 第3回交通機械工学専攻 FD·SD会 武・教員間もしくは授業科目間の成 銀評価基準の平準化に係る検討他について 第5回交通機械工学専攻 FD·SD会 歳: 教員間もしくは授業科目間の成 銀評価基準の平準化に係る検討他について 第5回交通機械工学専攻 FD·SD会 歳: 教員間もしくは授業科目間の成 4 令和3年1月13日 衆欠席取り扱いの説明、2)教員間 ネットワーク ものづくり分科会からの報告 第6回交通機械工学専攻 FD·SD会 歳: 1) 2022年度学生便覧「卒業要件」の一部変更について、2) コロナ感染拡大時の定期試験の対応について 説明 第7回交通機械工学専攻 FD·SD会 歳: 1) 2022年度学生便覧「卒業要件」の一部変更について、2) 対日は 対尾、山崎(計13名) が見、山崎(計13名) が見、前側、前川、鈴木、中島、西科・大蔵・菅、横谷・菅野、仙場、宮田・村尾、山崎(計13名) 第7回交通機械工学専攻 FD·SD会 歳: 1) 2022年度学生便覧「卒業要件」の一部変更について、2) 就職で大学推薦を希望する学生に対する誓約書の署名・捺印者について、3) 8 古の交通機会のリモート開催について、4) 2024年度以降の T科入学定員について、5) 就職で大学推薦を希望する学生に対する誓約書の発行開始日時について、6) 企業及び本学大学院への推薦書発行について 5 企業及び本学大学院への推薦書発行について 5 企業及び本学大学院への推薦書発行について 5 企業及び本学大学院への推薦書発行について 5 企業及び本学大学院への推薦書発行について 5 企業及び本学大学院への推薦書発行について 5 表型コロナ感染者・濃厚接触者発生 5 井上、楊、関山、佐伯、大原、目月澤、畑、市川、星野、野々川	1	令和3年4月22日	議:遠隔講義終了後の対面講義対応	FD·SD	加鳥,前川,鈴木,中島,西村,菅,横谷,仙場,宮田,村尾,山崎(計11名)
3 令和3年6月24日	2	令和3年5月27日	議:来年度在学生ガイダンスの実施	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 菅, 横谷, 仙場, 宮田, 早藤, 村尾, 山崎 (計13名)
議: 教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討他について 第5回交通機械工学専攻 FD・SD 会議: 1) 感染症を理由とする定期試験欠席取り扱いの説明, 2) 教員間ネットワーク ものづくり分科会からの報告 第6回交通機械工学科 FD・SD 会議: 1) 2022年度学生便覧「卒業要件」の一部変更について、2) コロナ感染拡大時の定期試験の対応について説明 第7回交通機械工学科 FD・SD 会議: 1) 2022年度学生便覧「卒業要件」の一部変更について、2) コロナ感染が大時の定期試験の対応について説明 第7回交通機械工学専攻 FD・SD 会議: 1) 2022年度学生便覧「卒業要件」の一部変更について、2) 就職で大学推薦を希望する学生に対する誓約書の署名・捺印者について、2) 就職で大学推薦を希望する学生に対する誓約書の署名・捺印者について、4) 2024年度以降の工科入学定員について、5) 就職で大学推薦を希望する学生に対する誓約書の発行開始日時について、6) 企業及び本学大学院への推薦書発行についてメカトロニクス工学専攻 FD・SD 会議 新型コロナ感染者・濃厚接触者発生	3	令和3年6月24日	議:学位授与方針に定められた学修	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 菅, 横谷, 仙場, 宮田, 早藤, 村尾, 山崎 (計13名)
議: 1) 感染症を理由とする定期試験欠席取り扱いの説明、2) 教員問ネットワークものづくり分科会からの報告 第6回交通機械工学科FD・SD会議: 1) 2022年度学生便覧「卒業要件」の一部変更について、2) コロナ感染拡大時の定期試験の対応について説明 第7回交通機械工学専攻FD・SD会議: 1) 2022年度学生便覧「卒業要件」の一部変更について、2) 就職で大学推薦を希望する学生に対する誓約書の署名・捺印者について、3) 修士論文公聴会のリモート開催について、4) 2024年度以降のT科入学定員について、5) 就職で大学推薦を希望する学生に対する誓約書の発行開始日時について、6) 企業及び本学大学院への推薦書発行についてメカトロニクス工学専攻FD・SD会議 1 令和3年5月13日 新型コロナ感染者・濃厚接触者発生時の演習の実施方法について 新型コロナ感染者・濃厚接触者発生時の演習の実施方法について 新型コロナ感染者・濃厚接触者発生時の演習の実施方法について 新型コロナ感染者・濃厚接触者発生時の演習の実施方法について 新型コロナ感染者・濃厚接触者発生時の演習の実施方法について ##L, 楊, 関山, 佐伯, 大原, 目標 一時にの演習の実施方法について	4	令和3年9月9日	議:教員間もしくは授業科目間の成 績評価基準の平準化に係る検討他に	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 大蔵, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎(計14名)
議: 1) 2022年度学生便覧「卒業要件」 の一部変更について、2) コロナ感 染拡大時の定期試験の対応について 説明 第7回交通機械工学専攻 FD・SD 会 議: 1) 2022年度学生便覧「卒業要件」 の一部変更について、2) 就職で大 学推薦を希望する学生に対する誓約 書の署名・捺印者について、3) 修 士論文公聴会のリモート開催について、4) 2024年度以降の T 科入学定員について、5) 就職で大学推薦を 希望する学生に対する誓約書の発行開始日時について、6)企業及び本 学大学院への推薦書発行について メカトロニクス工学専攻 FD・SD会議 新型コロナ感染者・濃厚接触者発生 時の演習の実施方法について FD・SD 加鳥, 前川, 絹糸, 草野, 仙場 宮田, 大蔵, 菅, 横谷, 菅野, 仙場 宮田, 村尾(計13名) 井上, 楊, 関山, 佐伯, 大原, 目見 声深, 畑, 市川, 星野, 野々月	5	令和 3 年12月23日	議:1) 感染症を理由とする定期試験欠席取り扱いの説明,2) 教員間ネットワーク ものづくり分科会か	FD·SD	加鳥, 相馬, 前川, 鈴木, 中島, 西村, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤(計14名)
議: 1) 2022年度学生便覧「卒業要件」 の一部変更について、2) 就職で大 学推薦を希望する学生に対する誓約 書の署名・捺印者について、3) 修 士論文公聴会のリモート開催について、4) 2024年度以降のT科入学定員について、5) 就職で大学推薦を 希望する学生に対する誓約書の発行開始日時について、6)企業及び本学大学院への推薦書発行について メカトロニクス工学専攻 FD・SD 会議 新型コロナ感染者・濃厚接触者発生時の演習の実施方法について # 上, 楊, 関山, 佐伯, 大原, 目標	6	令和4年1月13日	議:1)2022年度学生便覧「卒業要件」 の一部変更について、2)コロナ感 染拡大時の定期試験の対応について	FD·SD	
新型コロナ感染者・濃厚接触者発生 1 令和3年5月13日 新型コロナ感染者・濃厚接触者発生	7	令和4年1月27日	議:1)2022年度学生便覧「卒業要件」の一部変更について,2)就職で大学推薦を希望する学生に対する誓約書の署名・捺印者について,3)修士論文公聴会のリモート開催について,4)2024年度以降のT科入学定員について,5)就職で大学推薦を希望する学生に対する誓約書の発行開始日時について,6)企業及び本	FD·SD	加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 中島, 西村, 大蔵, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾(計13名)
1 令和3年5月13日 新型コロナ感染者・濃厚接触者発生 FD 芦澤,畑,市川,星野,野々川	メカ	トロニクス工学専攻	FD·SD 会議		
	1	令和3年5月13日		FD	井上,楊,関山,佐伯,大原,目黒, 芦澤,畑,市川,星野,野々川, 太田 (計12名)

□	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
2	令和3年7月15日	授業改善アンケートについて	FD	井上,楊,関山,佐伯,大原,目黒, 芦澤,畑,市川,星野,野々川, 太田(計12名)
3	令和3年9月21日	理工学部成績分布について	FD	井上,楊,関山,佐伯,福田,大原, 目黒,芦澤,畑,市川,星野,野々川, 太田(計13名)
4	令和3年9月30日	成績評価の方法について	FD	井上,楊,関山,佐伯,大原,目黒, 芦澤,畑,市川,星野,野々川, 太田(計12名)
5	令和3年10月14日	成績の平準化について、PROGテストについて、FD・SDフォーラムについて、ルーブリック作成ワーキングについて	FD·SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原(計11名)
6	令和3年11月25日	1・2年生の面談について、必修講義の学習達成度評価作成に係る方針について	FD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原(計 11名)
7	令和 3 年12月23日	PROG テストの結果の活用方法について	FD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原(計11名)
8	令和4年1月13日	学位授与(修士課程)のための評価 基準の検討について	FD·SD	芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原(計7名)
社会	基盤デザイン工学専	攻 FD·SD 会議		
1	令和3年4月8日	「グローバルインターンシップ」「社会 基盤デザインセミナー I 」の実施方 法について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
2	令和3年4月22日	「フレッシュマンセミナー」「キャリア デザイン」の実施方法について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
3	令和 3 年 5 月27日	「キャリアデザイン」の実施方法と学 内業務での感染対応について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
4	令和 3 年 6 月24日	外部評価委員会と重点予算配分について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
5	令和3年7月15日	副査面談の実施方法と大学院奨学生 の研究業績の評価方法について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
6	令和3年9月9日	成績評価基準の平準化とグローバル インターンシップの中間報告につい て	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計13名)
7	令和3年9月30日	オンライン講義のあり方について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 渡辺, 新井, 岩下, 中村, 藤井(計13名)
8	令和3年10月14日	グローバルインターンシップ報告会 について	FD·SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 渡辺, 新井, 岩下, 中村, 藤井(計13名)

			1	
回	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
9	令和3年11月25日	学科内教育改善委員会報告について 副査面談の情報共有	FD·SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 渡辺, 新井, 岩下, 中村, 藤井(計13名)
10	令和3年12月23日	就職について、研究室配属について	FD·SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 渡辺, 新井, 岩下, 中村, 藤井(計13名)
11	令和4年1月13日	HP について、卒業時アンケートについて、卒業関連提出物の電子化について、公開講座について	FD·SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺(計12名)
環境	創造学専攻 FD・S	SD 会議		
1	令和3年4月2日	シラバスへのアクティブ・ラーニン グの手法の記載について	FD	道正, 西山, 三宅, 小塩, 片桐, 日比, 広瀬, 武藤(計8名)
2	令和3年6月24日	「学位授与方針」に定められた学修目標と学修成果に関する情報の関係について	FD·SD	道正,西山,三宅,小塩,片桐,日比,広瀬,武藤(計8名)
3	令和3年9月9日	理工学部入学前オリエンテーション について、FD学習会について、 PROGテストの実施について、教員 間もしくは授業科目間の成績評価基 準の平準化に係る検討について	FD·SD	道正,西山,三宅,吉村,小塩,片桐,日比,広瀬,武藤(計9名)
4	令和3年9月30日	前期授業改善アンケートについて	FD	道正,西山,三宅,吉村,小塩,片桐,日比,広瀬,武藤(計9名)
5	令和3年10月14日	来年度の外部調査 (PROGテスト) の実施について	FD·SD	道正,西山,三宅,吉村,小塩,片桐,日比,広瀬,武藤(計9名)
6	令和3年11月25日	シラバスへのアクティブ・ラーニングの手法の記載について、附属高校特別推薦入学者への入学前指導について	FD·SD	道正,西山,三宅,吉村,小塩,片桐,日比,広瀬,武藤(計9名)
7	令和 3 年12月23日	PROG テストの結果および返却について	FD·SD	道正, 西山, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 日比, 広瀬, 武藤(計9名)
建築	学専攻 FD・SD 会	議		
1	令和3年9月2日	平準化について、評価のスタンスに ついて、科目特性について、学生レ ベルについて、達成内容について、 大学レベルについて	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤, 岡田,石井,大塚,生田,吉永, 平岩,谷田,三浦,高橋,松田, 米澤,佐藤(計17名)
2	令和3年9月16日	附属高校プレテストについて, 地区 懇談会について, 外部評価委員会に ついて	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤, 岡田,石井,大塚,生田,吉永, 平岩,谷田,三浦,高橋,松田, 米澤,佐藤(計17名)
3	令和3年9月30日	Web オープンキャンパスについて、 教育課程編成方針について、学生へ の推奨 PC スペックについて	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤, 岡田,石井,大塚,生田,吉永, 平岩,谷田,三浦,高橋,松田, 米澤,佐藤(計17名)

田	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
4	令和3年10月14日	PROGテストについて、国際専門研修プログラムについて、単位認定インターンシップについて	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤, 岡田,石井,大塚,生田,吉永, 平岩,谷田,三浦,高橋,松田, 米澤,佐藤(計17名)
5	令和 3 年10月28日	将来問題検討について, 附属高校特別推薦入学者への入学前指導につい て	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤, 岡田,石井,大塚,生田,吉永, 平岩,谷田,三浦,高橋,松田, 米澤,佐藤(計17名)
6	令和3年11月11日	編入学基礎学力調査科目について, 外部評価委員会開催に関して	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤, 岡田,石井,大塚,生田,吉永, 平岩,谷田,三浦,高橋,松田, 米澤,佐藤(計17名)
7	令和3年12月2日	ゼミ配属方法について, エクステン ション講座について	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤, 岡田,石井,大塚,生田,吉永, 平岩,谷田,三浦,高橋,松田, 米澤,佐藤(計17名)
8	令和 3 年12月23日	新入生オリエンテーション・在学生 ガイダンス実施方法について,フレッ シュマンセミナーに関して	FD·SD	高井,鈴木,吉久,市之瀬,武藤, 岡田,石井,大塚,生田,吉永, 平岩,谷田,三浦,高橋,松田, 米澤,佐藤(計17名)
教養	教育 FD・SD 会議			
1	令和3年4月23日	・理工学部の事業計画書について	FD	土屋(科長),中山(議長),景山, 大久保,鈴木,斎藤,大知,森口, 本田,長澤,神藤,中村,松村, 榎本,加藤,内田,日比野,田中, 宮北(書記)(計19名)
2	令和3年6月24日	・教員業績評価について ・授業改善アンケートについて	FD·SD	土屋(科長),中山(議長),大久保, 景山,宮北,本田,加藤,長澤, 松村,中村,森口,日比野,鈴木, 榎本,田中,齊藤,内田(書記) (計18名)
3	令和3年7月15日	・第13回 FD 学習会の開催について ・第14回 FD 学習会の開催について	FD	土屋(科長),中山(議長),大久保,齊藤,森口,宮北,中村,本田,加藤,日比野,内田,長澤,榎本,田中,鈴木,松村,神藤(書記)(計17名)
4	令和3年9月9日	・成績評価基準の平準化について	FD	土屋(科長),中山(議長),景山, 大久保,鈴木,斎藤,大知,森口, 長澤,神藤,中村,松村,榎本, 加藤,内田,日比野,本田(書記) (計17名)
5	令和3年9月30日	・JABEE 資料の提出について ・授業評価アンケートの教員コメン トについて	FD	土屋(科長),中山(議長),景山, 鈴木,斎藤,大知,森口,本田, 長澤,神藤,中村,松村,榎本, 加藤,内田,日比野,田中,大久保 (書記)(計18名)

回	日程	議題	FD·SD 区分	出席者氏名
6	令和3年10月14日	・FD・SDフォーラムの開催案内に ついて	FD·SD	土屋(科長),中山(議長),景山, 鈴木,斎藤,大知,森口,本田, 長澤,神藤,中村,松村,榎本, 加藤,内田,日比野,田中,大久保 (書記)(計18名)
7	令和 3 年12月23日	・授業改善アンケートについて・FD 研修会について・シラバスのアクティブラーニング記載について	FD	土屋(科長),中山(議長),鈴木, 斎藤,大知,本田,長澤,神藤, 中村,松村,榎本,加藤,内田, 日比野,田中,森口(書記)(計16名)
8	令和4年1月27日	・外国語学部 FD ワークショップに ついて・大学教育改革フォーラムについて	FD·SD	土屋(科長),中山(議長),景山, 大久保,鈴木,斎藤,大知,森口, 本田,長澤,神藤,中村,宮北, 榎本,加藤,内田,日比野,田中, 松村(書記)(計19名)

学部・研究科・センター (農学部)

1. 令和3年度の活動報告

農学部は、生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の各学科会議および農場教員会議を分科会と位置づけFD・SD活動に取り組んでいる。これらの分科会および教授会において、学生の修学および生活について教職員間で意見交換を行い、農学部のディプロマ・ポリシーに基づく教育および研究活動の充実を行っている。具体的な取り組みとして、定例で開催されている学科会議や農場教員会議等において、教育改善のための意見交換を行い、授業満足度調査からの授業内容のほかに、実験実習、研究活動、キャリア教育などの充実も視野に入れ、総合的な教育改善を検討し推進している。そのために、学部FD・SD委員を中心に現状を分析し、各学科にて改善策を講じ、学務委員会や学部FD・SD委員会でそれらをまとめてカリキュラムの検討・検証および、同系の授業科目群の目標を設定し、それらを各教員が教育や研究に反映する。学科および農場に共通する案件については学部教授会等の時間に学部全教員で情報交換することで、教育改善への具体的取り組みについてのイメージを共有できるようにする。下記の活動記録に記述した通り、各分科会で具体的に取り組んでいる。

- ①昨年度に引き続き今年度も学修成果を可視化する取組に基づく教育改善のために、外部調査として1年次、3年次を対象にGPS-Academicによるアンケート調査を実施した。3年間実施したことで1年次から3年次までの2年間の学修成果の可視化が可能になったことから、外部調査委託先のベネッセiキャリアに解析を依頼した。その結果概要を報告してもらうFD・SD学習会を開催した。
- ②各学科ともに「履修系統図」「ポートフォリオ」への取り組みに加え、生物資源学科では新研究室設立に向けた議論を進めている。また昨年度に引き続き本年度も新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、教室の座席配置を千鳥配置にするなど徹底した感染予防対策を実施した。感染が落ち着いている時期は原則対面授業を実施し、感染が拡大した時期はスムーズに遠隔授業に切り替える体制を整備した。また、実験室の広さに対する学生数を考慮して、一部の実験授業ではソーシャルディスタンスを確保するため、少人数受講体制を整えた。

2. 今後の課題、方向性

遠隔授業の実施を経て、学部や学科等の組織単位ならびに教員個々の単位でメリットとデメリットが議論できる体制になった。今後の社会的状況(例えばパンデミック)に応じた授業体制の構築についての議論の場を、積極的に設定していく必要がある。

経常的な課題として、入試区分や入学時の成績、在学中のGPAベースでの成績、キャリア形成支援に至る学生個別のポートフォリオを作成することで、より学修行動に限定せず、学生そのものの属性と動向を紐付け調査し、教育効果を高める方法について検討する必要がある。そのた

め、入試委員会、学務委員会、キャリア委員会との連携が必要である。

今後も学科会議および農場教員会議単位での検討体制に変わりなく、従来からの一貫性と継続性を強く意識した対応のあり方を模索する。また、個別の学科に限定せず、学科横断的に検討すべき、ならびに学部全体で取り組むべき、ひいては大学院教育ともリンケージさせた対応を提言する、という立場から、農学部 FD・SD 委員会で積極的に情報交換を行うこととする。

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和3年4月2日	第1回農場教員会議 ・教員編成方針について ・農場における授業の実施について	FD·SD	平野、中尾、森田(隆)、森田(裕)、 片山
2	令和3年4月8日	第1回農学部教授会 ・ハラスメント防止に関する研修会 ・著作権法改正の概要と対応が必要 となる事項について	FD·SD	議井、氏田、汪、大浦、加藤、木岡、 鈴木、田村、津呂、寺田、新妻、 林(利)、日野、平野、前林、松儀、 湊、森上、山岸、山口、天野、荒川、 上船、奥村、長田、香村、近藤、 志水、塚越、中尾、橋本、濱本、 平児、細田、村野、森田(隆)、 森田(裕)、安原、黒川、近澤、藤、 長澤、楢崎
3	令和3年4月8日	第1回生物資源学科会議 ・農学部教員編制について ・成績不振者の対応等について ・遠隔授業が困難な科目に関して ・学位授与方針対応表を用いた教育 課程の自己点検の実施について	FD·SD	山岸、寺田、平野、津呂、荒川、 平児、上船、塚越、黒川、鈴木
4	令和3年4月8日	第1回応用生物化学科会議 ・遠隔授業が不可能で大学において 実施する授業について ・応用生物化学科2年次ミキサーに ついて ・学位授与方針対応表・履修系統図 等の確認について ・応用生物科学概説と基軸科目「生 命・食料・環境」の実施について	FD·SD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林 (利)、前林、 松儀、湊、山口(秀)
5	令和3年4月8日	第1回生物環境科学科会議 ・遠隔授業が困難な科目に関する調査票について ・障がい学生の対応 ・1年生オリエンテーションについて	FD·SD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、 近藤、藤、礒井、村野、橋本、楢崎、 大浦
6	令和3年4月15日	第2回生物資源学科会議 ・農学部教員編制について	SD	森上、山岸、平野、津呂、荒川、 平児、上船、塚越、黒川、鈴木

□	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
7	令和3年4月22日	第3回生物資源学科会議 ・遠隔授業が困難な科目に関する調 査 ・授業録画システムの運用について	FD	津呂、寺田、平野、山岸、荒川、上船、塚越、平児、黒川、鈴木
8	令和3年4月22日	第2回応用生物化学科会議 ・学生実験テキストの変更・修正に ついて	FD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊、山口(秀)
9	令和3年4月22日	第2回生物環境科学科会議 ・オムニバス講義の動画の取り扱い について ・地学実験における学外活動の申請 について	FD·SD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、 近藤、藤、礒井、村野、橋本、楢崎、 大浦
10	令和3年5月7日	第2回農場教員会議 ・農場実習4の開講について	FD	平野、中尾、森田(隆)、林(義)、 森田(裕)、片山
11	令和3年5月13日	第3回農学部教授会 ・数理・データサイエンス・AI に関連する科目の設置形態等について	FD·SD	議井、氏田、汪、大浦、加藤、木岡、 鈴木、田村、津呂、寺田、新妻、 林(利)、日野、平野、前林、松儀、 湊、森上、山岸、山口、天野、荒川、 上船、奥村、長田、香村、近藤、 志水、塚越、中尾、橋本、濱本、 平児、細田、村野、森田(隆)、 森田(裕)、安原、黒川、近澤、藤、 長澤、楢崎
12	令和3年5月13日	第4回生物資源学科会議 ・新研究室の設立について	FD·SD	津呂、寺田、平野、森上、山岸、荒川、上船、塚越、平児、黒川、鈴木
13	令和3年5月13日	第3回生物環境科学科会議 ・2022年度時間割について ・DP対応ポートフォリオの確認について ・障がい学生について	FD·SD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、 近藤、藤、礒井、村野、橋本、楢崎、 大浦
14	令和3年5月21日	第3回農場教員会議 ・農場実習での学生対応について	FD	平野、中尾、森田(隆)、林(義)、 森田(裕)、片山
15	令和3年5月24日	第4回応用生物化学科会議 ・2021年度6月1日以降の授業形態 について ・研究室・授業等における感染防止 対策案の集約について	FD	天野、氏田、加藤、志水、近澤、 長澤、濱本、林(利)、前林、松儀、 山口(秀)
16	令和3年5月27日	第4回農学部教授会 ・入学前オリエンテーションの実施 方法について	FD	議井、氏田、汪、大浦、加藤、木岡、 鈴木、田村、津呂、寺田、新妻、 林(利)、日野、平野、前林、松儀、 湊、森上、山岸、山口、天野、荒川、 上船、奥村、長田、香村、近藤、 志水、塚越、中尾、橋本、濱本、 林(義)、平 児、細 田、村 野、 森田(隆)、森田(裕)、黒川、近澤、 藤、長澤、楢崎

且	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
17	令和3年5月27日	第5回生物資源学科会議 ・新型コロナウイルス感染症にかか わる欠席者の扱いについて ・6月以降の授業対応について ・新研究室の名称について	FD·SD	津呂、寺田、平野、山岸、荒川、上船、塚越、平児、黒川、鈴木
18	令和3年5月27日	第5回応用生物化学科会議 ・新型コロナウイルス感染不安での 欠席への配慮の継続について ・原則遠隔授業実施期間の一部対面 授業実施に関する学生への説明に ついて ・研究室やゼミ室等の運営における 感染対策について	FD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊、山口(秀)
19	令和3年5月27日	第5回生物環境科学科会議 ・名城カレンダーについて ・在校生のガイダンス方法について ・研究室配属方法について ・2022年度時間割について ・TA雇用の在り方について	FD·SD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、 近藤、藤、礒井、村野、橋本、楢崎、 大浦
20	令和3年6月3日	第4回農場教員会議 ・授業に関する取扱いについて ・遠隔授業が不可能な授業について ・農場本館改修工事について	FD·SD	平野、中尾、森田(隆)、林(義)、森田(裕)、片山
21	令和3年6月10日	第6回生物環境科学科会議 ・成績不振学生への対応について ・時間割について ・非常勤講師について ・情報科学のTAについて ・学位授与方針対応表の確認 ・研究室配属について ・コロナ感染予防対策について ・生物環境科学科公開講座(11/20) について ・生物環境科学実習について	FD·SD	汪、長田、新妻、田村、近藤、藤、 礒井、村野、橋本、楢崎、大浦
22	令和3年6月24日	第7回応用生物化学科会議 ・令和4年度 学位授与方針対応表 等を用いた教育課程の自己点検に ついて ・応用生物科学概説と生命・食料・環境の成績評価について	FD·SD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊、山口(秀)

□	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
23	令和3年6月24日	第7回生物環境科学科会議 ・名城カレンダーについて ・学位授与方針対応表の確認 ・後期授業形態アンケートについて ・数理・データサイエンス(1年) について ・生物環境科学実習(1年)と生物 保全学実験実習・緑地創造学実験 実習(2年)の担当責任者について	FD·SD	汪、長田、新妻、田村、細田、近藤、藤、礒 井、村 野、橋 本、楢 崎、 大浦
24	令和3年7月8日	第7回農学部教授会 ・2022年度学位授与方針対応表等を 用いた教育課程の自己点検の実施 について	FD·SD	議井、氏田、汪、大浦、加藤、木岡、 鈴木、津呂、寺田、新妻、林(利)、 平野、前林、松儀、湊、森上、山岸、 山口、天野、荒川、上船、奥村、 長田、香村、近藤、志水、塚越、 中尾、橋本、濱本、平児、細田、 村野、森田(隆)、森田(裕)、黒川、 近澤、藤、長澤、楢崎
25	令和3年7月8日	第8回生物資源学科会議 ・来年度の学生実験(生物学実験、 生物資源学実験)について ・卒業研究発表会について	FD	津呂、寺田、平野、山岸、荒川、 上船、塚越、平児、黒川、鈴木
26	令和3年7月8日	第8回応用生物化学科会議 ・数理・データサイエンス・AI教育 の充実について	FD·SD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊、山口(秀)
27	令和3年7月8日	第8回生物環境科学科会議 ・生環実習・実験Iにおける学外活動について ・卒業発表会について ・自己点検等重点課題の状況について ・データサイエンス・AI入門について ・学生対応について	FD·SD	汪、長田、新妻、細田、近藤、藤、 礒井、村野、橋本、楢崎、大浦
28	令和3年7月9日	第5回農場教員会議 ・収穫祭および見学会の実施について ・農場本館リファイニング工事について	FD	平野、中尾、森田(隆)、森田(裕)、 片山
29	令和3年7月29日	第9回生物環境科学科会議 ・後期の授業形態について ・名城カレンダーについて ・学生便覧の修正について ・障がい学生の対応について	FD·SD	汪、長田、新妻、田村、細田、近藤、藤、礒井、村野、橋本、大浦

□	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
30	令和3年8月5日	第6回農場教員会議 ・2022年度農場における授業の実施 について ・農場本館リファイニング工事の進 捗状況について	FD	平野、中尾、森田(隆)、森田(裕)、 片山
31	令和3年9月3日	第7回農場教員会議・農場開講科目について・プロジェクト実習の日程案について・農場本館リファイニング工事の進 捗状況について	FD	平野、中尾、森田(隆)、森田(裕)、 片山
32	令和3年9月9日	第9回農学部教授会 ・教員間もしくは授業科目間の成績 評価基準の平準化について	FD·SD	議井、氏田、汪、大浦、鈴木、田村、 寺田、新妻、林(利)、日野、平野、 前林、松儀、湊、森上、山岸、山口、 天野、荒川、奥村、長田、塚越、 中尾、橋本、濱本、平児、細田、 村野、森田(隆)、森田(裕)、黒川、 近澤、藤、長澤、楢崎
33	令和3年9月9日	第10回生物資源学科会議 ・大学院科目の担当者について ・遠隔授業が困難な科目に関して ・卒業研究発表会の実施形態につい て	FD·SD	津呂、寺田、平野、山岸、荒川、 上船、塚越、平児、黒川、鈴木
34	令和3年9月9日	第11回応用生物化学科会議 ・後期の遠隔授業困難科目等の指定 について ・2021年度卒業研究発表会の実施方法について ・教育活動の見直しに係るデータの 提供について ・2021年度後期実験実習科目の感染 症対策について	FD·SD	天野、氏田、奥村、近澤、長澤、 濱本、林(利)、前林、松儀、湊、 山口(秀)
35	令和3年9月9日	第10回生物環境科学科会議 ・遠隔授業困難科目の追加について ・次年度実験実習に係るバス予約に ついて ・卒業発表会の形式について ・学外実習の対応 ・アセスメント・ポリシーの見直し と教育活動に係るアンケート結果 の確認依頼	FD·SD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、 近藤、藤、礒井、村野、橋本、楢崎、 大浦

□	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
36	令和3年9月21日	 第11回生物資源学科会議 ・教育活動の見直しについて ・学部として検討すべき課題について ・アセスメントポリシーの適切性について ・学生アンケートについて、必要なデータについての検討 	FD·SD	津呂、寺田、平野、山岸、荒川、上船、塚越、平児、黒川、鈴木
37	令和3年9月22日	第8回農場教員会議 ・コロナ禍での実験実習における対応について ・農場本館リファイニング工事後の展示室での展示について	FD	平野、中尾、森田(隆)、森田(裕)、 片山
38	令和3年9月30日	第12回生物資源学科会議 ・新研究室設立に関する教授会への 議題提出について ・2021年度卒業論文発表会など	FD·SD	津呂、寺田、平野、山岸、荒川、 上船、塚越、平児、黒川、鈴木
39	令和3年9月30日	第12回応用生物化学科会議 ・2021年度卒業研究発表会について ・今後の遠隔授業の利用について	FD·SD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊、山口(秀)
40	令和3年9月30日	第11回生物環境科学科会議 ・遠隔講義の運用について ・卒業発表会の形式について ・GPS-Academic について ・TA 予算の変更 ・障がい学生の対応について ・生物環境科学科公開講座について	FD·SD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、 近藤、藤、礒井、村野、橋本、楢崎、 大浦
41	令和3年10月14日	第11回農学部教授会 ・生物資源学科の新研究室の設立に ついて	FD	議井、氏田、汪、大浦、加藤、木岡、 鈴木、田村、津呂、寺田、新妻、 林(利)、日野、平野、前林、松儀、 湊、森上、山岸、山口、天野、荒川、 上船、奥村、長田、香村、近藤、 志水、塚越、中尾、橋本、濱本、 平児、細田、村野、森田(隆)、 森田(裕)、黒川、近澤、藤、長澤、 楢崎
42	令和3年10月14日	第13回生物資源学科会議 ・厳格な成績評価を行うための方策 の検討	FD	津呂、寺田、平野、山岸、荒川、 上船、塚越、平児、黒川、鈴木
43	令和3年10月14日	第13回応用生物化学科会議 ・2022年度以降の遠隔授業取扱い ルールについて	FD	天野、氏田、奥村、加藤、志水、 近澤、長澤、濱本、林(利)、前林、 松儀、湊、山口(秀)

回	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
44	令和3年10月14日	第12回生物環境科学科会議 ・講義・実験実習の日程変更について ・学生実験用物品購入の提案依頼について ・TA予算について ・出張の取り扱いについて ・障がい学生ならびにコロナ関連学生の対応について	FD·SD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、 近藤、藤、礒井、村野、橋本、楢崎、 大浦
45	令和3年10月27日	第9回農場教員会議 ・農場施設説簿の修理について ・農場本館の展示スペース、多目的 会議室について	FD	平野、中尾、森田(隆)、森田(裕)、 片山
46	令和3年10月28日	第14回生物資源学科会議 ・卒業研究発表会について等 ・生物資源学科の採用人事について 等	FD·SD	津呂、寺田、平野、森上、山岸、 荒川、上船、塚越、平児、黒川、 鈴木
47	令和3年10月28日	第13回生物環境科学科会議 ・卒論発表方式について ・公開講座について ・健康チェックシートについて ・施設設備改修工事・機器備品について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、 近藤、藤、礒井、橋本、楢崎、 大浦
48	令和3年10月29日	第15回生物資源学科会議 ・生物資源学科の採用人事について ・令和4年度施設設備改修工事・機 器備品要求について	SD	津呂、寺田、平野、森上、山岸、荒川、上船、塚越、平児、黒川、鈴木
49	令和3年11月2日	第16回生物資源学科会議 ・教員編成方針案および研究室構成 変更案について	SD	平野、森上、山岸、荒川、上船、 塚越、平児、黒川、鈴木
50	令和3年11月18日	第12回農学部教授会 ・生物資源学科の研究室構成変更案 について	FD	議井、氏田、汪、大浦、加藤、木岡、 鈴木、田村、津呂、寺田、新妻、 林(利)、日野、平野、前林、松儀、 湊、森上、山岸、山口、天野、荒川、 上船、奥村、長田、香村、近藤、 志水、塚越、中尾、橋本、濱本、 平児、細田、村野、森田(隆)、 森田(裕)、黒川、近澤、藤、長澤、 楢崎
51	令和3年11月18日	第17回生物資源学科会議 ・令和4年度の研究室配属について ・2022年度フレッシュマンミキサー の日程等について	FD	津呂、寺田、平野、山岸、荒川、 上船、塚越、平児、黒川、鈴木
52	令和3年11月24日	第10回農場教員会議 ・教職課程と学芸員課程の科目名称 変更について	FD	平野、中尾、森田(隆)、森田(裕)、 片山

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
53	令和3年11月28日	第18回生物資源学科会議 ・卒業研究発表会の実施要項等について ・研究室構成変更案について	FD	津呂、寺田、平野、山岸、荒川、 上船、塚越、平児、黒川、鈴木
54	令和3年11月28日	第14回生物環境科学科会議 ・後援会費の使途について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、近藤、藤、礒井、村野、橋本、楢崎、大浦
55	令和3年12月2日	第15回生物環境科学科会議 ・後接会費の使途について ・学科共通機器について ・学びのコミュニティープログラム 応募について ・卒論発表会について ・実務家教員に指定された教員のシ ラバス記載について ・次年度時間割について ・指導教員面談について ・取得可能資格について	FD·SD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、 近藤、藤、礒井、橋本、楢崎、 大浦
56	令和3年12月3日	第11回農場教員会議 ・令和4年度農場行事の開催につい て	FD·SD	平野、中尾、森田(隆)、森田(裕)、 片山
57	令和3年12月16日	第15回農学部教授会 ・生物資源学科の研究室構成変更案 について(再提案)	FD	議井、氏田、汪、大浦、加藤、木岡、 鈴木、田村、津呂、寺田、新妻、 林(利)、日野、平野、前林、松儀、 湊、森上、山岸、山口、天野、荒川、 上船、奥村、長田、香村、近藤、 志水、塚越、中尾、橋本、濱本、 平児、細田、村野、森田(隆)、 森田(裕)、安原、黒川、近澤、藤、 長澤、楢崎
58	令和 3 年12月16日	第19回生物資源学科会議 ・令和4年度の研究室配属について ・卒業研究発表会の開始/終了時刻 の決定等について	FD	津呂、寺田、平野、山岸、荒川、 上船、塚越、平児、黒川、鈴木
59	令和3年12月16日	第16回応用生物化学科会議 ・2022年度化学実験について ・2022年度シラバスの確認について ・2021年度卒業研究発表会の実施方法について	FD·SD	天野、氏田、奥村、志水、近澤、 長澤、濱本、林(利)、前林、松儀、 湊、山口(秀)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
60	令和3年12月16日	第16回生物環境科学科会議 ・卒業論文発表会におけるスケジュール案について ・三峡大学とのシンポジウム開催について ・次年度のスポーツ大会の実施案について ・学科共通機器費について ・インターンシップについての注意 喚起	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、 近藤、藤、礒井、村野、橋本、 大浦
61	令和4年1月7日	第12回農場教員会議 ・卒業研究発表会の日程について ・大学院奨学金制度の見直しについて ・農場本館改修工事について	FD·SD	平野、中尾、森田(隆)、森田(裕)、 片山
62	令和4年1月16日	第17回応用生物化学科会議 ・大学院奨学生について ・実験、実習を長期欠席する学生への対応について ・2023年度以降の教員組織編成に向けた学部等の考え方について	FD·SD	天野、氏田、奥村、志水、近澤、 長澤、濱本、林(利)、前林、松儀、 湊、山口(秀)
63	令和4年1月16日	第17回生物環境科学科会議 ・卒論発表会について ・選択必須科目の再試験の取り扱い について ・次年度からの大学院生奨学金給付 方法について ・新型コロナ関連学生の対応につい て ・2022年度生物環境科学科公開講座 について	FD·SD	汪、長田、日野、新妻、田村、近藤、藤、礒井、村野、橋本、楢崎、 大浦
64	令和4年1月27日	FD・SD 学習会 ・「学修成果の可視化とその活用」	FD·SD	議井、氏田、汪、大浦、加藤、木岡、 鈴木、津呂、寺田、新妻、林(利)、 日野、平野、前林、松儀、湊、森上、 山岸、山口、天野、荒川、上船、 奥村、長田、香村、近藤、志水、 塚越、中尾、橋本、濱本、平児、 細田、村野、森田(隆)、森田(裕)、 安原、黒川、近澤、藤、長澤、 楢崎

日	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
65	令和4年1月27日	第17回農学部教授会 ・学部の教員編成方針の確認と2023 年度以降の教員編成に向けた農学 部の考え方について	FD·SD	議井、氏田、汪、大浦、加藤、木岡、 鈴木、津呂、寺田、新妻、林(利)、 日野、平野、前林、松儀、湊、森上、 山岸、山口、天野、荒川、上船、 奥村、長田、香村、近藤、志水、 塚越、中尾、橋本、濱本、平児、 細田、村野、森田(隆)、森田(裕)、 安原、黒川、近澤、藤、長澤、 楢崎
66	令和4年1月27日	第21回生物資源学科会議 ・卒業研究発表会の実施方法について ・2022年度の指導教員の取り扱いについて ・「生命・食料・環境」のアクティブラーニング型授業の点検について	FD	津呂、寺田、平野、山岸、荒川、上船、塚越、平児、黒川、鈴木
67	令和4年1月27日	第18回応用生物化学科会議 ・卒業研究発表会の欠席者への対応 について	FD·SD	天野、氏田、奥村、志水、近澤、 長澤、濱本、林(利)、前林、松儀、 湊、山口(秀)
68	令和4年1月27日	第18回生物環境科学科会議 ・実習科目の成績評価について ・選択必須科目の再試験について ・卒論発表について	FD·SD	汪、長田、日野、新妻、細田、近藤、藤、礒井、村野、橋本、楢崎、 大浦

学部・研究科・センター (農学研究科)

1. 令和3年度の活動報告

活動方針:令和3年度は新カリキュラム3年目となる。コロナ禍にはあるが、新たな試みである 指導教員グループ制や修士課程の中間発表などの実施においてさらなる創意工夫を重ねる。

活動目標:コロナ禍ではあるが、新カリキュラムを確実に実施

活動内容:

① FD 共通課題(学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善)

大学院生全員が受講する農学特別演習において、毎回提出を義務づけているレポートの取り 扱いについてこれを着実に遂行している。すなわち、発表者の発表内容に対して、その「価値」、 「質疑」、「触発」、「質問」に分けてコメント、さらに、発表全体に対する意見を報告させ、特 任助手の協力により集まったレポートに記されたコメントを発表者にフィードバックしてい る。

② SD 共通課題 (ハラスメント)

ハラスメントの疑いがある事案については、個人情報の保護に気を配りながら教員と職員が 協同して解決に向け取り組んでいる。

③その他研究科独自の取組

副指導教員による最終審査時以外の指導が総じて行われていない現状を鑑み、新カリキュラムが始まった一昨年度より副指導教員を含む指導教員グループによる修士課程あるいは博士後期課程の中間段階における研究進捗状況の確認作業を実施している。修士課程においては、新カリキュラムへ移行後実施している中間発表を、新型コロナウイルス感染予防のため当初予定していたポスター発表から口頭発表に変更して実施した。

博士後期課程への進学者が少ない状況を鑑み、修士課程1年生を対象に「博士後期課程に関するアンケート」を実施するとともに、博士後期課程修了者を招いた「院生・教員討論会」を 実施した。

2. 今後の課題、方向性

修士課程入学者は定員の1.5倍を超える年度が続いているのに対して、博士後期課程進学者は定 員に満たない年度が続いている。修士課程については定員増加に向けた検討を始める。また、博 士後期課程については定員削減をすでに行ったが、定員確保に向けた方策について検討を続ける。

日	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和3年4月30日	・事業計画書についての検討・大学院奨学生見直しについての検討・中間発表についての検討	FD·SD	議井・平野・鈴木・前林・大浦・ 河村・奥田 計7名
2	令和3年6月3日	・大学院奨学生見直しについての検討 ・社会人入学者についての検討 ・博士後期課程についての検討 ・学位授与方針対応表についての検討 ・中間発表についての検討	FD·SD	礒井・平野・鈴木・前林・大浦・ 河村・奥田 計7名
3	令和3年6月8日	・最終発表についての検討 ・中間発表についての検討	FD	礒井·平野·鈴木·前林·大浦· 河村 計6名
4	令和3年7月13日	・大学院奨学生見直しについての検討・中間発表会の反省・最終発表についての検討・院生・教員討論会についての検討	FD	礒井·平野·鈴木·前林·大浦 計5名
5	令和3年8月19日	・後期開講科目についての検討	FD	礒井・平野・鈴木・前林・大浦・ 奥田・岡本 計7名
6	令和3年9月13日	・大学院奨学生見直しについての検討・非常勤講師についての検討・特論科目についての検討	FD·SD	礒井・平野・鈴木・前林・大浦・ 奥田・岡本 計7名
7	令和3年9月24日	・奨学生の選考について	SD	礒井·平野·鈴木·前林·大浦· 奥田 計6名
8	令和3年12月8日	・修論発表会について ・研究倫理(博士後期課程)について ・奨学金制度の見直しについて	FD·SD	議井・平野・鈴木・前林・大浦・ 奥田・岡本 計7名
9	令和3年12月24日	・研究倫理 (博士後期課程) について ・奨学金制度の見直しについて	FD·SD	礒井・平野・鈴木・前林・大浦・ 奥田・岡本 計7名
10	令和4年1月14日	・奨学金制度の見直しについて	FD·SD	礒井・平野・鈴木・前林・大浦・ 奥田・岡本 計7名
11	令和4年1月24日	・博士論文公聴会、修士論文発表会 の実施形態について ・アドミッションポリシーと入試方 式との対応表の作成について	FD·SD	礒井・平野・鈴木・前林・大浦・ 奥田・岡本 計7名

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター(薬学部)

1. 令和3年度の活動報告

1)薬学部 FD・SD 委員会活動目標及び活動項目

FD·SD活動の定義:薬学部の教育理念、目標に到達するために、教職員組織で取り組む教育 改善をサポートする。

A. 実質的な授業改善

- ①授業改善アンケートによる学生の学びの問題点の抽出
- ②学びの問題点に対する教育改善方法の検討・提案
- B. 学生の主体的な学びの促進
 - ①学生の主体的活動のサポート
 - ②学びの成果の可視化→全学共通 FD 課題: ①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育 改善
- C. 教育活動の可視化と IR の実施
 - ①教育活動の可視化
 - ② IR の実施と教育改善の提案→全学共通 SD 課題:遠隔講義への対応、IR

2) 令和3年度活動内容

A. 実質的な授業改善

①授業改善アンケートによる学生の学びの問題点の抽出

前期61科目実施 回収率平均 93.8% (昨年度92.3%、一昨年度78.1%) 後期52科目実施 回答率平均 88.9% (昨年度91.9%、一昨年度72.9%)

- ・前期授業改善アンケート結果及び成績を用い、2019、2020、2021年度で比較したところ、 概ね遠隔の繰り返しできる環境は学修効果が相対的に高いこと、ディスカッションや発話 を中心とする科目は遠隔環境では学修効果が低下して傾向があること、2021年度は遠隔で の経験を踏まえた改善がなされたことが影響して全体的に改善していること、目標達成、 成長実感、満足度など、他者との関わりで気づきやすいものは、横ばいか低下しているこ となどを確認した。
- ・学生へのフィードバックとして、授業改善アンケートの自己評価部分をレーダーチャート 化し、当該学年の平均を含めて可視化した。
- ・教員へのフィードバックでは、授業改善のヒントとなるように、下記のデータを IR の一環として作成し、フィードバックした。

フィードバック内容: 当該科目の各アンケート項目の単純集計グラフ、学生の当該科目の 授業スキル及び自己評価についてのレーダーチャート(全科目平均及び当該学年平均含む)、 当該科目成績と満足度の関係、当該科目成績と各指標の関連の散布図(基礎学力、授業外学 習時間、授業集中、理解度、到達度、満足度)、各系列の科目の各指標の分布グラフ

- ・教員から各科目履修学生への授業改善アンケートについてのフィードバックは、専任教員で93.5%(昨年度93.8%)であった(前期)。
- ・後期についても同様の検討及びフィードバックを行う。

②学びの問題点に対する教育改善方法の検討・提案

下記内容で FD 講演会及び検討を行った。

・「反転授業のための授業デザインワークショップ」

実施日:2021年9月13日

講師:田口真奈氏(京都大学高等教育研究開発推進センター・准教授)

・「成績評価の平準化についての検討 |

実施日:2021年9月16日

薬学部教務委員会と合同開催

・「コアカリ改訂の基盤となる教育の考え方(認知、行為)や概念化について」

実施日:2022年3月15日

講師:山田 勉氏(名古屋市立大学高等教育院)

・FD 報告

実施日:2022年3月16日

B. 学生の主体的な学びの促進

①学びの成果の可視化→全学共通 FD 課題:①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育 改善

1-4年生を対象に、ディプロマ・ルーブリックと学修成果サマリーを利用した振り返りを半期毎に行った。1-3年生については、指導教員の面談時に利用した。

1、4年生を対象に、外部指標として GPS-Academic を実施。

6年生については、国家試験模擬試験の推移をレーダーチャートとし、努力を可視化する と共に、教員からのアドバイスのサポートを行った。

C. 教育活動の可視化と IR の実施→全学共通 SD 課題:遠隔講義への対応、IR

①教育活動の可視化

教育活動の可視化として、一昨年度より行っているディプロマ・ルーブリックによる振り返りを半期毎に実施すると共に、半期の学びを振り返る学習成果サマリーの作成を行い、学生の学修のサポートを行った。

○振り返りの実施時期

前期:8月中(未実施は、再実施メールにて督促)

後期: 3月中(未実施は、再実施メールにて督促)

○内容

- ・ディプロマ・ルーブリックを用いた振り返り
- ・半期の学びを振り返り、「満足な成果」、「不満足な成果」について2科目ずつ選択し、 以下の様な振り返りを行う。
- ・思うように行ったこと、・思うように行かなかったこと、・できるようになったこと
- ・まだ不十分なこと、・次に活かすこと

	実施率	ディプロマ	学修成果
	(%)	ルーブリック	サマリー
	1年生	97	93
令和3年度	2年生	95	86
前期	3年生	94	84
	4年生	88	76

② IR の実施と教育改善の提案

・ 令和3年度薬学部遠隔授業アンケート結果について

回収率平均 90.9%

コロナ禍により前期に行った遠隔授業についての薬学部独自のアンケート調査分析を行い、改善に向けての提案を行った。

- ・令和2年度学位授与方針対応表の検証について
 - a. 領域、順次性、難易度を踏まえた体系性
 - b. ディプロマ・ポリシーでうたっている能力の育成とカリキュラムの整合性
 - c. 学生の学修成果の確認
 - d. アセスメントポリシーに基づく評価(学位プログラムの評価)

材料:

間接データ:ディプロマ・ルーブリック、授業評価アンケートなど

直接データ:GPS-Academic、ディプロマ・ルーブリック毎の成績、修得度など

上記の情報を材料として、分析を行い、学位授与方針対応表にもとづく学修成果が得られているか、また、学修成果を評価し、課題と改善点を提案した。

・学生の主体的な学びの促進

①学びの成果の可視化

ディプロマルーブリックの自己評価、学習成績のレーダーチャート作成、模試結果推移の レーダーチャート作成、学習スタイル、外部学修成果調査指標などの学生自身の学びの サマライズとリフレクションを促すサポート。

1、4年生を対象に、外部指標として GPS-Academic を実施。

□	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和3年5月20日	令和2年度IR報告 2015年入学生のIR結果に ついて報告	FD	飯田,打矢,梅田,大津,岡本(浩), 小田,亀井,北垣,黒野,小森,神野, 田口,築山,永松,灘井,丹羽,能勢, 長谷川,早川,原,平松,松本,村田, 森,柳澤,山田,湯川,脇田,伊東, 衣斐,今西,牛田,岡本(誉),奥田, 金子,栗本,小島,高谷,武田,根岸, 半谷,リバック,間宮,水本,輪島, 青木,植田,近藤(梨),榊原,武永, 都築,西川,橋本,日坂,守屋,吉田, 酒井 計57名
2	令和3年7月19日	第1回FD·SD委員会(メール審議)1.授業評価アンケートについて2.2,3年生の面談出力資料3.遠隔授業についてのアンケート	FD·SD	大津委員長,飯田,打矢,北垣,小森,田口,能勢,贄 計8名
3	令和3年7月13日	第2回FD·SD委員会 1. 令和3年度FD·SD委員会活動について 2. 令和3年度FD·SD活動計画と実施状況 3. その他	FD·SD	大津委員長,飯田,打矢,北垣,小森,能勢,贄 計7名
4	令和3年8月5日	 第3回FD・SD委員会 1. アセスメントポリシーに基づく学修成果エビデンス対応表の確認 2. 学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検及びアセスメントポリシーに基づく評価 	FD·SD	大津委員長,飯田,打矢,北垣,小森,田口,能勢,贊 計8名
5	令和3年9月2日	令和4年度学位授与方針対応 表およびアセスメントポリ シーに基づく学修成果のエビ デンスについて	FD	青木,飯田,伊東,井藤,衣斐,今西, 植田,牛田,打矢,梅田,大津,岡本 (浩),岡本(誉),奥田,小田,加藤, 金子,亀井,北垣,栗本,黒野,小島, 小森,近藤(梨),酒井(隆),坂井, 榊原,神野,高谷,田口,武田,武永, 田辺,築山,都築,豊田,永松,灘井, 西川,丹羽,根岸,能勢,野田,橋本, 長谷川,早川,原,半谷,日坂,平松, リバック,松本,間宮,水本,村田, 森,守屋,柳澤,山田,湯川,吉田, 吉見,脇田,輪島 計64名

回	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
6	令和3年9月13日	FD ワークショップ 反転授業のための授業デザインワークショップ 講師:田口真奈先生(京都大学高等教育研究開発推進センター・准教授)	FD·SD	井藤,永松,奥田,間宮,牛田, 橋本,根岸,山田,酒井,小森, 松本,神野,水本,村田,打矢, 大津,長谷川,田口,能勢.飯田, 北垣,野田,輪島 計23名
7	令和3年11月15日	 第4回FD・SD委員会 1. 令和3年度前期授業改善アンケートについて 2. 令和3年度後期授業改善アンケートについて 3. 遠隔授業アンケートについて 4. 学生の主体的な学びについて 5. 学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検及びアセスメントポリシーに基づく評価と対策 	FD·SD	大津委員長,飯田,打矢,北垣,小森,田口,能勢,贄 計8名
8	令和4年2月2日	第5回FD・SD委員会 1. 令和3年度後期授業改善アンケート結果について 2. FD・SD 講演会 3. 学生フォーラム 4. 2021年度学びの可視化 5. 学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検及びアセスメントポリシーに基づく評価と対策(継続) 6. その他	FD·SD	大津委員長,飯田,打矢,北垣,小森,田口,能勢,贄 計8名
9	令和4年3月15日	第6回FD・SD委員会 1. 令和3年度後期授業改善 アンケート結果について 2. 学びの可視化一覧	FD·SD	大津委員長,飯田,打矢,北垣,小森,田口,能勢,贄 計8名
10	令和4年3月15日	FD フォーラム 内容: 概念的理解による認知・ 行為システムの構築 一薬学教育モデル・コア・ カリキュラム (令和 4年 度改訂版) の読み方一 講師: 山田 勉先生 (名古屋 市立大学 高等教育院 教授)	FD·SD	飯田, 井藤, 打矢, 大津, 岡本(浩), 亀井, 北垣, 黒野, 小森, 田口, 築山, 永松, 灘井, 能勢, 長谷川, 柳澤, 山田, 伊東, 衣斐, 牛田, 奥田, 根岸, 半谷, 間宮, 水本, 植田, 近藤(梨), 酒井(隆), 榊原, 武永, 橋本, 日坂, 守屋, 吉見, 贄 計35名

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
11	令和4年3月16日	FD 報告会 (第24回薬学部拡大教授会内)	FD	飯田, 井藤, 打矢, 大津, 岡本(浩), 亀井, 北垣, 黒野, 小森, 神野, 田口, 築山, 永松, 灘井, 丹羽, 能勢, 野田, 長谷川, 早川, 原, 平松, 村田, 森, 山田, 湯川, 脇田, 伊東, 衣斐, 今西, 牛田, 岡本(誉), 奥田, 加藤, 栗本, 坂井, 武田, 半谷, リバック, 輪島, 青木, 植田, 近藤(梨), 酒井(隆), 武永, 都築, 橋本, 日坂, 守屋, 吉見 計49名

学部・研究科・センター (薬学研究科)

1. 令和3年度の活動報告

1) 大学院薬学研究科 FD·SD 委員会の活動方針と目標

薬学研究科における教育の質の向上を図るため、薬学研究科 FD・SD 委員会が中心となって FD・SD 活動を推進する。この活動を通じて研究科全教員が実効性の高い授業改善を進めるとともに、所属学生の研究活動が活性化されるよう教育遂行能力や指導力の向上を図る。

- 2) 令和3年度のFD·SD委員会の活動内容 以下について活動を行った。(行っている。)
 - 教員・学生に対する授業評価アンケートの実施と評価のフィードバック
 - 教員・学生に対する特殊研究評価アンケートの実施と評価のフィードバック
 - ・副指導教員との面談の実施
 - シラバスに記載する特論・特殊研究科目と DP・CP の対応についての検討
- 3) FD·SDの取り組みを推進する具体的な活動実績
 - I. 授業評価アンケートを活用した今後の授業改善について

令和3年度「特論」科目(講義)に関するアンケートを前期終了時に実施した(該当科目:1教科、回答率 学生:33%、教員:56%)。アンケート結果を担当教員に配布し、次年度のシラバスや授業内容・方法の改善へ向けた情報としての利用を促した。後期開講科目についても、現在実施中である。

Ⅱ. 特殊研究評価アンケートについて

3月初旬に実施する特殊研究成果発表会の後に特殊研究評価アンケート調査を予定しており、結果を教員・学生双方にフィードバックする予定である。

Ⅲ. 副指導教員との面談について

昨年度に引き続き、副指導教員との面談機会を設け(面談シート回収率:56%)、主指導教員とは異なる多様な助言が得られるような環境づくりを推進した。

2. 今後の課題、方向性

(1) 授業改善へ向けたアンケートの実施

次年度も今年度と同様に大学院講義に対するアンケートを実施する。ここ数年は学生、教員ともに回収率が低下傾向にあるため、アンケートの実施方法を工夫しつつ、学生・教員双方からの要望や改善点を大学院運営委員会で報告・共有化し、講義が学生にとっての継続的な学びの場となるよう講義内容や実施方法を改善していく。また、必要に応じて、大学院講義の在り

方について、学部 FD·SD 委員会と協同し、FD ワークショップの実施を検討する。

(2)「教育」の工夫や実践を知る機会の提案、提供

FD·SD 講演会の開催と教員への研修機会の提供は、今後の検討課題である。学部との共催 も視野に入れ検討したい。

口	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和3年9月2日	令和3年度 前期授業評価アンケートについて	FD	小田彰史、村田富保、早川伸樹、 山田修平、湯川和典、栗本英治、 豊田行康、根岸隆之、水本秀二
2	令和3年 9月~10月	副指導教員との面談	FD·SD	全学生 平松正行、井藤千裕、岡本 浩一、 永松 正、灘井雅行、柳澤 聖、 脇田康志、衣斐大祐、加藤美紀、 半谷眞七子、高谷芳明、根岸隆之
3	令和4年1月27日	令和3年度 後期授業アンケートについて	FD	柳澤 聖、築山郁人
4	令和4年 3月初旬~下旬	令和3年度 特殊研究評価アンケート について	FD	全学生 【主指導教員】 井藤千裕、大津史子、神野透人、 灘井雅行、丹羽敏幸、野田幸裕、 平松正行、湯川和典

学部・研究科・センター(都市情報学部)

1. 令和3年度の活動報告

≪活動方針≫

① FD 共通課題

外部調査(アセスメントテスト GPS-Academic)により、学生の学修成果を可視化し、学年間での比較、学年進行による学修進捗確認を通じて、専門科目、ゼミナール等での学生指導に役立てる。

② SD 共通課題 (遠隔講義有効活用への対応)

他大学での実施状況について情報収集し、本学での遠隔講義実施に有効となる事例について、教授会で共有した。

③その他学部独自の取組

社会人基礎力診断テストを継続的に実施することにより、学生の成長度合いを組織的に確認し、学生の修学意欲を向上させる取組として活用していく。

社会人基礎力診断テストにおける入学から卒業までの推移把握を実施し、経年比較による 在学生の傾向を分析し、その結果を全教員に共有する。

≪目標≫

全教員が、本学部学科の人材養成目的を認識し、学位授与方針(Diploma Policy)に記載する資質能力を身につけさせることを意識したうえで、授業における課題、工夫を明確にし、特にゼミナール運営・指導の工夫に取り組み、改善に繋げることによって学生の成長に役立てる。また、組織として、学生の成長推移、学修進捗を分析確認しながら、取組を展開する。

≪活動内容≫

①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

- ・『アセスメントテスト GPS-Academic (1年次及び3年次)』の経年での集計・分析結果を 教授会で共有した。3年次の結果については、委託先(ベネッセiキャリア)の担当者に 対面で説明を依頼し、質疑を行った。
- ・全学年の学生を対象に社会人基礎力診断テストを実施し、集計結果を教授会で共有した。 各教員が集計結果を活かしてゼミナール実施方法を工夫し、ゼミナール指導による学生の 研究力向上、プレゼンテーション能力向上に繋げる。

②その他学部独自の取組 (SD 含む)

授業改善アンケートの対象科目を1教員2科目以上で実施し、フィードバックされた結果 を各教員が授業改善に繋げる。

後期授業終了後には、各教員へ今年度の授業実施に関する独自アンケートを実施し、学生の授業改善アンケート結果も含めた振り返りと自己点検の機会を提供している。アンケート

結果は、集計して教授会で公表する予定である。

ゼミナールにおいては、中間発表会、卒業論文発表会を実施することで、研究力、プレゼンテーション能力等の成長度についての検証をする。

在学生の状況や様子、講義受講状況を報告しあい、情報共有、情報交換を活発に行うことによって、学生の修学支援に繋げる。

2. 今後の課題、方向性

FD・SD 委員会を中心として、学部内関連委員会との連携による系統的な取組の検討・実施を実現する。具体的には、講義・ゼミナール運営の工夫・改善点についての意見交換、学生の受講状況等についての情報共有を通して、教育の組織的な改善に繋げていくための取組の場とする。

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和3年4月8日 (FD·SD委員会)	アセスメントテスト GPS-Academic 実施及び社会人基礎力診断テスト実 施方法を検討し、4月8日開催教授 会へ審議提案した。	FD·SD	酒井、稲葉、手嶋 計3名
2	令和3年5月13日 (FD·SD 委員会)	FD・SD取組を推進する組織の活動についてSD活動として取り組むテーマを検討し、5月27日開催教授会へ審議提案した。	SD	酒井、稲葉、手嶋 計3名
3	令和 3 年 6 月17日 (FD·SD 委員会)	『SD 共通課題(遠隔講義有効活用への対応)』に係る事例研究と教授会への提案を検討した。	SD	酒井、稲葉、小池、手嶋 計4名
4	令和3年6月24日 (教授会)	『SD 共通課題(遠隔講義有効活用への対応)』に基づき、事例研究結果を 共有した。	SD	亀井、赤木、稲葉、宇野、大野、 鎌田、柄谷、小池、酒井、島田、 杉浦(真)、鈴木(淳)、手嶋、張、 西野、福島、水野、宮本、森杉、 若林、杉浦(伸)、鈴木(千)、 田口 計23名
5	令和3年7月15日 (FD·SD委員会)	社会人基礎力診断テスト結果(1・ 2・3年・4年次)実施分析結果確 認と教授会への提案を検討した。	FD·SD	酒井、稲葉、小池、手嶋 計4名
6	令和3年7月20日	第13回 FD 学習会	FD	杉浦 (伸)、大野、西野 参加者計3名
7	令和3年7月29日 (教授会)	社会人基礎力診断テスト結果(1・ 2・3年・4年次)実施分析結果を 共有し意見交換した。	FD·SD	亀井、赤木、稲葉、宇野、大野、 鎌田、柄谷、小池、酒井、島田、 杉浦(真)、鈴木(淳)、手嶋、張、 西野、昇、福島、水野、宮本、森杉、 山谷、若林、杉浦(伸)、鈴木(千)、 田口 計25名

П	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
8	令和3年8月25日	第14回 FD 学習会	FD	杉浦(伸)、酒井、手嶋、山谷 参加者計4名
9	令和3年9月2日	第15回 FD 学習会	FD	杉浦 (伸)、大野、手嶋、田口、 杉浦 (真) 参加者計 5 名
10	令和3年9月16日 (FD·SD委員会)	令和4年度入学前教育実施、3年次生 対象アセスメントテスト GPS-Academic の実施確認、1年次生対象アセスメン トテスト GPS-Academic の実施・分析 結果の確認をそれぞれ行い、1年次生 対象アセスメントテスト GPS-Academic の実施・分析結果については、9月30 日開催教授会への報告を検討した。	FD	酒井、小池、手嶋 計3名
11	令和3年9月30日 (教授会)	1年次生対象アセスメントテスト GPS-Academicの実施・分析結果を 説明し意見交換した。 前期授業改善アンケート実施結果を 報告した。	FD	亀井、赤木、稲葉、宇野、大野、 鎌田、柄谷、酒井、島田、杉浦(真)、 鈴木(淳)、手嶋、張、西野、昇、 福島、宮本、森杉、山谷、若林、 杉浦(伸)、鈴木(千)、田口 計23名
12	令和 3 年10月21日 (FD·SD 委員会)	令和4年度アセスメントテスト GPS-Academicの実施予定を審議した。	FD	酒井、小池、手嶋 計3名
13	令和3年11月4日	第23回 FD・SD フォーラム	FD·SD	酒井、昇、杉浦 (伸)、大野、手嶋、 参加者計5名
14	令和3年12月23日 (教授会)	アセスメントテスト GPS-Academic 実施結果 (3年次) まとめ及び学修 成果の現状を確認し、課題抽出した。 (講演:ベネッセiキャリア黒田氏)	FD·SD	赤木、稲葉、大野、鎌田、亀井、 柄谷、小池、酒井、島田、杉浦(真)、 鈴木(淳)、張、手嶋、西野、昇、 福島、水野、宮本、森杉、山谷、 若林、杉浦(伸)、鈴木(千)、 田口 計23名
15	令和 4 年 1 月20日 (FD·SD 委員会)	アセスメントテスト GPS-Academic 実施結果(3年次)報告の振り返り と次年度取組への展開について議論 した。	FD	酒井、小池、手嶋 計3名
16	令和4年1月31日	FD·SD 企画参加(動画視聴報告)	FD	酒井、鎌田、張、宮本 計4名
17	令和 4 年 2 月22日 (FD·SD 委員会)	専任教員に対して実施した『授業改善の達成度に関する評価アンケート』 結果を集計し共有	FD·SD	酒井、稲葉、小池、手嶋 計4名
18	令和 4 年 2 月25日 (教授会)	専任教員に対して実施した『授業改善の達成度に関する評価アンケート』 の集計結果を報告、意見交換を実施	FD·SD	赤木、宇野、大野、鎌田、亀井、 柄谷、小池、酒井、島田、杉浦(真)、 鈴木(淳)、手嶋、西野、昇、福島、 水野、宮本、森杉、山谷、若林、 杉浦(伸)、鈴木(千)、田口 計23名

学部・研究科・センター(都市情報学研究科)

1. 令和3年度の活動報告

≪活動方針≫

- 1) 大学院生の専門知識や問題解決力の向上と社会人基礎力のスキルアップを目指し、「社会 人基礎力育成プログラム」への参加を促すとともに、社会人基礎力調査を継続的に実施す る。
- 2) 成績評価・研究進捗の評価・論文審査など、大学院修了に向けた研究プロセスの中で、研究指導担当者としての関わり方、研究指導の効果、適切性などを確認するとともに、研究者養成における課題の検討と改善について FD・SD 活動の継続的取り組みとする。
- 3) 個別の研究指導のなかでは、研究者として研究推進に関わりながら、研究発表の活性化を 促し、修士論文や博士論文の成果向上に繋げる。

≪目標≫

- 1) 社会人基礎力に必要な「基礎学力」や「専門知識」などの『技術的能力』に加え、「コミュニケーション能力」や「バイタリティー」、「積極性」、「協調性」などの『行動能力』を意識させるため、社会人基礎力診断テストを年2回程度行う。
- 2) 大学院入学後、遅くとも半年以内に研究テーマ及び研究計画書を主査教員の指導で作成するとともに、副査を含めた研究に関するディスカッションの機会を学生自ら計画し、実施する。
- 3) 学会参加や研究発表を推奨する。
- 4) 年度末に行われる研究報告会(中間発表及び審査発表)に、すべての大学院生及び教員の 参加を促し、学生相互で研究報告内容を評価する。
- 5) すべての大学院教員に教室内での座学に留まらず、少なくとも半年に1回以上の学外での 体験学習や外部講師とのディスカッションの機会の設定を推奨する。

≪活動内容≫

① FD 共通課題

修士課程及び博士後期課程の1年次を対象として実施する「研究中間発表会」においては、 聴講者が共通の観点での評価を行い、その評価結果を、研究指導教員を通じて発表者へフィー ドバックする。発表者は評価結果を受け止めながら、研究の深化、研究者としての成長をは かるとともに論文の完成を目指し、審査発表会に向けて発表技術の向上に努める。

② SD 共通課題

研究倫理教育を徹底し、eL CoRE の修了証書提出を義務付けた。

修士課程及び博士後期課程でそれぞれ策定した『研究指導プロセス』について、指導学生の研究進捗の状況を確認し、プロセスの適切性について意見交換を行う。

③その他課題

2. 今後の課題、方向性

- 1) 本研究科が掲げるディプロマポリシーを確実に身につけることができるように、研究進捗のプロセス管理の方法等について、組織的な取り組みの適切性の検証を継続的に行う。
- 2)修士論文や博士論文の成果向上の定期的な検証を継続的に行う。
- 3) 大学院修了時アンケート及び大学院生満足度調査の結果から、学生の学習成果、意見・要望等を把握し改善に努めるととともに、学部 FD・SD 委員会との連携の下、組織的な取り組み・改善に繋げていく場とする。

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和3年6月10日 (学務委員会)	修士論文作成基準の確認 研究中間発表会、修士論文発表会及 び学位論文公聴会実施方法の意見交 換 学位授与に関する取扱いの確認	FD·SD	森杉、西野、昇、福島、山谷計5名
2	令和3年7月15日 (学務委員会)	修士論文作成基準の確認 研究中間発表会、修士論文発表会及 び学位論文公聴会実施方法の見直し 提案 学位授与に関する取扱いの確認・改 正検討	FD·SD	森杉、西野、昇、福島、山谷計5名
3	令和3年9月16日 (学務委員会)	学位授与に関する取扱いの改正案作 成	FD·SD	森杉、西野、昇、福島、山谷計5名
4	令和3年12月9日 (学務委員会)	社会人基礎力診断テスト結果を確認 論文発表会における聴講者による評価について、ディプロマポリシーの 総合能力に関しての客観的評価の必 要性を確認、評価票を一部修正 大学院生を対象としたアンケート設 間項目を確認 2020年度改正カリキュラムの検証の 必要性を確認、検証方法を検討	FD·SD	森杉、西野、福島、山谷 計4名
5	令和4年1月13日 (学務委員会)	学位授与申請受理に係り、学位審査 基準に則り、ディプロマポリシーと の確認を審査委員へ依頼	FD·SD	森杉、西野、昇、福島、山谷計5名
6	令和4年3月10日 (学務委員会)	論文発表会・公聴会及び中間発表会の聴講者評価を集計し、結果を共有するとともに、指導教員へフィードバック 修了年次生の社会人基礎力診断テスト結果の2年間の推移を確認し、指導教員へフィードバック	FD	森杉、西野、昇、福島、山谷 計5名

学部・研究科・センター (人間学部)

1. 令和3年度の活動報告

人間学部 FD·SD 委員会は、委員長1名、委員4名、人間学部事務職員1名により構成される。 教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上を活動目標として FD・SD 活動に取り組んでいる。 令和3年度(令和4年1月まで)には以下に取り組んだ。

- 人間学部 FD 委員会の開催
- 人間学部 FD フォーラムの開催
- 前期と後期における学修成果の可視化を目的とした外部調査 (GPS-Academic) の実施
- 人間学部 SD フォーラムの開催

本年度より FD 活動に加え、教育に関わる SD 活動にも取り組むことになったことから、組織 名称をこれまでの「人間学部 FD 委員会」から「人間学部 FD・SD 委員会」に変更した。人間 学部 FD・SD 委員会および人間学部教授会においては大学教育開発センター委員会からの FD・SD に関連する事項が報告され、本学の FD・SD 活動についての情報共有が図られている。

4月には人間学研究科と合同で「GPS-Academic の集計結果からみる人間学部の学修の傾向について」と題し、Zoom を使用して令和3年度第1回FDフォーラムを開催した。1年生と3年生を対象とした学修成果の把握を目的とする外部調査として2020年度に実施したGPS-Academic の結果報告をベネッセiキャリアの担当者より受けた後、質疑応答が行われた。本年度も学生の学修成果を可視化する取組としてGPS-Academicを同じく1年生と3年生を対象に実施している。実施期間は11月末までである。

9月には Zoom を使用し、「学修困難な学生の支援について~発達障がいの学生を中心に~」をテーマとした令和 3 年度第1回 SD フォーラムが開催された。人間学部障がい学生支援委員長より本学部での「障がい学生への対応」について専門的な視点から説明および参考となる助言がなされた後、質疑応答を通して共通認識が図られた。

なお、3月には人間学研究科と合同でのFD・SDフォーラムを開催し、2021年度に実施したGPS-Academicの結果について、昨年度実施分の結果とも照らし合わせながら討論する場を設ける予定である。

2. 今後の課題、方向性

人間学部の学生の4年間における学びを支援するための教育内容および教育環境のさらなる改善に向けた取組を検討、実施する。次年度に向けては以下のFD・SD活動を予定している。

- 人間学部 FD・SD 委員会の開催
- FD・SD 情報の共有化のための活動
- 学修成果を可視化する取組としての GPS-Academic の実施
- 学部および研究科における学生の学修の現状と課題に関する合同 FD および SD フォーラム の開催

口	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和3年4月8日	<第1回	FD·SD	岡戸、笠井、安藤、一ノ谷、伊藤 (康)、伊藤(俊)、神谷、加茂、 塩崎、谷口、畑中、船田、水尾、 宮嶋、和田、櫻井、西村、志村、 原田、ウェストビィ、加藤、ビーチ、 山田、久徳、大西 [教員22名、職員3名]
2	令和3年4月22日	< 第1回 人間学部 FD 委員会> ・2021年度事業計画について ・3年生 GPS-Academic の実施について	FD	岡戸、安藤、谷口、志村、大西 [教員4名、職員1名]
3	令和3年5月13日	<第2回 人間学部FD委員会>	FD	岡戸、安藤、宮嶋、志村、大西 [教員4名、職員1名]
4	令和3年6月23日	〈第3回 人間学部FD·SD 委員会〉 ·SD活動「発達障害を抱える 学生の対応」について ·3年生GPS-Academicの受 検状況について	FD·SD	岡戸、安藤、谷口、宮嶋、志村、 大西 [教員5名、職員1名]
5	令和3年9月2日	<第1回 人間学部SDフォーラム> ラム> テーマ:学修困難な学生の支援について〜発達障がいの学生を中心に〜 講師:塩﨑万里教授	SD	岡戸、安藤、一ノ谷、伊藤(康)、 伊藤(俊)、笠井、神谷、加茂、 塩﨑、谷口、西村、畑中、船田、 水尾、宮嶋、和田、ウェストビィ、 加藤、櫻井、志村、原田、ビーチ、 荒川、久德 [教員22名、職員2名]

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
6	令和 3 年10月20日	<第4回 人間学部FD·SD 委員会> ・令和4年度 学修成果の把握にむけた外部調査の実施について ・FD·SD活動報告(中間)の作成について ・令和4年度入学者向けMECプログラムについて ・令和4年度入学前オリエンテーションについて	FD·SD	岡戸、安藤、谷口、宮嶋、志村、 大西 [教員5名、職員1名]
7	令和3年11月17日	〈第5回 人間学部FD·SD 委員会〉 ・「2021年度事業計画書(部署 版)」の中間報告について ・MS-26戦略プラン(部署版)」 の見直し及び「2022年度事 業計画書(部署版)」の作成 について ・3年生GPS-Academicの受 験状況について	FD·SD	岡戸、谷口、宮嶋、志村、大西 [教員4名、職員1名]
8	令和4年1月12日	< 第6回 人間学部FD·SD 委員会> ・2021年度 学部研究科合同 FD·SDフォーラムについて ・2021年度 FD·SD活動報告書について ・2022年度 FD·SD委員会 の活動について	FD·SD	岡戸、安藤、谷口、宮嶋、志村、 大西 [教員5名、職員1名]
9	令和4年3月1日	< 第 2 回 人間学部、人間学研究科合同 FD・SD フォーラム> テーマ: GPS-Academic の集計結果からみる人間学部の学修の傾向について講師: ベネッセiキャリア黒田様	FD·SD	岡戸、笠井、安藤、一ノ谷、伊藤 (康)、伊藤(俊)、神谷、加茂、 谷口、畑中、船田、水尾、宮嶋、 和田、櫻井、西村、志村、原田、 ウェストビィ、加藤、久徳、大西 [教員20名、職員2名]

学部・研究科・センター(人間学研究科)

1. 令和3年度の活動報告

人間学研究科の FD·SD 活動は、研究科主任教授、委員 3 名(内 1 名は学部 FD 委員長を兼務)および研究科担当の教務事務職員 1 名の 5 名からなる FD・SD 委員会を中心に実施されている。

本年度の活動の目標は、教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上のための①教育内容及び教育環境の改善、②教育技法の改善・向上のための具体的活動、③教員の資質開発を図るための組織的な研修である。計画内容(具体的取り組み)[達成度指標] は、以下の通りである。(1)学部のFD・SD 委員会と合同で教員の資質向上につながるFD・SD 活動を実施する[実施したFD・SD 活動回数]。(2)大学院生に対する聴き取り調査を行い、問題点を明らかにするとともに、要望への対応策を検討する[聴き取りの実施割合、配慮事例数]。

教授法の充実等については、学部と合同での FD フォーラムを実施した。1年生に対しては、 面接による授業アンケートを行った。学生が1名だけであることからくる制約は感じられたもの の、本年度は対面授業も実施されており、概ね良好な反応であった。研究科委員会において、ア ンケート結果を報告し全教員での共有を図った。教育課程の自己点検の一環として、令和4 (2022) 年度研究科の学位授与方針対応表(科目ナンバリング)を作成した。

なお、3月には学部と合同でのFD・SDフォーラムを開催し、2021年度に実施したGPS-Academicの結果について、昨年度実施分の結果とも照らし合わせながら討論する場を設ける予定である。

2. 今後の課題、方向性

本研究科における FD・SD 活動については、従来のように院生を対象にした授業・研究環境に関するアンケートを継続すると同時に、講義のあり方や研究指導のあり方を検討する。今後の計画としては、作成された学位授与方針対応表に沿ったシラバスの作成と点検、先日実施した後期授業アンケートの結果について分析内容の検討が予定されている。

3. 活動記録

日	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和3年4月8日	第1回人間学研究科、人間学 部合同 FD フォーラム テーマ: GPS-Academic の集 計結果からみる人間 学部の学修の傾向に ついて 講師: ベネッセiキャリア黒 田様	FD	岡戸、笠井、安藤、一ノ谷、伊藤 (康)、伊藤(俊)、神谷、加茂、 塩崎、谷口、畑中、船田、水尾、 宮嶋、和田、櫻井、西村、志村、 原田、ウェストビィ、加藤、ビーチ、 山田、久徳、大西 [教員22名、職員3名]
2	令和3年6月14日	第1回人間学研究科 FD・SD 委員会 ・前期授業アンケートについて アンケート内容および、アンケート実施方法について (メール審議)	FD	岡戸、笠井、加茂、塩崎、久德 [教員4名、職員1名]
3	令和3年6月24日	第3回研究科委員会 ・2021年度前期FD授業アン ケートについて	FD	安藤、一ノ谷、伊藤(康)、伊藤 (俊)、岡戸、笠井、神谷、加茂、 塩﨑、西村、畑中、船田、水尾、 宮嶋、櫻井、原田、山田、久徳 [教員16名、職員2名]
4	令和3年9月2日	第5回研究科委員会 ・令和4年度学位授与方針対 応表を用いた教育課程の自 己点検の実施について	FD	安藤、一ノ谷、伊藤(康)、伊藤 (俊)、岡戸、笠井、神谷、加茂、 塩﨑、西村、畑中、船田、水尾、 宮嶋、櫻井、原田、荒川、久徳 [教員16名、職員2名]
5	令和3年9月30日	第6回研究科委員会 ・2021年度前期授業アンケー トについて	FD	安藤、一ノ谷、伊藤(康)、伊藤 (俊)、岡戸、笠井、神谷、加茂、 塩﨑、西村、畑中、船田、水尾、 宮嶋、櫻井、原田、荒川、久徳 [教員16名、職員2名]
6	令和3年11月15日	第2回人間学研究科FD·SD 委員会 ・FD·SD活動報告(中間) の作成について ・2021年度事業計画中間報告、 2022年度事業計画について ・2021年度後期授業アンケートの実施について	FD·SD	岡戸、笠井、加茂、塩﨑、久徳 [教員4名、職員1名]

口	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
7	令和4年1月12日	 第3回人間学研究科FD·SD委員会 ・2021年度 学部研究科合同FD·SDフォーラムについて ・2021年度 FD·SD活動報告書について ・2022年度 FD·SD委員会の活動について 	FD·SD	岡戸、笠井、塩﨑、久徳 [教員3名、職員1名]
8	令和4年3月1日	第2回 人間学部、人間学研 究科合同 FD・SD フォーラム テーマ: GPS-Academic の集 計結果からみる人間 学部の学修の傾向に ついて 講師: ベネッセi キャリア黒 田様	FD·SD	岡戸、笠井、安藤、一ノ谷、伊藤 (康)、伊藤(俊)、神谷、加茂、 谷口、畑中、船田、水尾、宮嶋、 和田、櫻井、西村、志村、原田、 ウェストビィ、加藤、久徳、大西 [教員20名、職員2名]

FD·SD 活動報告

学部・研究科・センター (外国語学部)

1. 令和3年度の活動報告

外国語学部では、定例で行われている教授会や各委員会等において、教育改善のための意見交換を行っている。ICT ワークショップ、授業方法の研修会、授業参観プログラム等を通して、総合的な教育改善を推進している。とりわけ英語教育委員会は必修の英語科目の担当教員を支援し、ICT 委員会は教員の ICT 能力を伸ばし、学務委員会は全体的にカリキュラムを改善することに努めている。下記の通り、FD・SD 委員会は各委員会と情報共有し、必要に応じて FD・SD 活動を行った。

① FD·SD 共通課題

- a) 学修成果を可視化する取り組み
- ・1、3年生を対象に学修行動調査として GPS-Academic を実施、その結果分析を共有した。(3年生分は2月下旬共有予定)
- b) 授業改善アンケートの実施(前期・後期 計2回)
- ・大学教育開発センター委員会で指定された科目について、授業改善アンケートを実施した。

②その他、学部独自の取り組み

- a) R3年度第1回ワークショップ:「新しい WebClass の特徴・使用」の実施
- ・WebClass 新バージョンの機能について理解を深めること、また新任教員が基本的な機能に対する理解を深めることを目的に実施した。
- b) 教員向けの FD に関するアンケートの実施
- ・今後求められる FD・SD 活動を把握するため、教員にアンケートを実施した。
- c) 授業参観プログラムの実施
- ・外国語学部教員15名がオムニバス形式で開講する「現代に生きる」の授業を他の教員が参観した。
- d) R3年度第2回ワークショップ:「授業紹介(日本の政治)」の実施
- ・授業紹介を通じて、教員間の経験やアイデアを共有し、学部としての教育力の向上を図った。
- e)R3年度第3回ワークショップ:「Google Jamboard の使い方」の実施
- ・授業におけるアクティブ・ラーニングを促進するため、Jamboard アプリの使い方を学んだ。

2. 今後の課題、方向性

次年度に向けた FD・SD 活動の課題は下記の通りである。

- 英語必修科目のコーディネーションを続けること。
- 令和4年度授業改善アンケートを実施すること。

- 教員間で教授法に関する意見交換する機会を作ること。
- 教員が相互に助け合い、支え合っていけるよう授業を紹介する機会を設けること。

3. 活動記録

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和3年4月5日	第1回ワークショップ: 「新しい WebClass の特徴・使用」 場所: DN302 時間: 11:00~12:00 発表者: 柳沢 学部 ICT 委員長	FD·SD	国岡、豊田、津村、柳沢、ロジャース、 二神、藤田、藤原、鈴村、呉、岩井、 西尾、ウィキン、宮崎、宮下、萩藤、 プレーバー、マレー、マイネハン、 ディキンソン、ホール、ガラカー、 児玉 計23名
2	令和3年4月15日	第1回 FD・SD 委員会 1. 2021年度前期の FD・SD 活動の計画 2. 教員向けの FD に関するアンケー トの実施	FD·SD	外国語学部 FD・SD 委員会 (ウィキン・岩井・呉・豊田・萩藤) 計 5 名
3	令和3年4月26日 ~7月26日	授業参観プログラム 外国語学部教員15名がオムニバス形 式で開講する「現代に生きる」の授 業を参観。	FD·SD	西尾、ウィキン、柳沢、藤原、 ディキンソン、宮下、二神、藤田、 萩藤、津村 計10名
4	令和3年6月9日	第2回FD・SD委員会1. 2021年度前期のFD・SD活動の計画2. 教員向けのFDに関するアンケートの結果3. FD報告書の指針	FD·SD	外国語学部 FD・SD 委員会 (ウィキン・岩井・呉・萩藤) 計4名
5	令和3年9月30日	第3回 FD・SD 委員会 1. 2021年度後期の FD・SD 活動の計画 第1回:効果的な成績評価方法〜ルー ブリックについて 第2回:授業紹介	FD·SD	外国語学部 FD・SD 委員会 (ウィキン・岩井・呉・豊田・萩藤) 計 5 名
6	令和3年11月11日	WebClass のルーブリック機能デモ	FD	豊田、津村、柳沢、藤田、藤原、呉、 岩井、西尾、ウィキン、宮下、萩藤、 愛葉、池 計13名
7	令和3年11月25日	第2回ワークショップ: 「授業紹介(日本の政治)」	FD	二神、富岡、豊田、津村、柳沢、ロジャース、藤田、藤原、呉、岩井、西尾、ウィキン、宮崎、鈴木、有薗、宮下、萩藤、プレーバー、マレー、マイネハン、池 計21名
8	令和4年1月13日	第4回 FD・SD 委員会 1. 2021年度後期の FD・SD 活動の計画 第3回:Google Jamboard の使い方 2. 2022年度前期の計画	FD·SD	外国語学部 FD・SD 委員会 (ウィキン・岩井・呉・豊田・萩藤) 計 5 名
9	令和4年1月27日	第3回ワークショップ: 「Google Jamboard の使い方」	FD·SD	ロス (発表者)、二神、冨岡、プレーバー、ウィキン、池、藤原、ホール、西尾、藤田、柳沢、宮下、マレー、萩藤、マイネハン、豊田、呉、岩井 計18名

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター (総合学術研究科)

1. 令和3年度の活動報告

≪①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善≫

総合学術研究科の教育改善のために、入学から卒業までの学生の学びや成長を一貫して把握 しながら構成員全員が議論・実践できるようサポートする。

≪②その他学部独自の取組(SD 含む)≫

- 「令和3年度 秋季 総合コアプログラム」の開催 (2021年9月18日開催)
- 「令和3年度 海洋実習」の実施

三河湾において船舶による海洋観測を行い、愛知県水産試験場にて最新の海洋環境に関連する研究を学ぶ予定であったが、対象の修士の学生が在籍していない等の理由により今年度の実施を見送ることとした。

2. 今後の課題、方向性

教育改善に向けて構成員全員が議論・実践できるよう、教育検討部会を中心に検討を継続する。 より積極的に議論の場を設けることが今後の課題である。

3. 活動記録

日	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和3年4月15日	「2020年度自己点検・評価報告書 兼 事業報告書(部署版)」等の作成につ いて	SD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木(委任)、日比野、平松(委任)、森、和田、衣斐(委任)、内田、志村、神藤 計13名 陪席:鷲見、土橋、山内、中村計4名
2	令和3年5月13日	2021年度事業計画書(部署版)の再提出について	FD	田中、加藤(委任)、伊藤、景山、 鈴木、日比野、平松(委任)、森、 和田、衣斐(委任)、内田、志村、 神藤 計13名 陪席:鷲見、土橋、山内、中村 計4名
3	令和3年6月17日	秋季総合コアプログラム開催要領 (案) について	FD·SD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、 日比野、平松、森、和田、衣斐、 内田、志村、神藤 計13名 陪席: 鷲見、土橋、山内、中村 計4名

口	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
4	令和3年7月8日	令和3年度秋季総合コアプログラム 開催要領(案)について	FD·SD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、 日比野、平松、森、和田、衣斐、 内田、志村、神藤 計13名 陪席:山田、土橋、山内、中村 計4名
5	令和3年10月28日	2022年度事業計画書(部署版)の作成について	SD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、 日比野、平松、森、和田、衣斐、 内田、志村、神藤(委任)計13名 陪席:山田、土橋、山内、中村 計4名
6	令和3年11月18日	2022年度事業計画書(部署版)の作成について	SD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、 日比野、平松、森、和田、衣斐、 内田、志村、神藤 計13名 陪席:山田、土橋、山内、中村 計4名
7	令和3年12月16日	総合学術特論Ⅰ・Ⅱの教員構成について	FD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、 日比野、平松、森、和田、衣斐、 内田、志村、神藤 計13名 陪席:山田、土橋、山内、中村 計4名
8	令和4年1月20日	「2021年度自己点検・評価報告書 兼 事業報告書(部署版)」等の作成につ いて	SD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、 日比野、平松、森、和田、衣斐、 内田、志村、神藤 計13名 陪席:山田、土橋、山内、中村 計4名
9	令和4年2月24日	「2021年度自己点検・評価報告書 兼 事業報告書(部署版)」等の作成につ いて	SD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、 日比野、平松、森、和田、衣斐、 志村、神藤 計12名 陪席:山田、土橋、山内、中村 計4名
10	令和4年3月1日 (メール審議)	「2021年度自己点検・評価報告書 兼 事業報告書(部署版)」等の作成につ いて	SD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、 日比野、平松、森、和田、衣斐、 内田、志村、神藤 計13名 陪席:山田、土橋、山内、中村 計4名

FD·SD 活動報告

学部・研究科・センター (教職センター)

1. 令和3年度の活動報告

今年度の活動方針は次のとおりである。

本大学の教員養成理念は『謙虚で豊かな包容力と力強い実行力を持ち、誰からも信頼される 教員』を養成することにある。この教員養成理念に基づき、教職センター専任教員が担当する 教職に関する科目の授業内容・方法の改善を行う。

この方針のもと、活動目標は次のとおりである。

教員志望学生の実践的指導力の向上及び、教員採用試験合格者の確保を目標に、教職に関する科目の授業改善に向けた活動を企画し、運営する。

活動内容のうち「独自の取り組み」は次の二つである。

- (1) 教職センターFD·SD 活動
- (2) 研究内容や教育内容の発表・交流

なお、教職センターでは「学生の学習成果を可視化する」マクロな指標として、教員採 用試験の現役合格者数を採用している。

本年度の実績と具体的な取り組みは以下の通りである。

- (1) 本年度の教員採用試験の現役学生の合格者数は21名である。
- (2) 教職センターでは、これまで教務委員会や教職センター会議内でカリキュラムの改定やシラバスの見直しなどの授業改善に関わること(マクロレベルFD)を検討してきた。これに加えて、平成28年度からは「教職センターFD活動報告」と称し、個々の授業の改善についての方策(ミクロレベルFD)に各自取り組んできた。
 - 平成30年度からは、教職センター会議前の1時間を利用して、教職センター専任教員が、各自の授業実践や教職課程に関する今後の動向などについての報告を行い、その報告をもとに意見交換を行っている。昨年度からのコロナ禍における指導や、新学習指導要領を踏まえつつ、自身が担当する授業の在り方、及び、教職課程全体に関わる在り方を考え合う場となっている。
- (3) 研究内容や教育内容の発表・交流活動として、教職センターFD 推進委員会では、教職 センター懇談会による教職課程授業担当者(兼担教員、非常勤講師)への発信・交流及 び情報交換、『教職センター紀要』の公刊による研究成果のまとめと発表を行っている。
- (4) また、学内だけの FD 活動に留まらず、学外の FD に関する学会や研修会にも積極的に 参加し、その知見を教職センターで共有し、センター教員の授業力の向上に努めている。

2. 今後の課題、方向性

(1)教職課程科目におけるオンライン指導と対面指導を効果的に組み合わせた指導について 考えていきたい。

今後のコロナ禍を踏まえ、オンラインと対面指導の「ハイブリッドな指導法」の可能性を考察していく。また学生の学習意欲を向上させ、教員を志望する学生の主体的な学びを促進するために、積極的にアクティブ・ラーニング型授業を導入していく。オンラインによる指導も単に技術的な側面だけではなく、オンライン指導を利用することで、より学習効果が上がる方法を模索していきたい。二つの指導(オンライン指導と対面指導)をうまく組み合わせることによって、より主体的、対話的で深い学びを促進するような授業展開・授業形態となるよう工夫していく。

(2)「学生の学習成果を可視化する取り組み」について

これまで、教職センターでは「学生の学習成果を可視化する」マクロな指標として、 教員採用試験の現役合格者数を採用してきた。ここ数年、教員採用試験の採用者数が年 度によらずほぼ一定であったためである。しかし、教員採用試験の採用者数は退職教員 数と関係しており、今後は年度により、大きく変動する可能性がある。

このため、新たなマクロな指標が必要である。また、科目ごと、あるいは、年度ごとの受講生の実力の伸びを見ることができるミクロな指標を導入することも必要である。例えば、ある科目で授業内容・方法の改善を行ったとして、その科目を受講している学生達の成績が前年度と比べて伸びたかどうか、あるいは、ある科目を履修したとして、その学生達の教員としての資質・能力が伸長したかどうか、これらを定量的に評価することが必要である。

教職センターでは、平成28年度入学生から、学習ポートフォリオ「教職課程履修カルテ」を導入した。このカルテでは、教職課程履修生に修得科目の確認を行わせるとともに、個々の教職に関する科目に対する振り返りを行わせている。また、学年ごとに教員としての資質の自己評価を行わせている。これらの情報を用いることにより、学生の学習成果を可視化する新たな指標を開発できる可能性がある。

3. 活動記録

日	日程	活動内容	FD·SD 区分	出席者
1	令和3年9月14日	令和2年度 FD活動について	FD·SD	曽山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
2	令和3年9月18日	第1回 FD 活動 (嶋口准教授)	FD	曽山、井中、平山、竹内、木村、 谷口、嶋口
3	令和3年10月12日	第2回 FD 活動 (木村准教授)	FD	曽山、井中、平山、竹内、木村、 谷口、嶋口
4	令和3年10月26日	第3回 FD 活動 (谷口准教授)	FD	曽山、井中、平山、竹内、木村、 谷口、嶋口
5	令和3年11月4日	大学教育開発センター主催 FD・SD フォーラム	FD·SD	井中、平山、木村、嶋口
6	令和3年11月9日	第4回 FD 活動 (平山准教授)	FD	曽山、井中、平山、竹内、木村、 谷口、嶋口
7	令和3年11月23日	第5回FD活動 (竹内教授)	FD	曽山、井中、平山、竹内、木村、 谷口、嶋口
8	令和3年12月4日	教職センター懇談会	FD·SD	教職センター教員、 教職課程授業担当兼担教員、非常 勤講師、事務職員
9	令和3年12月7日	第6回 FD 活動 (井中教授)	FD	曽山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
10	令和3年12月21日	第7回 FD 活動 (曽山教授)	FD	曽山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
11	令和4年1月18日	第8回 FD 活動 (片山教授)	FD	曽山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口

6. トピックス



日時:2021年11月4日(木) 13:30~16:00

方 法: ZOOM によるオンライン

テーマ:内部質保証の実質化と恒常化を目指して

―認証評価を目前に考える―

近年の科学技術の一層の発展、産業構造の変化、社会から求められている人材の変化等により、大学における学位の質や学修成果は今まで以上に重要視されています。大学には教育の質が一定水準にあることをステークホルダーに客観的に説明するとともに、教育の質向上を継続的に行うことが求められています。

第三期認証評価のポイントは「全学的な内部質保証システムの構築」であり、大学における教育・学修活動、活動の検証、検証結果を踏まえた改善プロセスの適切な展開と運営は、大学の歴史、規模、分野などの特性に応じて異なるため、各大学ならではの仕組みとプロセスが求められています。

本フォーラムでは、教職員が認証評価を通じて内部質保証の全体像と本質を理解するとともに「アクティブ・ラーニング」、「ルーブリック評価」など様々な取り組みについても、改めて考える機会を提供します。



基調講演

「内部質保証の実質化と恒常化を目指して」

田代 守氏 (公益財団法人大学基準協会 評価研究部 部長)

【**申込方法**】(定員:300名)

下記 URL または QR コードからお申し込みください。お申し込み後、参加方法の詳細が自動メールにより送付されます。

https://us06web.zoom.us/meeting/register/t ZMucu6grDsiHNCqSw62WJDeOefiKhbKc6B5



事例報告

「プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証」

栗本 英和氏 (名古屋大学教養教育院 教授・副院長 (質保証担当))





【お問い合わせ先】名城大学 大学教育開発センター

E-Mail: edcenter@ccmails.meijo-u.ac.jp

TEL: 052-838-2032(内線: 2653)

第23回 FD・SD フォーラム実施報告

「内部質保証の実質化と恒常化を目指して一認証評価を目前に考える一」

1. 実施概要

- · 日 時: 令和3年11月4日(木)13:30~16:00
- ・開催方法: Zoom によるオンライン開催
- ・ 基調講演テーマ: 内部質保証の実質化と恒常化を目指して
- · 基調 講演 講師:田代守氏(公益財団法人 大学基準協会 評価研究部 部長)
- 事例報告テーマ:プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証
- ·事例報告講師: 栗本英和氏(名古屋大学 教養教育院 教授·副院長(質保証担当))
- ·参加者数:193人

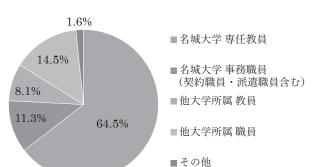
(本学専任教員88人、本学事務職員24人、他大学教員23人、他大学職員42人、その他16人)

2. アンケート方法等

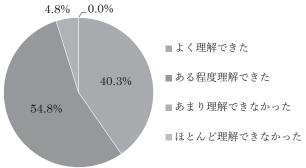
- ・アンケート方法:Google フォーム
- ・質問項目:以下のとおり
 - ①所属をお知らせください。
 - ②基調講演「内部質保証の実質化と恒常化を目指して」の内容は、理解できましたか?
 - ③基調講演「内部質保証の実質化と恒常化を目指して」の満足度について教えてください。
 - ④基調講演「内部質保証の実質化と恒常化を目指して」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。
 - ⑤事例報告「プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証 | の内容は、理解できましたか?
 - ⑥事例報告「プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証」の満足度について教えてく ださい。
 - ⑦事例報告「プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。
 - ⑧企画内容について、ご意見や感想がありましたら、ご記入ください。
- ·回答者人数:62人
- ・質問④、⑦、⑧については主な意見のみを示しています。(※一部抜粋・改稿を含む)

3. アンケート結果

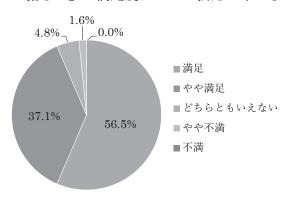
①所属をお知らせください。



②基調講演「内部質保証の実質化と恒常化を目指して」の内容は、理解できましたか?



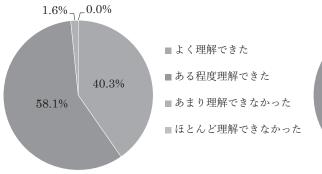
③基調講演「内部質保証の実質化と恒常化を目 指して」の満足度について教えてください。

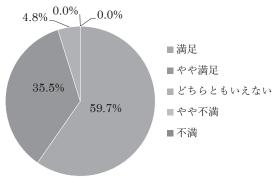


- <u>④基調講演「内部質保証の実質化と恒常化を目指して」において、関心を持ったポイント、重要</u>だと感じたポイントを教えてください。
 - ・評価と保証の継続性関連性。
 - ・大学の自治と第3者評価の関係がはじめて理解できた。
 - ・大学の多様性を考慮した評価。
 - ・スライド15頁の全学的観点からの評価について、学部学科の評価を集約ではなく、総括する こと。
 - ・PDCA サイクルを上手く取り入れていくことが大事だと感じた。
 - 内部質保証の定義。
 - ・質を向上させるプロセスそのものが質保証であると考えるといろいろわかりました。
 - ・機械的に PDCA サイクルを回すのではなく、目的(検証結果をちゃんと改善に結びつけ、 学生の教育に結び付けていくこと)を意識して PDCA サイクルを回すことが、内部質保証 の実質化、継続にとって重要だと感じた。
 - ・やらされる過酷な評価作業ではなく、日々先生方があたりまえのように、よりよい働き方を 目指して行われている取り組みの集積が大事なのだと確認することができ、とても勉強にな りました。

⑤事例報告「プログラムレベル、授業レベル で考える内部質保証」の内容は、理解でき ましたか?

⑥事例報告「プログラムレベル、授業レベル で考える内部質保証」の満足度について教 えてください。





- <u>⑦事例報告「プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証」において、関心を持ったポ</u>イント、重要だと感じたポイントを教えてください。
- ・概念を表す言葉について、共通理解が乏しく、言葉に振り回されている面があるとの指摘は、 目からうろこでした。共感します。
- ・内部質保証で用いられる外国語と日本語のあいだの「ズレ」を自覚的に把握するという点は 重要な観点であると思います。
- ・シームレスな PDCA サイクル。
- ・シラバスからの点検の必要性と、授業内の中でPDCAという考え方が適応されるという発想がなかったので、今後はそのように考えてシラバスを作成していきたいと思う。シラバスの中で、予習・復習などを時間だけは記入していたが、具体的にどのようなものをする必要があるかを記述すると良いと思った。
- ・教育の質保証システム 3層構造での質確保。
- ・「標準化など、持続可能な形に軽量化する」という考え方がとても勉強になりました。実際 に担当者は人事異動などで変わりますので、保全、保守しやすいしくみをつくっていくこと は非常に重要だと思います。あと、評価を「やらされる作業」ではなく、「課題抽出」のた めにやることだととらえることは、モチベーションを維持するうえでもポイントだと思いま した。
- ・これまでに受けた中で最もわかりやすく、疑問や誤解を解消してくれるお話でした。
- ・SDCA、PDSA サイクルという考え方は重要であると感じる一方、内部質保証サイクルにどのように組み込むのか、使い分けが難しいと感じました。
- ・外部評価、内部質保証の起点が、大学の自治を重視するために大学の設立理念があるという 点。

⑧企画内容について、ご意見や感想がありましたら、ご記入ください。

- ・こういうことに対するマインドが若干変わりました。
- · PDCA は、Do-CAP のような方法でも達成可能という点は、我々にとっても馴染みやすいも

のと感じました。

- ・内部質保証に関する仕組みは理解できつつあるので、測定方法等の具体的な PDCA における CA の箇所に関する企画の検討をお願いできればと思います。今日はありがとうございました。
- ・今回の内容について、現実にあてはめるとどうなるのか、どうしていけばいいのかをもっと 考えていかないといけないと思いました。実際にどうしていけばよいのか等について考えを めぐらすことが可能になった内容ですので、今回の企画を拝聴できてとても満足しておりま す。質保証について、今後もこのような企画がありましたら大変ありがたいです。本日はあ りがとうございました。
- ・両方のご講演とも次年度に向けた学部の今後の取り組みに対して大変重要なご示唆をいただ きました。本日の内容をぜひ学部内でも広く共有していきたいと存じます。

当日配布資料



内部質保証の実質化と恒常化を目指して

名 城 大 学 FD・S D フォーラム 企画 2021年11月4日(木) 公益財団法人 大学基準協会 評価・研究部 田代 守

Japan University Accreditation Association

2

アウトライン

- I. 大学評価(第3期認証評価)
 - Ⅰ-1 評価システムの概要
 - I-2_第3期認証評価のポイント
- Ⅱ. 内部質保証
- Ⅲ. 第三期認証評価から見えてきた

長所事例・改善事例

2

3

I. 大学評価(第3期認証評価) 1 評価システムの概要



5

4

₩.

大学評価の目的

- ① 本協会が定める「大学基準」に基づき大学の諸側面を包括的に評価することを通じて、大学の教育研究活動の質を社会に対し保証すること(質の保証)。
- ② 評価を通じて大学の社会的存在理由を明らかにすること に貢献し、大学が社会に対して説明責任を果たしていくことを支援すること(説明責任への支援)。
- ③ 大学評価結果の提示及び評価を通じて見出された改善を要する事項(「改善課題」、「是正勧告」)に関する報告書(「改善報告書」)の検討とその結果の提示によって、大学の改善・向上を継続的に支援すること(改善・向上への支援)。

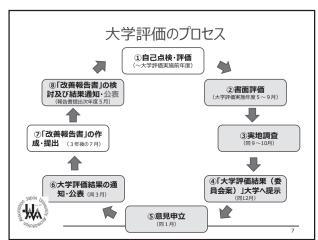
認証評価第2期から認証評価第3期へ

- 認証評価第1期 (平成16年度~平成22年度) - 自己点検・評価の実質化を目指す評価
- 認証評価第2期 (平成23年度~平成29年度)内部質保証システムの構築を目指す評価
- 認証評価第3期 (平成30年度~) - 内部質保証システムの有効性に着目する評価

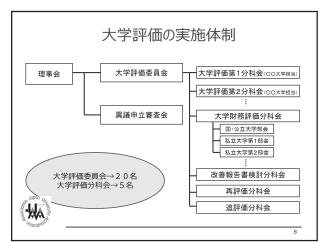
Sabau (Alle Silly)

6

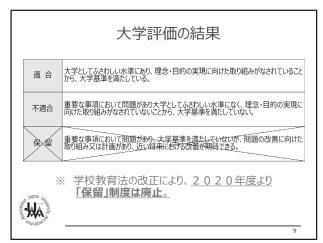
大学評価の基準 ■ 大学基準の構成の変更 ≪第3期≫ 1. 理念・目的 2. 内部質保証 ≪第2期≫ 理念・目的 2. 教育研究組織 3. 教員・教員組織 4. 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標、学位授与方針、 3. 教育研究組織4. 教育課程 學習成果 教育課程の編成・実施方針 (2) 教育課程・教育内容 (2) 教育課程・教育 (3) 教育方法 (4) 成果 5. 学生の受け入れ 6. 学生支援 7. 教育研究等環境 5. 学生の受け入れ 教員・教員組織 学生支援 7. 字生文接 3. 教育研究等環境 9. 社会連携・社会貢献 0. <u>大学</u>運営・財務 (1) 大学運営 8. 社会連携・社会貢献 9. 管理運営・財務 (1) 管理運営 10. -WA 10. 内部質保証 (2) 財務



8



9



10

- _I . 大学評価(第3期認証評価)
 - 2 第3期認証評価のポイント

- Walter Collaboration of the Collaboration of the

10

11

評価システムの変更ポイント

- Point 内部質保証システムの有効性に着目する評価!!
- Point 学習成果の重視!!
- Point 全学的観点からの評価!!
- Point 基礎要件確認シートの導入による目的の達成状況に焦点をあてた評価!!

. |

12



内部質保証システムの有効性に 着目する評価

- ◆ 内部質保証システムの有効性を示す
 - ・基準 2 「内部質保証」だけでなく、その他の基準においても、 内部質保証を意識して点検・評価を行い、報告書を記述 する。

定期的に自己点検・評価を行い、その結果を改善に生かしていることや、活動の成果が表れていることを大学自身が証明する。

- 例) 自己点検・評価の実施記録(委員会の開催年月日と主な議題のリスト等)、成果を示す数値データやアンケート結果等
- Washing and a second a second and a second

※エビデンス(根拠資料)の収集が重要。

「点検・評価項目」の構成 (例: 基準4)

方針

①授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

②授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表してい

ているか。

③教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

取り組

点検· 評価、

④学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じ

⑤成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

⑥学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価して

⑦教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

13

14

Point

学習成果の重視

◆ 学習成果に関する「基準」とその変化

<第2期> 大学は、学 習成果を的 確に評価す るために、そ の評価方法 や評価指標 の開発に努 めなければ ならない。

<第3期> 大学は、学位授与方針に示した知識、技能、 態度等の学習成果を学生が修得したかどうか を把握し、評価することが必要である。そのた めに、学習成果を様々な観点から把握し評 価する方法や指標を開発し、それらを適用す る**必要がある**。

大学は、教育課程及びその内容・方法の適 切性について定期的に点検・評価し、その結 果を改善・向上に結びつける必要がある。そ の際、把握し、評価した学生の学習成果を 適切に活用することが重要である。

・・・・・・学習成果のより一層の重視へ

14

15



全学的観点からの評価

学部・学科、研究科ごとに自己点検・評価が行われること は前提。

それぞれの「教育研究上の目的」、「教育課程・学習成果」、「学生の受け入れ」、「教員・教員組織」を中心に。



- ※ 各学部・研究科が行う自己点検・評価を単に集約。
- 各学部・研究科における自己点検・評価を踏まえた うえで、大学として全学の現状を総括し、優れた点や 問題点を整理し、将来に向けた方策を見定める。



全学的観点からの自己点検・評価は、教学マネジメントの一環であり、内 部質保証の有効性の判断材料にもなる。

15

16



基礎要件確認シートの導入

◆ 基礎要件確認シート (様式6) を導入

[教育課程・学習成果] マ 学 (DP) 及び教育課程の編成・実施方針 (CP) の公表

学部・研究科等名称 (研究科は学位課程別)	公表の有無 (DP)	公表の有無 (CP)	根拠となる資料
△△学部	0	0	入学試験要項 (根拠資料○-○) 学部ウェブサイト (http://xxxx.ac.jp)
A学科	0	0	
◇◇研究科博士前期課程	0	×	

W

・ページ制限のある点検・評価報告書において、基礎的な要件の説明を簡素化し、目的の達成状況、方針に基づいた活動状況などを中心に記述することが可能。

内部質保証を どのように理解するか? 16

17

18

内部質保証とは、

- 自己点検・評価の実質化?
- 自己点検・評価結果をうまく改善に反映させること?

それも大事でも、内部質保証 ≠ 自己点検・評価



Ⅱ. 内部質保証



内部質保証の定義

「内部質保証とは、PDCAサイクル等を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育、学習等が適切な水準にあることを大学自らの責任で説明し証明していく学内の恒常的・継続的プロセスのこと」

(大学基準「基準2内部質保証」より抜粋)



内部質保証の主たる対象は教育活動であり、その目的の中心には、学生の学習の充実と学習成果の向上がある。

学習成果の測定とその結果(具体的な根拠)に基づく教育の改善・向上が重要

9

内部質保証を重視する背景、理由 1

- ●大学は本来自主的、自律的な機関であることから、大学は自らの 責任で教育活動等の質保証を第一義的に担っていく必要がある (教育基本法第7条第2項「大学については、自主性、自律 性その他の大学における教育及び研究の特性が尊重されなけれ ばならない」)
- ●予測困難な時代(少子化・グローバル化・多様化)にあり、改めて大学に高等教育機関としての人材養成機能の強化が求められている状況下では、内部質保証が特に問われる



20

21

内部質保証を重視する背景、理由 2

●機関別認証評価機関に対し、評価基準に「教育研究活動等の改善を継続的に行う仕組みに関すること」を含めることを 義務化(平成28年3月31日)

かんがえてみてください。

- ●自分の健康を維持するのは自分自身、自分の身体を治す のは自分自身
- ●向上心のない学生を伸ばすのは非常に困難

-**W**

21

22

内部質保証のための主要なポイント①

① 「内部質保証の方針及び手続」の設定

自らの大学の内部質保証をどのように行っていくのかを明確に する

- ◆ 内部質保証に関する大学の基本的な考え方
- ◆ 全学内部質保証推進組織の権限と役割
- ◆ 全学内部質保証推進組織と学部・研究科その他の組織 との役割分担
- 教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上のための 指針 等

- Walter State of the State of

※大学の規模や特性等を考慮し、方針と手続を設定する。

22

23

内部質保証のための主要なポイント②

② 「大学全体として内部質保証の推進に責任を負う組織」 の整備

適切な教学マネジメントを行っていくための組織整備

- ◆ 構成メンバー、全学組織の権限を定めた規定の整備
- ◆ 同組織を支える事務局機能の確立

役割:全学的な基本方針に基づく、教育活動の展開とその有効性 の検証

(3つの方針の確認→教育活動の把握及び促進→教育活動の有効性の検証→検証結果を踏まえた改善プロセスの運営)

- Nobau (Value)

23

24

内部質保証のための主要なポイント③

- ③方針の明確化
- ■【学位授与方針】
- ■【教育課程の編成・実施方針】
- ■【学生の受け入れ方針】
- ■上記以外の方針
 - ◆ 方針の明確化により、組織的な質保証の基盤構築と、取り組みにおける具体的な目標の策定、自己点検・評価、 改善・向上に至る P D C A サイクルが可能に。



内部質保証のための主要なポイント④

- 3ポリシーを起点に、(P)
- 学生の学習成果(学修目標)を主軸とした学位プログラムの 体系的編成(D)
- 効果的な教育方法の開発とその運用 (D)
- 定期的な検証(C)
- 検証結果を踏まえた改善・改革(A)



■ 内部質保証体制の中でマネジメントができているか



25

26

内部質保証のための主要なポイント⑤

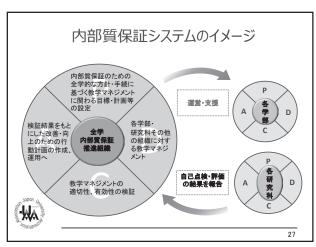
④ P D C A サイクルの有機的結びつき

- ◆全学内部質保証推進組織のPDCAサイクルと、 学部・研究科等の P D C A サイクルとの結びつきが 重要。
 - > 全学内部質保証推進組織は、学部・研究科等に おける P D C A サイクルのマネジメントを行うなどの 役割を果たすことが必要。

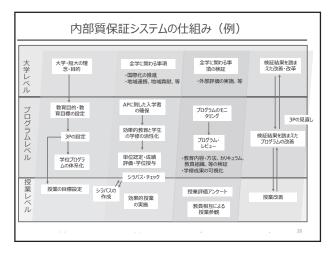


26

27



28



29

Ⅲ. 第三期認証評価から見えてきた 長所事例・改善事例



29

30

-WA

内部質保証 - 提言の状況 (2018~2020)

(改善課題) (方針·手続、体制)

- い」とは、丁杉は、14年的月 新たな内部質保証の責任主体と既存の内部質保証に係る会議体との役割分担が不 十分。
- 内部質保証の責任主体と自己点検・評価に係る各種委員会との組織間連携・役割分担が不十分。規程上の体制と実際の内部質保証との乖離。
- (システムの有効性)
- (システムの有効性)
 全学的な観点で評価を行うとしている「内部評価委員会」がその役割を果たしておらず、自己点検・評価が十分に機能していない。
 毎年の自己点検・評価を実施し、それに基づく改善は各学科等が実施しているものの、その他の教育研究活動に関する委員会報告はそれぞれを所管する番議会が点検・評価するにとまっており、自己点検・評価の結果を用いて改善・向上に取り組むプロセンが築かれていない。
 「自己点検・評価委員会」は各学部・研究科による自己点検・評価の結果報告を受け、その内容を共有すること等にととまっているなど、各学部・研究科の点検・評価結果を踏まえた改善・向上に同りた取組を全学的に推進しているとは言い難い。
 各学部・研究科等による自己点検・評価の結果に対し、内部質保証に責任を負う組織である「自己点検・評価連営委員会」は、総括して改善が必要な事項を記載する
 《ことときり、改善支援が不十分である。
 → → 内部質保証の責任する体による条学部・研究科等へのマネジメント不足、
- - → 内部質保証の責任主体による各学部・研究科等へのマネジメント不足。

(長所)

内部質保証 – 提言の状況 (2018~2020) (長所)

- 「「教学ガイドライン」を活用した実質化」: 全学的な内部質保証推進組織とその下の6部会、学部・研究科の3階層と各委員会が連携した内部質保証体制を構築。「教学ガイドライン」等を活用して各学部・研究科への教学マネジメントを行い、教育の質保証に連携。さらに、各学部・研究科では専門分野別外部評価を実施し、外部有識者からなる「大学評価委員会」が内部質保証システムの適切性を評価するとともに、学生による参画を制度化することで客観性を担保。(立命館大学)
- 「自己点検・評価活動を事業計画に連動させ確実に改善を図る 工夫」: 自己点検・評価の結果、優れた取組みを一覧化した「G Pリスト」と、課題を一覧化した「タスクリスト」を作成し、全学で共 有・管理することによって、各教育研究組織の事業計画等の改善・ 向上に向けた取組みの確実な実施を支援。(関東学院大学)



1000 - WA

33

-WA

学習成果 -提言の状況 (2018~2020)

(改善課題)

- 学位授与方針に、修得すべき知識、技能、能力など 当該学位にふさわしい学習成果を示していない。
- 各学部・研究科の学位授与方針に則した学習成果の 測定方法・指標が確立されているとはいえない。
- ※ とりわけ 大学院研究科の取り組みの弱さが際立っている。



33

31

34

学習成果 -提言の状況 (2018~2020)

内部質保証 – 提言の状況 (2018~2020)

「自己点検・評価に基づく改善計画の監理と外部評価による客観的な内部質保証の推進」: 各部局の自己点検・評価結果に

改善事項を付す「評価委員会」と、改善の進捗を監理する「推進

委員会」を中心とした内部質保証体制を構築。自己点検・評価に

関与していない教職員や学外者を含めることで幅広い視点を確保。

(長所)

- 「ループリックの活用」: 学位授与方針に掲げる力と対応させたループリックを活用して、その結果に基づいた教育方法等の改善に取り組んでいる。 (淑徳大学)
- ▼ 「教学 I Rプロジェクト」: 各学部・研究科のニーズを組み込んだ学生調査(入学時調査、パネル調査、卒業時調査、卒業後調査等)の統一的な設計・実施。(関西大学)
- 「考動カコンピテンシー」:各学位プログラムの学位授与方針を集約し、 身につけるべき資質・能力を5つの力、10の能力に分解して明示。→思 オカ・判断力・表現力等の能力や学習に取り組む態度の習得状況を測 定。(関西大学)
- 「学びと成長調査」: 学生による自らの「学習経験、学習過程、学習成果」の認識把握。⇒正課・学生生活の満足療、正課・正課外活動への意欲、進路・将来への見通に関わる多様な設問への自己評価を、入試種類別、学年別、GPA別、専攻別等で集計。(立命館大学)

-MY

34

32

35

学習成果 -提言の状況 (2018~2020) (長所)

- ●「評価ツールの確立」: 学位授与方針と各授業科目の関係を「関与度一覧表」として明示し、アセスメント・ポリシーを策定したうえで、学位授与方針と対応した成績評価を行うためのガイドラインや主体性を評価するための全学共通のルーブリックなどの評価ツールを確立。(福岡工業大学)
- ●「学生・教員双方による測定」: 学位授与方針と各科目の対応を示した「DP到達目標管理表」を策定し、各科目の到達目標をシラバスに掲載したうえで、到達度及びその評価基 f 準を明示した「学科ルーブリック」を用いて、学生が自己評価するとともに、担当教員も同じ、ルーブリックを用いて評価。(武蔵野大学)



36

学習成果 -提言の状況 (2018~2020) (長所)

- 「学生の能力をレーダーチャートで可視化」: 学位授与 方針に示した各能力に関する学生個々の修得状況を レーダーチャートで可視化した「ディプロマ・チャート」を教 職協働によって開発し、各学部に提供。(関東学院大学)
- ●「学修ポートフォリオと教務システムとの統合による履修支援」: 学修ポートフォリオと教務システムの統合により、「学位授与方針」と対応関係にある各科目の「到達目標」の修得状況をレーダーチャートで表示。学修ポートフォリオから伸長させたい到達目標を選択すると、対応する履修可能な科目が表示され、履修登録までワンストップで実施可能。(甲南大学)



36

学習成果 -提言の状況 (2018~2020)

(長所)

●「ルーブリック型評価表等の多面的な指標の活用」: 予め 設計された学部ごとのルーブリック型評価表を用いて卒業論 文 (必修)を評価。これら卒論研究での取り組みや能力を 記載したディプロマ・サプリメントを学生に対して発行。(東京薬



37

参考 COVID-19を受けて、2021年度申請大学に追加して要請した 点検·評価事項 大学基準 点検·評価報告書(申請大学) 評価(大学基準協会) 変更なし 変更なし 内部質保証推進組織等は、内部質保 証システムを機能させる観点から、内部 COVID-19への対応・対策は、教育を中 質保証に関する手続や全学及び学部 心とした大学の質の維持・向上の観点から 等を単位としたPDCAサイカルの連営など 適切であるか。 しおいて、COVID-19への対応・対策と してどのような措置を講じたかを記述。 【必須】 附置機関等において、全学的な COVID-19への対応・対策を行っている 場合は、その内容を記述。[任意] 各学部・研究科等は、通常の教育課程 や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策に、教育内院、 応・対象として、教育内院、教育方法。 成線評価等の一連の教育活動において どのような工夫を講したかを記述。また、こうした教育活動の効果についても記述 [必須] 基準3 教育研究組織 基準 4 教育課程·学習成果

38

39

	参考	
大学基準	点検·評価報告書(申請大学)	評価(大学基準協会)
基準 5 学生の受け入れ	入試において、COVID-19への対応・対策としてどのような措置を講じたかを記述。【必須】	入試において大学が講じたCOVID-19への対応・対策は、入試の公平性・公正性の観点から適切であるか。
基準 6 教員·教員組織	教員組織の編制やFD等において、COVID- 19への対応・対策を行っている場合は、その内 容を記述。【任意】	
基準 7 学生支援	学生支援、修学支援、生活支援、進路支援 等)におけるCOVID-19への対応・対策を記述。【必須】	学生支援(学習支援、経済支援、就職支援 等)におけるCOVID-19への対応・対策は、学 生の安定した学生生活の確保の観点から適切 あるか。
基準 8 教育研究等環境	学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備におけるCOVID-19への対応・対策を記述。 【必須】	教育研究等環境整備におけるCOVID-19への 対応・対策は、学生の学習及び教員の教育研究活動の円滑な実施の観点から適切であるか。
基準 9 社会連携・社会貢献	社会連携・社会貢献において、COVID-19への対応・対策を行っている場合は、その内容を記述。【任意】	社会連携・社会貢献において講じたCOVID-1 への対応・対策は、知識・技術等の還元の観点 から適切であるか。
基準10 大学運営・財務	大学運営、S D 等において、COVID-19への 対応・対策を行っている場合は、その内容を記述。【任意】	大学運営、S D等において講じたOVID-19へ 対応・対策は、教職員の大学運営に関する資 向上の観点から適切であるか。

40

参考

今後の評価資料等、変更について

2022年度より、教職課程を設置する大学の全学的な組織体制 の充実及び当該組織による教職課程の自己点検・評価(教育 職員免許法施行規則の一部改正)



何らかのかたちで確認する予定



41

お問い合わせ先

- ご質問は随時受け付けております。
 - ・本日の説明、その他内部質保証や大学評価一般に関わること:
 - → 評価研究部 企画·調査研究課 03-6228-1315 E-mail kikaku@juaa.or.jp
 - ・ 資料の作成、その他大学評価の具体的な申請に関わること:
 - → 評価事業部 評価第1課 03-5228-2200, 2112 E-mail info@juaa.or.jp



大学基準協会ウェブサイト

http://www.juaa.or.jp

名城大学(2021.11.04) 【学内FD · SD資料】

名城大学 第23回FD・SDフォーラム

内部質保証の実質化と恒常化を目指して - 認証評価を目前に考える-

プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証

国立大学法人 東海国立大学機構 名古屋大学 教養教育院 教授・副院長 要本英和*

*情報学部 情報マネジメント研究室 大学院環境学研究科 ナレッジ・マネジメント研究室

本資料は教育研究、社会連携、実務経験を通した個人の知見や見職であり、名古屋大学教養 教育院副院長(質保証担当),旧評価企画室はじめとする関係学内部署、学外諸機関・諸団 体の見解ではありません。 2

フォーラムの構成と立ち位置

*大学基準協会から

- ・第2巡目:内部質保証という概念の提案
- ・第3巡目:内部質保証システムと学修成果の有効性
 - ●学修の成果 : DP/CP/APによるプログラム ・指標化・可視化による検証
 - ❷内部質保証 : PDCAマネジメントサイクル
 - ∀内部質保証 ≠ 自己点検・評価賃保証システム:授業,プログラム,大学(機関)
 - ✓担当部署と責任者の明確化
 - ②根拠資料
- ❖システム思考による現場目線からの事例提供 名城大学の外部評価委員、中期事業計画策定支援から学んだ、 特色ある組織文化が活かせる、内部質保証システムの実質化・恒 常化を、最適化・軽量化から考えてみたい。

2

3

まず,現場教職員から聞く声

- ❖何のために、こんな(面倒な)ことをするのか?
- *今一,わからないが、言われた通りに、従うしかない!
 ・カタカナ言葉の誤認や誤解によるミスリード
 - ・概念がそのものが不明瞭
- ❖学外から言われたままを、現場へ丸投げするのはやめて!

4

はじめに 論点整理

- ❖内部質保証(Internal Quality Assurance System)の基本概念
 - ・教職員から観た質とは何か?
 - ・教職員から観た質保証とは何か?
 - ・内部質保証、内部質保証システムとは何か?
- ❖認証評価を目前に、<u>今後に向けた取組として</u>
 - ・実質化(Substantiate)
 - 名目でなく内容や本質が伴い、確かな実体がある。
 - ・恒常化 (Normalize)
 - 標準化など、持続可能な形に軽量化する。
 - 例、寄集めによる不揃いに対する労力を軽減する。
 - 例, 多様性を活かした上で, 揃う枠組を作る。
 - 例、本質的で、意味あるものを精査する。

Copyright©2021 KURIMOTO.H., Nagoya University

5

話題提供:論点整理に基づいた概念の再確認と取組事例

❖システム思考による概念の再確認(先程の問い)

■Part I:質とは何か?

Qualityの特徴

■Part II:質保証とは何か?

<u>Quality Assurance</u>の意味

■Part III:質保証システムとは何か?

Quality Assurance/Management Systemsの仕組

❖取組事例

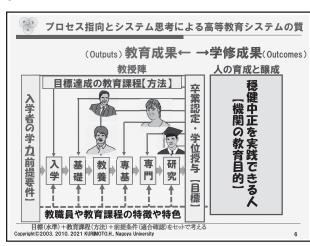
■Part IV : 質保証の中核となる現場の気づきを起こす

●厳格性と客観性ある成績評価のAssessment

②シラバスに副った Course Management のAssessment

3単位の実質化 (Study Load)を確保するための指示

Copyright©2020 KURIMOTO,H., Nagoya University



Part I 質とは何か? 質保証とは何か?

自己点検·評価(Self-Assessment) の考え方

社会通念として,一般的な質(Quality)とは何か?

❖日常会話の中で「質が良い/悪い」という表現をする。 したがって、質には「程度」、「度合」という概念がある。 例えば,基準となる「物差(単位)」があれば共通化できる。

「長さ」: mの単位で表現できる

・「重さ」:kgの単位で表現できる。 ・「質」 :程度を表すが、単位がない! サービス・製品、医療、教育、行政、研究開発等

- ᠅質は、「他の、何か」と組み合わせることで基準を得る。
 - ・質には利用者である関係者の「要求」に対する基準が含まれ、 様々な要求や期待に対して、総合的に良いのか悪いのか を示す度合い。

例,「機能性」,「利便性」,「耐久性」,『期待度』,『満足度』等

Copyright@2010, 2017, 2020 KURIMOTO.H., Nagova University

9

高等教育の質(Quality of Higher Education)

(第4版・高等教育に関する質保証関係用語集)

- ❖ 高等教育の質は多義的な概念であり、高等教育の利害 関係者が、学生及びその保護者、将来の雇用者、教職 員など多様であるため、それぞれの利害関係者に対する 質を単一概念で図ることは容易ではない。
- ❖ ただし、高等教育の質を評価する際には、例えば大学で はどのような活動を行い、適切に機能しているか、またどの ような特色を有し関係者にとって価値があるかといった諸 活動の質を分析・評価することとなる。
- ❖ また、高等教育の質を計る視点としては、
 - ①卓越性.
 - ②任意に定められた基準に対する適合性,
 - ③自らが定める目標に対する達成度,

④関係者の満足度が考えられる。

10

質の保証(Quality Assurance)とは何か?

: 相手の懸念や疑念を取り除く。

× Guarantee :保証する。

×Insure : 金銭的に補償する。

【語彙の概念に留意】

※日本語の「保証」は、Guaranteeを連想させやすく、 Assureの概念に相当する言葉が不足している? ※同様に、Complianceを法令遵守に、Governanceを統治に、 Managementを管理に読み替えると誤認が起こりやすい?

Copyright@2010. 2017 KURIMOTO.H., Nagoya University

11

教育の質保証(Quality Assurance in Education)

文部科学省中央教育審議会・大学分科会 「認証評価制度の充実に向けて」(審議まとめ)(平成28年3月18日)

…大学の質保証においては、多様な大学が自ら掲げ <u>る目標に向けて</u>教育研究活動を行う中で、定期的な 自己点検・評価※1の取組を踏まえた各大学における 自主的・自律的な*2質保証*3への取組(内部質保証)

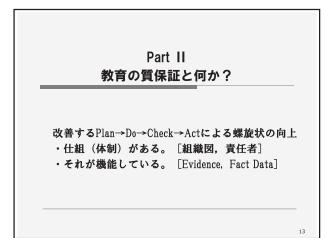
- %1 Self-Assessment
- ***2** Independence and Autonomy
- **%3** Quality Assurance

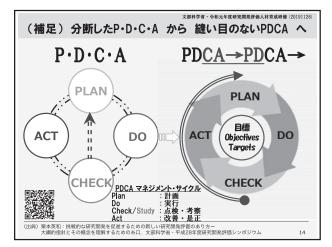
12

| 自己点検・評価 (Self-Assessment) *1

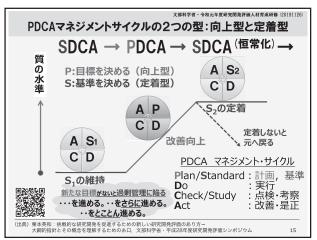
(第4版・高等教育に関する質保証関係用語集)

- ❖大学等が、自己の目的・目標※2に照らして教育研 究等の状況について点検し、その結果優れている 点や改善すべき点などを評価を公表するとともに その結果を踏まえて改善向上を行っていくとい う質保証の仕組み。
- ❖ 学校教育法において、その活動が義務化されてお り、高等教育の質保証は一義的に大学等自らが 主体的に行うものという点が示されている。
- ※1 分野を超えて共通する概念として『自己観照』がある。
- ※ 2 Goals and Objectives





15



16

マネジメントは管理でなく、目的を共有し目標を実現する手段 *PDCAは、サイクル期間の長短、目標や改善の公表の仕方に よってはPDS(Plan-Do-See)と呼ばれる。 *PDCAサイクルの基本的な概念は、結果を振り返るフィード バック経路を介して目標に近ける仕組であり、通常はPlanを

文部科学省・令和元年度研究開発評価人材育成研修(20191126)

❖PDCAサイクルの基本的な概念は、結果を振り返るフィードバック経路を介して目標に近ける仕組であり、通常はPlanを始点とするが、活動の目的や内容、組織の特徴や文化によって異なる。なお、Check から始まる時はCAPD/CAP-Doとも呼ばれる。

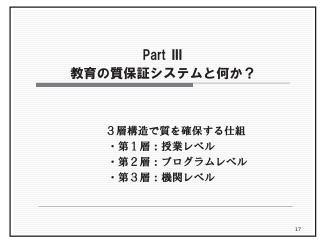
*PDSAサイクルは、実施結果を単に点検する(Check)でなく 、結果を考察・検討する(Study)意味で、Plan-Do-Study-Act と呼ばれる。

*SDCAサイクルは、遵守する規範や基準(Standard)があり、 それを実現する意味で、Standard - Do-Check-Act と呼ばれる。

❖Do-CAPは、研究活動や試行が伴うAgile型開発を意味する。

(出典) 栗本英和: 研究開発機関における方針・戦略策定の事例と工夫、研究開発マネジメントにいかず評価~我が国の研究 開発機関における研究開発評価活動の現状と課題、文部科学省 科学技術・学術政策局、p16, 2013. 16

17 18



第3層構造:質を確保・維持・保証するためにできること 機関レベル/ 機関共通の枠組(整合性) 複数の教育プログラム 大学の基本理念 本業後 入学 共通 専門 選抜 基礎 基礎 研究 大学院 開発 教育 入学 の活躍 教育課程レベル 相互の摺合わせによる有機的な編成(一貫性) 入学 共通 専門 研究 大学院 卒業後 選抜/基礎 基礎 事門 開発 教育 の活躍 授業レベル ▶ 相互の摺合わせによる授業 (一貫性) 第15回 期末 第1回 第2回 Copyright@2010 , 2017, 2020 KURIMOTO.H., Nagoya University 18



観点①:機関レベル(本部)と課程レベル(部局) 観点②:課程レベル(部局)と授業レベル(教員) 観点③:授業レベルと,具体的な取組と重点項目

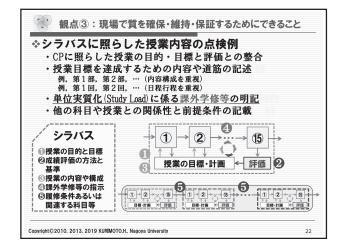


21



22

20

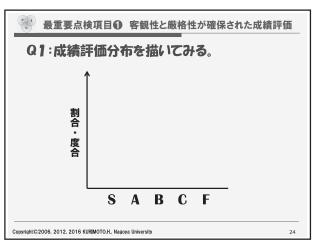


23

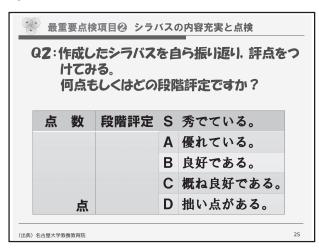
観点③の教員から観た深掘りとして 教育の質の基盤であるFacultyの力

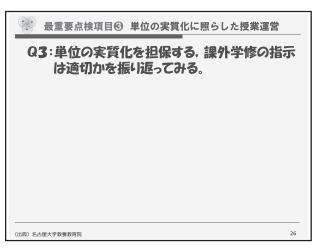
Self-Assessmentによる3つの重点項目
自ら気づいてもらえるFDの場づくり
重点① 成績評価分布
重点② シラバスの内容充実と点検
重点② 単位の実質化(課外学修の指示等)

*上記は全学教育科目担当教員FDで毎年、重点項目を決め実施してきたもの









教育プログラムの質保証システム

目前の認証評価を通して 今後の実質化や恒常化に繋げるために 軽量化の視点から,

機関レベル、プログラムレベル、授業レベル プロセス指向・システム思考の見方や考え方にそって 話題提供いたしました。

28

おわりに:教育プログラムの質を内部で確保するための要件

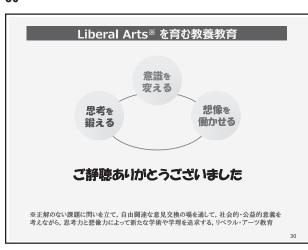
- **❖教育プログラム**
- ・教育の目的に照らした学修成果を確保するための、教育 目標と実現する教育課程
- *教育の質
 - ・構成要素との連鎖全体で発現する機能
- *内部による自律性・学外者に頼らず内省できる仕組と責任体制(人や部署)
- ◇質を確保する基本的要件
- ・目標や基準の設定 → 卒業認定・学位授与 (DP) ・実現する方針や手段 → 教育課程の編成・実施(CP)
- ・実現上の前提条件 → 入学者の受入・選抜 (AP)

 *システムとしての機能要件
 ・(縫目のない) 繋がりを重視する概念
 ・(変動に対し) 多層的に補償する仕組
 ・(全体として) 確保・維持される機能

Copyright@2013 KURIMOTO.H., Nagoya University

29







COVID-19への対応 (参考)

- ①コロナ禍においても教育の質が確保されているか?
- ②遠隔授業が対面授業と同等の質を確保しているか?
- ③(遠隔では)質問や発表等の機会が設定されているか?

FD 学習会実施概要(第13回~第15回)

(1) 第13回 FD 学習会

日 時:令和3年7月20日(火)13:00~14:00

開催方法: Zoom によるオンライン開催

テーマ:数理データサイエンス・AI教育の必要性と実践

内 容:理工学的観点からデータサイエンスの必要性等について

講師:齊藤公明教授(名城大学 理工学部)

(2) 第14回 FD 学習会·第3回新任教員 FD 研修会

日 時:令和3年8月25日(水)13:30~14:45

開催方法: Zoom によるオンライン開催

テーマ:大学で教えるためのルーブリック(基礎編)

内 容:ルーブリックの役割や4つの構成要素等について

講師:加藤 真紀 教授(名古屋大学 高等教育研究センター)

(3) 第15回 FD 学習会

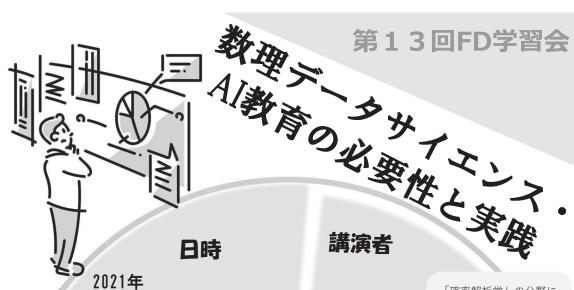
日 時:令和3年9月2日(木)10:00~11:30

開催方法: Zoom によるオンライン開催

テーマ:大学の授業運営における著作権への考え方について

内 容:改正著作権法第35条の説明、令和3年度版ガイドライン等について

講師:木村 友久 教授(帝京大学 共通教育センター センター長)



7月20日(火) 13:00~14:00

Zoomによる 方法 オンライン開催 理工学部

齊藤 公明 教授

「確率解析学」の分野に おいてホワイトノイズ理 論の研究をされています。 数理・データサイエン スにも関連しています。

対象

学内教職員 非常勤講師 大学院生

趣旨

ビッグデータが活用されるようになった結果、 日常生活においても、急速に様々なものが「現在進行形で 便利になっている」ことを実感している人は、多いのではないでしょうか。 今後の社会においては、この動きがさらに進化していくものと考えられます。

また、この進化により、今後は一般常識及び職業レベルにおいても必要と される「数理データサイエンス・AIIに関する力の必要性が、より強く 叫ばれることになるでしょう。

本学は、現在、数理データサイエンス・AI教育への第一歩を 踏み出そうとしています。

【申込方法】

下記URL もしくは

QRコードから お申し込みください。 https://is.gd/eFSadU 回る。

お申し込み後、参加方法の詳細が 自動メールにより送付されます。

大学教育開発センター

TEL: 052-838-2032(内線: 2653)

その一歩を踏み出すため、今回は実践経験の ある齊藤先生にご講演いただきます。

> 特に「確率過程とデータサ イエンス~時系列データの 分析~」は、興味深くご聴 講いただけるかと思います ので、皆様ぜひご参加くだ さい。



第13回 FD 学習会

「数理データサイエンス・AI 教育の必要性と実践」 アンケート結果報告について

1. 実施概要

· 日 時: 令和3年7月20日(火)13:00~14:00

・開催方法: Zoom によるオンライン開催

・テ - マ:数理データサイエンス・AI教育の必要性と実践

·講師:理工学部 齊藤 公明 教授

・参加者数:95人(専任教員72人、非常勤講師0人、事務職員19人、大学院生4人)

2. アンケート方法等

・アンケート方法:Google フォーム

・質問項目:以下のとおり

①所属をお知らせください。

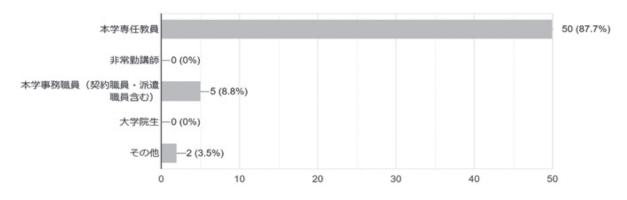
②本日の内容は、理解できましたか?

- ③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか?
- ④本学習会の満足度について教えてください。
- ⑤何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。
- (6)テーマ、ご希望の講師(学内外間わず)について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。
- ·回答者人数(質問①~④):57人
- ・質問⑤、⑥については主な意見のみを示しています。(※一部抜粋・改稿を含む)

3. アンケート結果

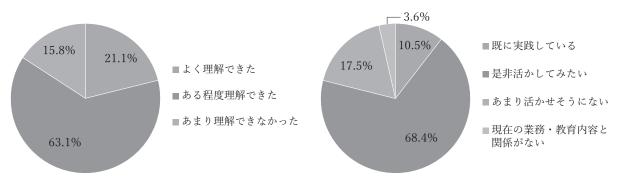
①所属をお知らせください。

57件の回答

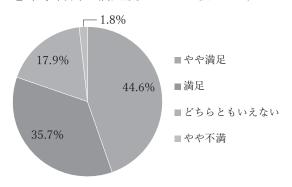


②本日の内容は、理解できましたか?

③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか?



④本学習会の満足度について教えてください。



⑤何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。

- ・データサイエンスを全学で教えることになったので、背景を知りたかった。
- ・AI・データサイエンス技術を研究にも利用しており、学生教育にも活用したいと考えているため。
- ・来年度からの情報工学部の科目との関係性を知るため。
- ・来年度から始まる全学共通科目として行われるデータサイエンスに関して興味があった。
- ・本学におけるデータサイエンス教育と新学部設置の展望を知りたかった。
- ・来年度開講科目の「データサイエンス・AI入門」の一部担当となったため。
- ・色々な分野でデータサイエンスがどのように扱われているのか学びたいと考えて申し込みしました。
- ・授業で Deep Learning に関する話題を扱っているため。
- ・数理データサイエンス・AI 教育とは何か?がよく分かっていないための情報収集。
- ・数理データサイエンス・AI 教育の必要性は以前から強く感じていたため。
- ・教員評価のポイントになっている。

<u>⑥テーマ、ご希望の講師(学内外問わず)について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせくだ</u>さい。

・データサイエンスについて学内の共同研究を促すような仕組みをつくってもらえるとありが たい。マッチングのような。どの分野でも機械学習が盛んに用いられるようになってきてい る。短時間でというよりは、合宿形式、1日~2日の集中形式で機械学習の講習会を開い てくださったら、この分野のスキルを研究に活かすことができるし、学内での新たなネット ワークも構築できそう。

- ・データサイエンスのビジネス・政策への利活用の状況を知りたいので、実際利活用している 会社、国、自治体の関係者に講演していただきたい。
- ・文系学生に対して、いかにデータサイエンスを学ばせるか。
- ・本学は総合大学なので、理系、文系それぞれの立場からデータサイエンスに対する考えを聞いてみたい。(文系の方は消極的なのかどうか?)
- ・文系教員としては、果たして学生がデータサイエンス教育にどこまでついていけるのかという不安があります。本学文系と同レベルの他大学の取り組みの状況と困難について、紹介していただけると大変助かります。
- ・他学および高校等の動向等興味深い内容で、大変勉強させていただきました。ありがとうご ざいました。
- ・教員・研究者向けのバイオインフォマティクス講座や研究会の発足など、データサイエンス に関する内容を実施して欲しい。
- ・機械学習のみならず、ベイズ推定やゲーム理論に関しても学べる講師がいらっしゃると良い。

データサイエンスの必要性と実践 ~理工学的観点から~

> 名城大学理工学部数学科 齊藤 公明

令和3年7月20日

2

本日の話題

1. 背景

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定制度 数理・データサイエンス・AI教育の必要性

- 2. 自己紹介
 - 研究分野, 重心揺動モデル
- 3. データサイエンスが学べる大学
- 4. 数理資本主義/数学イノベーション
- 5. 理工学部での数理・データサイエンス・AI教育
- 6. 確率微分方程式のデータサイエンス ブラウン運動,ホワイトノイズ,YUIMA
- 7. 数理・データサイエンス教育の検討事項
- 8. 数理情報関係の科目, 研究指導科目での実践
- 9. まとめ

3

1

背景1

- ●第5期科学技術基本計画:2016年1月22日閣議決定 https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/5honbun.pdf
- ●大学の数理・データサイエンス教育強化方策: 2016 年 12 月 21 日公表

文部科学省として喫緊に取り組むべき方策

- 1 数理・データサイエンス教育研究センター (仮称) の整備
- 2標準カリキュラム・教材の在り方
- 3 実践教育に関する産学連携ネットワークの整備

https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index5.html

「数理及びデータサイエンスに係る教育強化」の拠点校の選定

北海道・東京・滋賀・京都・大阪・九州(6 国立大学) データ関連人材育成プログラム(D-DRIVEb)2017 年度~

「大学における数理・データサイエンス教育の全国展開」の協力校の選定

4

背景2

- ●経済産業省:産業技術環境局 大学連携推進室等 2019年3月 ・数理資本主義の時代 ~ 数学パワーが世界を変える
- ●統合イノベーション戦略推進会議(首相官邸・政策会議)
 - ·人間中心の AI 社会原則: 2019 年 3 月 29 日
 - ·AI 戦略 2019 ~ 人·産業·地域·政府全てに AI~ 2019 年 6 月
- 目標 1: 文理を問わず、全ての大学・高専生 (約50万人卒/年)
 - が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得
- 目標 2:多くの社会人 (約 100 万人/年) が、基本的情報知識と、 データサイエンス・AI 等の実践的活用スキルを習得できる機会 をあらゆる手段を用いて提供
- 目標 3:大学生、社会人に対するリベラルアーツ教育の充実 (一面的なデータ解析の結果や AI を鵜呑みにしないための批判的思考力の養成も含む)

5

背景3

数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム

- ●北海道大学: https://www.mdsc.hokudai.ac.jp
- ●東京大学: http://www.mi.u-tokyo.ac.jp

エクステンション株式会社 https://www.utokyo-ext.co.jp/

- ●滋賀大学: https://www.ds.shiga-u.ac.jp/dscenter/
- ●京都大学: http://ds.k.kyoto-u.ac.jp
- ●大阪大学: http://www-mmds.sigmath.es.osaka-u.ac.jp
- ●九州大学: http://mdsc.kyushu-u.ac.jp
- ●神戸大学: http://www.cmds.kobe-u.ac.jp

6

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」 認定制度

●「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」の 認定について: 文部科学省

令和3年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」の認定結果 について (mext.go.jp)

名城大学では授業科目「データサイエンス・AI入門」を全学で導入.

●「数理・データサイエンス・AI(応用基礎レベル)」

モデルカリキュラム ~ AI×データ活用の実践 ~ 2021年3月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム

-129-

データサイエンティスト

- ●定義: 「データサイエンスカ、データエンジニアリングカ をベースにデータから価値を創出し、ビジネス課題に答えを 出すプロフェッショナル」
- ●求められるスキル:「ビジネスカ、データサイエンスカ、 データエンジニアリングカ」
- ・ビジネスカ:「課題背景を理解した上で、ビジネス課題を整理し、解決するカ」
- ・データサイエンスカ:「情報処理、人工知能、統計学などの情報科学系の知恵を理解し、使う力」
- ・データエンジニアリングカ:「データサイエンスを意味のある形に使えるようにし、実装、運用できるようにするカ」

数理・データサイエンス・AI教育の必要性

- ●AI、ビッグデータ、IoTに代表される第4次産業革命の 基盤技術が広く社会に取り入れられることによりSociety 5.0が実現する。
- ●現在、それらの 技術を支えるデータサイエンティストが不足している。
- ●今後は、あらゆる人にデータリテラシーと呼ばれる データサイエンスに関する教養が求められる。
- ●統計学における汎データサイエンス教育のフロンティア分野横断的な教育は、<u>滋賀大学、横浜市立大学</u>、および武蔵野大学などにおいて実践され、人材育成の成果が期待されている。また、それらの大学はデータサイエンスに関する大学院の設置を進めており、さらに高度な専門性を備えた人材の輩出が期待される。

9

数理・データサイエンス・AI教育の必要性

- ●初等中等教育における学習指導要領 の変更を通じて少し時間は 掛かるが着実に成果を出すことが期待される。
- ●中学指導要領の数学に「資料(データ)の活用」が含められ、箱ひげ図などが移行された。
- ●高等学校数学 I に「データの分析」が含められ、記述統計を超えて「仮説検定の考え方」が導入され、情報 II ではデータサイエンス教育が導入される。大学における教養教育 としての統計科目に影響を与える。

参考:高等学校情報科「情報Ⅱ」教員研修用教材(本編)

●新たな高等学校学習指導要領では記述統計はもちろん、推論統計も学習する。大学はそれらの学生を預かり、4年間を通じてデータリテラシーを身につけた人材として社会に輩出することが求められるが、その教育システムは今後の課題となる。

10

自己紹介

履歴: 昭和62年 名城大学理工学部助手 平成12年 名城大学理工学部教授

Editor: Journal of Stochastic Analysis

https://digitalcommons.lsu.edu/josa/

研究助成:•科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

「超汎関数空間の構成に基づく無限次元確率解析の新展開及び量子 情報論への応用」 研究代表者 他

・平成9年度私立大学学術フロンティア事業「量子情報論からの生命への接近」(H9~13年度)研究分担者.この事業において,5回の国際会議,サマースクール,ウィンタースクール他を開催



11

研究分野

ゆらいだ世界を記述解明するための数学創りをしています. あまり 分野に拘らず研究を行っております.

- ●確率過程論, ゆらぎ現象の解析, 確率解析学
- ●超汎関数論、ホワイトノイズ理論、関数解析学
- ●量子情報論, 量子確率論, 数理ファイナンス,シミュレーション論 等

12

重心揺動モデル

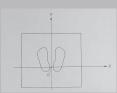
人体そのものもゆらいでいる.

$$\frac{d}{dt} \begin{pmatrix} X(t) \\ Y(t) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -\lambda & \varpi \\ \varpi & -\lambda \end{pmatrix} \begin{pmatrix} X(t) \\ Y(t) \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} \dot{B}_1(t) \\ \dot{B}_2(t) \end{pmatrix}$$

*B*₁, *B*₂ は独立なホワイトノイズ

 $\lambda > 0$, $\varpi > 0$

より厳密なモデルがホワイトノイズ解析を用いて得られている.



データサイエンスが学べる大学

データサイエンスが学べる学部、学科、コースが最 近設置された(される予定の)大学

- 1 南山大学 理工学部 データサイエンス学科
- 2 中央大学 ビジネスデータサイエンス学科
- 3 立正大学 4 大阪工業大学 5 阪南大学
- 6 立教大学 7 東京工科大学 8 静岡工科大学
- 9 成城大学 10 北海道大学 11 九州情報大学
- 12 武蔵野大学 13 東京都市大学 14 広島大学
- 15 京都産業大学 16 横浜市立大学

データサイエンスが学べる大学

- 17 滋賀大学 18 立命館大学 19 琉球大学
- 20 東京電機大学 21 津田塾大学 22 山形大学
- 23 武蔵大学 24 東京大学 25 東京理科大学
- 26 工学院大学

15

高等学校のデータサイエンス教育

高等学校「情報II」の身に付けるべき資質・能力は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3柱。以下の5章で構成される。括弧内は「情報I」。参考:高等学校情報科「情報I」教員研修用教材(本編)

- 1. 情報社会の進展と情報技術 (情報社会の問題解決)
- コミュニケーションとコンテンツ (コミュニケーションと情報デザイン)
- 情報とデータサイエンス (コンピュータとプログラミング)
- 4. 情報システムとプログラミング (情報通信ネットワークとデータの活用)
- 5. 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究(なし)

16

学びの広がりを制限しない

- ●英語:・データの取得,コマンド,プログラミング
 - ・マニュアル, ヘルプ, Q & A, (ユーザ)コミュニティへの アクセス
 - ・オンライン・コース、オンライン・ツールの利用
- ●数学: ・基本的な式変形など, 中学数学および,
 - ·高校数学 I, II, A, B,C の必要な部分の学習
 - ・確率・統計:データ・サイエンスの中で少しずつ学習
 - ・理系で数学を学んだ学生が、教える経験をもつ
- ●コンピュータ:
 - ・データ・サイエンスのためのソフトによるスクリプトの活用
 - ・プログラミングへの関心

17

数理資本主義/数学イノベーション

- ●Society5.0 社会においては、広範囲かつ目的に整合したデータの取得を前提として、それらのデータに内在する本質的構造を見極め、数理的思考に基づいて解析・問題解決を行う能力、つまりデータサイエンスを活用して新たな価値を生み出し、有用なシステム構築につなげる能力が求められている。
- ●このため、数理的思考力とデータ分析・活用能力を持つ人材の 育成が必須となっており、社会に価値やサービスを生み出すとい う目的に合致した大学教育システムの構築が急務となっている。
- ●文部科学省では、全ての学生がどの学部に進学しても数理的 思考カとデータ活用能力を身に付けることができる教育体制の構築を目指し、大学における数理及びデータサイエンス教育の強化の方策を検討するため、平成28年度(2016年度)に「数理及びデータサイエンス教育の強化に関する懇談会」を設置し、議論の取りまとめを公表した。

18

数理資本主義/数学イノベーション

文部科学省・経済産業省:「理数系人材の産業界での活躍に向けた 意見交換会 報告代数学書: 数理資本主義の時代」 現代の様々なデジタル技術は数学が左右している。

代数学解析学 幾何学 数理情報 (確率論・統計 学・OR等) 計算機科学 特異モデル選択 非線形次元削減 モデル正則化 暗号化 自動推論・異常検知 グラフ解析 機械学習全般 計算複雑系解析 アルゴリズム全般

理工学部での数理・データサイエンス・AI教育

★理工学部各学科にて、数理・データサイエンス・AI関連の教育は既に それぞれの教育科目の中で実施されている。

- ・基礎科目:語学、微分積分、線形代数、コンピュータリテラシー、 プログラミング演習 (C, C++, Matlab, Maple, ···) データサイエンス基礎、データエンジニアリング基礎、…
- 数理情報:確率 統計の基礎, 確率論, 統計学の基礎理論と応用, 確率過程論, オペレーションズ・リサーチ, 数理ファイナンス…
- 計算機科学: Pythonの基礎と電子素子の基礎, アナログ電子回路, C言語の 応用,アルゴリズム・データ構造, C++によるオブジェクト指向プログラ ミング、ネットワークとマルチメディア、通信技術の理論とJavaScriptに よる演習, 符号理論, 暗号理論, データ解析, 空間データの統計解析, ニュー ラルネットワーク、MATLABによる数値計算法
- ・人工知能:音声認識,画像認識,感性処理,データマイニング,機械学習(教 師あり学習, 教師なし学習, 強化学習, ディープラーニング)

20

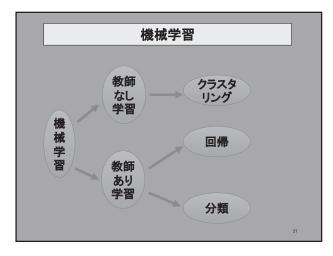
理工学部での数理・データサイエンス・AI教育

- ・制御工学、ソフトウェア工学、信号処理工学、マテリアルズインフォマティクス、 パイオインフォマティクス, ロボティクス, …
- 情報工学科(→情報工学部):情報工学全般にわたる科目配置がされている。

★リテラシ―教育において、MATLABによる教育をMathworks社と 共同して検討中.

MATLAB/Simulinkは様々な理工学分野の教育・研究に活用され、自動車、航空宇宙、通信、エレクトロニクスなどの様々な業界での研究開発 用の基本ツールとしても使用されている。さらに、金融サービス、情報 生命科学といった分野においても活用されている。文系学部、理工系 学部双方において、このMATLAB/Simulinkを用いたアクティブラーニン グ型教育は有益であり,多くの学生のキャリア形成に役に立てることが できる.

21



22

機械学習

●教師なし学習:入力データのみに基づいてデータ をグループ化し解釈する.

データに内在する隠れたパターンや固有の構造を見いだす。 ラベル付けされた応答をもたない一連の入力データから推論を 導き出すために用いる.

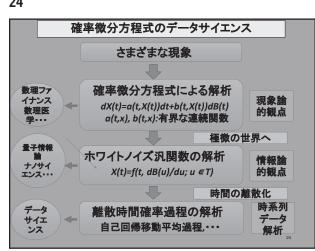
- •遺伝子配列分析,市場調査,物体認識 …
- ●教師あり学習:入出カデータの両方に基づいて予 測モデルを構築する.

不確実さがあっても証拠に基づいて予測を行えるモデルを構築する.アルゴリズムは、既にある一連の入力データとそれに対する応答(出力)を用いてモデルを訓練し、新しいデータへの応答を予測できるようにするもの.

★ 分類問題 ★ 回帰問題 により予測モデルを作成する.

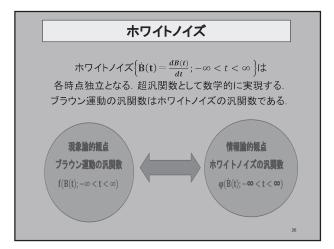
23

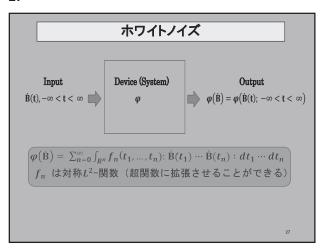
機械学習 ★分類問題 電子メールが迷惑メールか否か、腫瘍が癌か良性かといった離散的な応答の予測. 入力データを複数のカテゴリーに分類する. •用途:画像診断, 音声認識, 信用度評価, ••• ◆回傷問題 温度変化や電力需要の変動など、連続的な応答の予測. ・用途:電力負荷予測,アルゴリズム取引,・・・ 関数解析学:再生 核ヒルベルト空間 カーネル法 確率過程論:ガウ ス過程

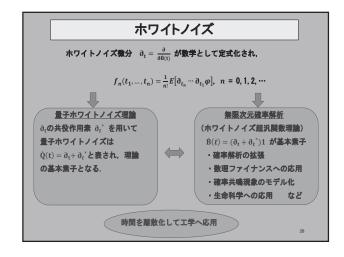


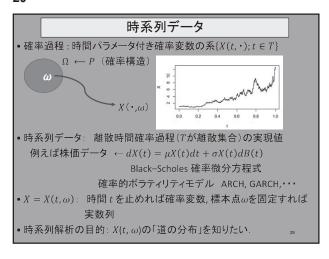
ブラウン運動

ブラウン運動 {B(t); t ≥ 0} のパスは確率1で至るところ微分不可能であり、その増分が独立となる。









確率過程のデータサイエンス「YUIMA」 ●YUIMA: 確率過程に対する統計解析およびシミュレーションのためのRパッケージ。 ●R上で "install.packages("yuima")" と入力すれば、入手可能。 ●PC やスマートフォンのブラウザから、一部機能を利用可能なインターフェースである yuimaGUI も公開されている。 ● The YUIMA Project Open source academic software for computational statistics https://yuimaproject.com/

数理・データサイエンス教育の検討事項

現状

- 各学科での専門科目の中で数理・データサイエンス教育に関連する科目は 既に開講されている。
- ・学科内授業科目が多く設定されているため、これ以上科目の増加は困難.
- ・数理・データサイエンス関係の科目が少ない学科もある.

給計課題

- 教理・データサイエンス推進室の設置
 - 講演, 集中講義, 教育プログラム等の企画
 - ・他大学,研究機関との連携
 - 企業との連携 など
- 横断的教育システムの構築
 - ・他学科, 他学部履修
 - ・講義科目の共同開講
 - •自由科目,大学院共通科目等への導入
 - ・副専攻制度の利用 など

数理情報関係の科目

2年次:数理情報 I【前期】(確率の初歩) 数理情報 I【後期】(統計の初歩)

3年次: 数理情報皿【前期】, V【後期】(確率論の基礎理論) 数理情報IV【前期】(確率論の具体的な応用) 数理情報IV【後期】(統計学、情報量統計学など) 経営情報論【後期】(ファイナンス,線形計画法などへの応用)

4年次:数理情報证【前期】,证【前期】

(確率論・統計学における発展:確率過程論,確率解析学, 複雑系理論など)

33

研究指導科目での実践

数学講究

今年度のテーマ

- ·確率解析学, 超関数論 (2名)
- ・数理ファイナンス (2名)
- ・マルコフ連鎖モンテカルロ法 (2名)

MATLAB, Cを用いてシミュレーション、数値計算等を実施.

確率及び量子情報論講究

今年度のテーマ

- ・代数的統計モデルの構築,量子確率論(博士前期1年)
- ・フラクショナルポアソンノイズに基づく確率解析 (博士前期2年)

34

まとめ

- 全学において授業科目「データサイエンス・AI入門」 を導入した. 情報工学部の設置も併せて,名城大学 から数理・データサイエンス・AI教育を外部に向けて 発信する
- 成果を求めて数理・データサイエンス・Alの視点から 教育が変わってきた。
- それぞれの専門においてデータサイエンスがどのよう に関わるかを考える. 視点を変えればデータサイエン スとの繋がりが見えてくる.
- 動理・データサイエンス・AIの教育に関するセミナー を開催する。
- 専門的な分野にどのようにつなげるか横断的教育 プログラムの構築を検討する.

35

ご清聴有疑うございました。

第14回 名城大学 F D学習会·新任教員FD研修会

大学で教えるためのルーブリック (基礎編)

- ■日時 2021年 8月 25日 (水) 13:30~14:45
- ■講 師 加藤 真紀 教授 (名古屋大学 高等教育研究センター)
- ■会場 Zoomによるオンライン開催
- ■対象 令和3年度新任教員(参加必須) 学内教職員、非常勤講師、大学院生

企画趣旨

近年学校教育において、学修成果に係る評価基準の明確化と公表は一層重視されるようになっています。本学では、シラバスにおいて到達目標の記述が必須化されていますが、評価基準毎に求められている学生の具体的な行動や到達水準の明確化については、今後の課題となっています。

今回のFD学習会では、「ルーブリック」といわれる成績評価の客観性を担保できる手法を紹介します。成績評価は、学生の学修の動機付けにも影響を及ぼす要因の一つであるため、是非ご参加をお願いいたします。

こんな方にオススメ

- 〇パフォーマンス課題に対して厳格な評価を行いつつも、採点時間を短縮したい方
- ○レポート、プレゼンテーション、ディスカッションの評価を苦手とする方
- ○オムニバス科目や、同一名称科目の採点に関わる方

申し込み方法

下記URL等からお申し込みください。

https://bit.ly/3wt7K0A

お申し込み後、参加方法の詳細が、自動メールにより送付されます。



≪お問い合わせ≫

名城大学 大学教育開発センター

TEL: 052-838-2032 (内線: 2653)

第14回 FD 学習会・第3回新任教員 FD 研修会

「大学で教えるためのルーブリック(基礎編)」 アンケート結果報告について

1. 実施概要

· 日 時:令和3年8月25日(水)13:30~14:45

・開催方法: Zoom によるオンライン開催

・テーマ:大学で教えるためのルーブリック(基礎編)

・講師:名古屋大学 高等教育研究センター 加藤 真紀 教授

・参加者数:60人(専任教員52人、非常勤講師0人、事務職員8人、大学院生0人)

2. アンケート方法等

・アンケート方法:Google フォーム

・質問項目:以下のとおり

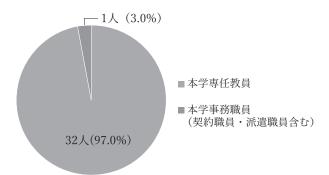
①所属をお知らせください。

②本日の内容は、理解できましたか?

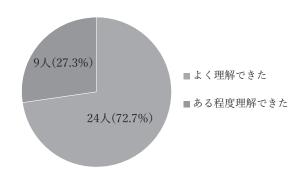
- ③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか?
- ④本学習会の満足度について教えてください。
- ⑤講演の感想をお聞かせください。
- ⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。
- ⑦テーマ、ご希望の講師(学内外問わず)について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせく ださい。
- ·回答者人数(質問①~④):33人
- ・質問⑤~⑦については主な意見のみを示しています。(※一部抜粋・改稿を含む)

3. アンケート結果

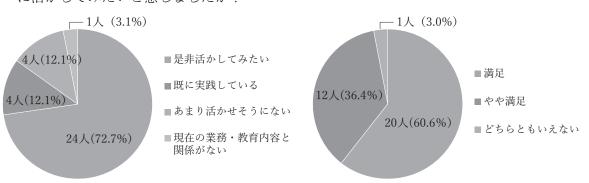
①所属をお知らせください。



②本日の内容は、理解できましたか?



③本日学んだことを、学部や個人の教育活動 ④本学習会の満足度について教えてください。 に活かしてみたいと感じましたか?



⑤講演の感想をお聞かせください。

- ・ルーブリックというのは聞いたことがあるだけだったので、大変勉強になりました。
- ・作成には時間がかかるかと思いますが、演習等で採用したいと思います。
- ・FD 学習会に初めて参加させていただきました。非常に有意義で、今後も参加したいと思います。
- ・基礎編でしたので、すごく分かりやすくよかったと思います。ただ、これから自分の授業に どう有効的に活かすかという課題を感じました。
- ・もう一度ルーブリックに取り組んでみようと思った。ゼミ程度の人数ならいいが大講義では WebClass での返却が困難なので、期末試験の採点などから生かしてみたい。
- ・ルーブリックはなんとなくのイメージで論じられてしまう傾向があるように思います。ルーブリックを「具体的な評価基準リスト」だと捉えれば、教員は(半ば無意識的に)それを普段から行っているわけですから、ルーブリックそれ自体に対する拒否感もだいぶ減少するかもしれません。その意味で、今回のご講演は大変有意義だったと思います。
- ・Stevens and Levi(2013)の「ルーブリックの必要性」に挙げられているレポート採点時の 思いには強く共感しました。

⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。

- ・ルーブリックをもともと使っているので再確認のため。
- ・講義等の評価方法に悩み、受講させていただきました。
- ・自己流でルーブリックを使ったことがあったがうまく使いこなせなかったと感じていたため。

<u>⑦テーマ、ご希望の講師(学内外問わず)について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。</u>

・学部または専門分野毎にルーブリックの原型があると良いかもしれません。各教員が、適宜 それを修正して使用することができれば、導入時の作成コストも低減するかと思います。

- ・近年聞かれる「成績評価基準の平準化」について、今回のように初心者向けにご説明いただ けるようなテーマがあるとありがたいです。
- ・現在の名城大学の WebClass では、レポートでルーブリックを使用できるのですが、「評価の観点」の点数の重みづけができません(評価尺度の点数は任意に設定できる)。また、講師の先生の話にあったように、評価基準の項目にチェックをつけたり、評価基準の文言の一部を丸で囲んだりして、ルーブリックの評価を返却できるようになると、より使いやすいです。WebClass のアップデートを期待しています。

大学で教えるための ルーブリック ^{【基礎編}】

名古屋大学高等教育研究センター加藤真紀

2

「ルーブリック」 = 評価ツール どこかで聞いたことはあるけど?何がありがたいの?



1	課題A レポート「自己分析:自	分の強みと弱み」ルーブリック(12 ポイント満点)。			
自己等別にわれて、自己が利は重要なステップである。担策で答ったシール(もしくはそれに関するもの)を1つ支援ライ、自自己が特を付い、その結果として自分が急かまされてない。その、それらを繋がてる同様がはエピットをとかする人こと、また自身みを持ては、初かも指揮するためにはなったケンの記録が今後を表しないたってもと言うでき、の、ののです目は、ARMは、メーカしくは既じ起すってと、私で出せる等ははこのトープリックを創じてけてオテスでとのこと、例びリンドールーの月9日2月時の大、紙一の月9日放棄的子物・ビ						
	素晴らしい! (2ポイント)。	もう少し!(1ポイント)。	残念 (0ポイント) -			
①現状分析。	自らの協みと弱みについて、授業で紹介 したツールもしくはそれに関するものを 使った分析がなされている。		求められている内容が理解できていい。。			
2証拠のある記述。	強みと弱みを裏付ける複数のエピソードは、過去の出来事、他者からのコメント、 データに基づいており説得力がある。。	強みと明みを裏付けるエピソードは、主 戦的なものが多く、客観性にやや欠ける。				
③日標の明示。	今後必要となる自己啓発について、具体 的で、測定可能な目標が設定されている。	今後必要となる自己啓発について、曖昧 な目標が設定されている。/	今後必要となる自己啓発について、目: が設定されていない。/			
⑥手法の選択・	今後必要となる自己研究について、具体 的で、適切な手法が記載されている。	今後必要となる自己啓発について、手法 が記載されているが、具体的でないか、 適切でない。	今後必要となる自己啓発について、手 が記載されていない。/			
⑤文章構成・	文章は論理的な順序で記述され、読者は 内容を容易に理解することができる。	文章は論理的な順序で記述されていない こところがあり、内容を理解するのは不 可能ではないにせよ、読みにくい。	論理的な順序で組み立てられた文章で ないので、読者はその内容を理解でき い。			
⑥日本語・	漢字や文法上(改行の仕方など)の誤り	漢字や文法上(改行の仕方など)の誤り	漢字や文法上(改行の仕方など)の誤け5月11日本			

出典:日本高等教育開発協会 ルーブリックバンク

1

3

今日の目標

ルーブリック(rubric)は、 ラテン語起源だと「rubrica = 朱書き」の意味

ルーブリックの

- 1. 役割を説明できる
- 2. 4つの構成要素を説明できる

2

4

6

今日の構成

- 1. 教育評価の基礎知識
- 2. 評価しづらいものを測るには
- 3. ルーブリックとは
 - 3.1 構成
 - 3.2 作り方
 - 3.3 使い方
 - 3.4 利点・不利点
- 4. 日本の大学でのルーブリックの活用
- 5. Q&A (途中でもチャットで受け付けます)

3

5

1. 評価の基礎知識 「評価の時代」に、評価を「使いこなす」?

______ 大学でも評価結果を**示す**ことが求められる 背景

1990年代以降

教育の世界にも経営理論・手法としての目標管理の考え方が・アウトカム評価へ)

2000年代以降

アカウンタビリティ(説明責任)を求める傾向の下、大学が学生に学習成果を獲得させ、教育プログラムの有効性を示す必要

松玉(2014)

※ 現代の大学は、社会や政府が目をつぶるには 規模も費用も大きすぎる 教員研究室のある建物を 2分で無人にする方法= 「 」とつぶやく!? Stevens and Levi (2013)

4

ルーブリックに直接的に関係する内容として大 学設置基準における「評価基準等の明示」

2011 年4 月に改正された大学設置基準では、卒業の認定に加えて、通常の授業における成績評価基準等の明示化の必要性が述べられている。

(成績評価基準等の明示等)第二十五条の二の2「大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがつて適切に行うものとする」

評価の大きな区分: 2種類の評価 (Bloom 1968)

■総括的評価

目的:学習成果の把握 形式:合否判定など

時期や対象:学習終了後に行われ、広い範囲を対象

■形成的評価

目的:学習活動の改善 形式:フィードバックなど

時期や対象:学習中に行われ、比較的狭い範囲を対象

※「形成的側面を持つ総括的評価」、逆もあり

6

8

2種類の評価の使い分け

- ■形成的評価により学力を伸ばし、総括的評価 の合格水準に達することをサポートする
- → 提出物等へのフィードバックを通じて学生の学力を伸ばし、授業/卒業の及第水準にもっていく

7

9

大学教育で使われる評価方法は 多様である

例えば

- ■選択式問題への回答 (ペーパーテスト)
- ■自由記述 (ペーパーテスト)
- ■活動観察(発言や議論への参加など)
- ■実技(面接や口頭試問)
- ■パフォーマンス (レポート、作品制作、 プレゼンテーション)
- ■ポートフォリオ(上記を含むもの)

ポートフォリオ:学生の収集資料や研究成果物および自己評価の記録、また指導者の指導内容と評価などを系統的に蓄積したもの

STI (27) As to 1/4

評価:単純

評価:複雑

10

日本の大学教育で評価が多様化した背景: 学ぶ内容や学び方の転換

1990年代以降

・学生の学ぶ内容として知識重視(インプット)から、知識を使えること(能力・資質)(アウトプット)への転換

2000年代以降

- ・学生の能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である(文部科学省 2012)
- → 学ぶ内容や教え方が多様になったことに併せて 評価手法が多様化した

0

11

Q:授業ではどのような評価方法を使うの が良いのか?

A: 授業の目標によります。 (現実には評価にかけられる時間にもよります)

※望ましいのは、授業の目標、授業内容、評価が調和していることです

- ■この学習会:目標の1つは4要素を説明
- → 選択式・穴埋め問題
- ■演習:目標が「ルーブリックを自ら作る」だとすると
- → 作品(ルーブリック)の評価

10

2. 評価しづらいものを測るには 多様な評価手法があるけど、、

教育評価に関連して、こんな経験ありませんか?

学生

12

- 授業には全回出席したし、レポートには自信があった。しかし成績はBだった。納得いかない。
- 300人の初年次クラスにA4で3枚程度のレポート課題を出した。1 人で採点したが、最初と最後で基準が変わっていそうで心配だ。
- 同僚教員と一緒に行う授業で、自由記述課題を出した。教員間の採点基準が違っていないか気になる。
- プレゼンテーション発表を中心に評価した授業で、学生が成績の 理由を尋ねてきた。総合的な判断で採点したが、どう答えればい いのだろう?

なぜ評価しづらいのか?

- → 明確な要素分けとその基準がないから
- 1. 1つの課題が、複数の要素で構成されている
- 2. 要素ごとの評価基準が無い

例えば、レポートの評価

亜表:

課題の理解、内容の論理性(データや事実)、文献引用、誤字脱字

評価基準(文献引用の場合):

複数引用、単数引用、引用と意見の区別なし、引用なし、など

12

評価:単純

評価:複雑 14 14

評価しづらいものを測るための手法: ルーブリック

ルーブリックとは:

ある課題を複数の構成要素に分け、それぞれの 評価基準を満たすレベルを詳細に説明したもの

→ パフォーマンス課題の評価軸を可視化

栗田 (2020)

13

15

ルーブリックが扱う範囲 →幅広い評価に活用可能

例えば

- ■選択式問題への回答
- ■自由記述 (ペーパーテスト)
- ■活動観察(発言や議論への参加など)
- ■実技(面接や口頭試問)
- ■パフォーマンス (レポート、作品制作、 プレゼン)
- ■ポートフォリオ評価

16

18

3. ルーブリックとは

の日報の場か、代の日本に関すること、作のは下した。 「日本の日本に対するのの まった無って、の自分の目標的、その間をしたでの目的の扱うと称をさかない。人を使うる事件である。 「日本の日本に対すること、表で、他の他の中では、、 がらを持ちてものにいたのとうで、 「日本の日本に対すること、 「日本の日本に対すること、 「日本の日本に対すること、 「日本の日本に対すること、 「日本の日本に対すること、 「日本の日本に対すること、 「日本の日本に対すること、 「日本の日本に対すること、 「日本の日本に対すること、 「日本の日本に対する」、 「日本の日本に対する」 「日本の日本の日本に対する」 「日本の日本に対する」 「日本

課題A レポート「自己分析:自分の強みと弱み」ルーブリック(12 ポイント満点)

出典:日本高等教育開発協会 ルーブリックバンク

15

17

3.1 ルーブリックの構成: 4つの要素

- 課題
- 評価観点
- ■評価尺度
- 評価基準

以降P27まで、栗田 (2020) を参考に作成

16

ルーブリックの構成:

ルーブリックの要素 ~課題:お題?

	素晴らしい!(2ポイント)。	もう少し!(1ポイント)。	残念(ロボイント)。
①現状分析。	自らの強みと弱みについて、授業で紹介 したツールもしくはそれに類するものを 使った分析がなされている。		求められている内容が理解できていない。。
2証拠のある記述。	強みと弱みを裏付ける複数のエピソード は、過去の出来事、他者からのコメント、 データに基づいており説得力がある。	強みと弱みを裏付けるエピソードは、主 観的なものが多く、客観性にやや欠ける。	
③目標の明示。	今後必要となる自己啓発について、具体 的で、測定可能な目標が設定されている。		今後必要となる自己啓発について、目標 が設定されていない。
④手法の選択。	今後必要となる自己啓発について、具体 的で、適切な手法が記載されている。	今後必要となる自己啓発について、手法 が記載されているが、具体的でないか、 適切でない。	今後必要となる自己啓発について、手法 が記載されていない。/
⑤文章構成-	文章は論理的な順序で記述され、読者は 内容を容易に理解することができる。	文章は論理的な順序で記述されていない こところがあり、内容を理解するのは不 可能ではないにせよ、読みにくい。	論理的な順序で組み立てられた文章では ないので、読者はその内容を理解できな い。
⑥日本語。	漢字や文法上(改行の仕方など)の誤り	漢字や文法上(改行の仕方など)の誤り は5個以内である。。	漢字や文法上(改行の仕方など)の誤りは5個以上ある。。

20

ルーブリックの要素 ~課題:お題?

- 教員が学生に期待する「行動」が含まれたもの
- •目的・目標を明確にすることが大切
- 学生が教員の意図を知る

書かれていないこともあるので注意!

19

21

ルーブリックの要素 ~評価観点

課題A レポート「自己分析:自分の強みと弱み」ループリック(12 ポイント満点)

自己得別にわいて、自己分析は重要なステップである。授業で買ったツール(も くりはそれに類するもの)ま1つ支援ラップ、①自己分析ら行い、その際、それらを表すったツール(も 自己が数からない)またの数からない。その際、それらを実有けいる契約がユエピットを必ずおえること。またの数から伸び、飲みを持ちてきたいことでしていまった。 自己が政が与めないでは、ないでは、日本のでは、日本

三亚/亚安日 上			
評価観点	素晴らしい! (2ポイント)。	もう少し!(1ポイント)。	残念(0ポイント)。
,	***		And the first of the state of t
	自らの強みと弱みについて、授業で紹介	自らの強みと弱みについて、個人の主観	
①現状分析。	▋したツ―ルもしくはそれに類するものを	による分析がなされている。。	₩
1	使った分析がなされている。・		
	強みと弱みを裏付ける複数のエピソード	強みと弱みを裏付けるエピソードは、主	具体的なエピソードが記述されていな
②証拠のある記述。	は、過去の出来事、他者からのコメント、	観的なものが多く、客観性にやや欠ける	U _n o
	データに基づいており脱得力がある。		-
OD FOR	今後必要となる自己啓発について、具体	今後必要となる自己啓発について、曖昧	今後必要となる自己啓発について、目標
③目標の明示。	的で、測定可能な目標が設定されている。	な目標が設定されている。・	が設定されていない。
	今後必要となる自己啓発について、具体	今後必要となる自己啓発について、手法	今後必要となる自己啓発について、手法
4手法の選択。	的で、適切な手法が記載されている。。	が記載されているが、具体的でないか、	が記載されていない。。
		適切でない。。	
	文章は論理的な順序で記述され、読者は	文章は論理的な順序で記述されていない	論理的な順序で組み立てられた文章では
5)文章構成。	内容を容易に理解することができる。。	こところがあり、内容を理解するのは不	ないので、読者はその内容を理解できな
		可能ではないにせよ、読みにくい。	DV ₀ =
⑥日本語。	漢字や文法上(改行の仕方など)の誤り	漢字や文法上(改行の仕方など)の誤り	漢字や文法上(改行の仕方など)の誤り
	がない。	は5個以内である。	は5個以上ある。
			20
			20

22

18

ルーブリックの要素 ~評価観点

- ・学生の学習の指針になる
- 課題の目的が過不足なく含まれることが大切
- 質は含めない
- (業課題の正しい理解、○課題の理解)
- 重みづけをした場合は、大事な点を伝える

21

23

ルーブリックの要素 ~評価尺度

課題 A レポート「自己分析:自分の強みと弱み」ルーブリック(12 ポイント満点)

自己容別において、自己分析は重算なステップである。接筆で図ったツール(もしくはそれに類するもの)を1つ支援って、の自己分析を行い、その結果として、 の目的の扱みと努みを含ませかなない、その間、それらを受けける保険的なエピシードを必ずあえること、またの拠みを保付し、努みを経験するためにはどのような 自己容別が今後必要となるかについても記述すること。(1,200 宇宙度、A4類は、メールもしくは林で提出すること、様で検出する参告はこのカーブリックを最終 につけてガチキスでとめること、練りがリメールでも月 日 日 20分割で

-		評価尺度	
	素晴らしい!(2ポイント)。	もう少し!(1ポイント)。	残念(0ポイント)。
①現状分析。	自らの強みと弱みについて、授業で紹介 したツールもしくはそれに類するものを 使った分析がなされている。。	自らの強みと弱みについて、個人の主観 による分析がなされている。 -	求められている内容が理解できてい い。-
②証拠のある記述。	強みと弱みを裏付ける複数のエピソード は、過去の出来事、他者からのコメント、 データに基づいており説得力がある。	強みと弱みを裏付けるエピソードは、主 観的なものが多く、客観性にやや欠ける。	
③目標の明示。	今後必要となる自己啓発について、具体 的で、測定可能な目標が設定されている。	今後必要となる自己啓発について、曖昧 な目標が設定されている。	今後必要となる自己啓発について、目 が設定されていない。
④手法の選択。	今後必要となる自己啓発について、具体 的で、適切な手法が記載されている。	今後必要となる自己啓発について、手法 が記載されているが、具体的でないか、 適切でない。	今後必要となる自己啓発について、手 が記載されていない。 -
⑤文章構成。	文章は論理的な順序で記述され、読者は 内容を容易に理解することができる。	文章は論理的な順序で記述されていない こところがあり、内容を理解するのは不 可能ではないにせよ、読みにくい。	論理的な順序で組み立てられた文章で ないので、読者はその内容を理解でき い。 -
⑥日本語。	漢字や文法上(改行の仕方など)の誤り がない。・	漢字や文法上(改行の仕方など)の誤り は5個以内である。	漢字や文法上(改行の仕方など)の額は5個以上ある。
			22

24

ルーブリックの要素 ~評価尺度

- ■1~5程度の段階(多くなるほど大変なので3段階が1つの目安)
- ※ 学習段階の発達に併せて段階が少なくなることも考えられる
- ■使われる言葉は、明確かつ配慮が必要 学生が次も頑張ろうと思える言葉が良い
- □優れている、模範的、期待以上(期待通り)、Excellent
- □よい、まずまず、標準、 good
- □再学習が必要、努力が必要、 developing

ルーブリックの要素 ~評価基準

課題A レポート「自己分析:自分の強みと弱み」ルーブリック(12 ポイント満点)

自己開発に対いて、自己分析に重要なスタップである。接着です。カワール(も)(いまれに関するもの)を1つ点だって、自己自分を行い、その信息として、 同分的が成めた代表をよりがなり、そので、中心もを描れてきるが取りませた。と、までの参加では、あみを特定は、あから特定でありたはなどのよう 自己者後から他と見せるもかについても記述すること。(2000 平式版、A4 MRL、メールもしくは基で開せてること、様で提出する場合にこのループリックを最終 につけてボチキスであること。はかり、アール・ロード 日下日 2019 がらり、地・ロッドロードの関すなが。

	素晴らしい! (2ポイント)。	もう少し!(1ポイント)。	残念(ロボイント)。
①現状分析。	自らの強みと弱みについて、授業で紹介 したツールもしくはそれに類するものを 使った分析がなされている。。	自らの強みと弱みについて、個人の主観 による分析がなされている。	求められている内容が理解できていない。。
②証拠のある記述。	油みと弱みを裏付ける複数のエピソードは、過去の出来事、他者からのコメント、 データに基づいており説得力がある。。	強みと弱みを裏付けるエピソードは、主 観的なものが多く、客観性にやや欠ける。	
③目標の明示。	今後必要となる自己啓発について、具体 的で、測定可能な目標が設定されている。		今後必要となる自己啓発について、目標 が設定されていない。
④手法の選択。		いて、手法 が記載されているが、具体的でないか、 適切でない。	今後必要となる自己啓発について、手法 が記載されていない。 -
⑤文章構成。	文章は論理的な順序で記述され、読者は 内容を容易に理解することができる。	文章は論理的な順序で記述されていない こところがあり、内容を理解するのは不 可能ではないにせよ、読みにくい。	論理的な順序で組み立てられた文章では ないので、読者はその内容を理解できな い。・
⑥日本語。	漢字や文法上(改行の仕方など)の誤り がない。	漢字や文法上(改行の仕方など)の誤り は5個以内である。	漢字や文法上(改行の仕方など)の誤り は5個以上ある。

ルーブリックの要素 ~評価基準

- ・求められるスキルやパフォーマンスの到達度を 1つずつ具体的に記述
- 隣との違いを明確に書き分けることが大切 >数値による表現 >形容詞による表現
- 学生の学習の指針とフィードバックに利用

25

27

3.2 ルーブリックの作成 1:自分で作る どこから手を付けるのか?

- 1. 課題を設定する
- 2. 評価尺度の段階数とラベルを定める
- ※ 過去の学生を想定すると作りやすい(よくできた学生やそうでない学生の出来など)
- 3. 評価観点と評価基準を定める
- ※ 最高水準の基準からがつくりやすい

26

28

ルーブリックの作成2: 既存ルーブリックを参考にしてカスタマイズポイントは「時間」と「適合度」

- 大学教員のためのループリック評価入門 (高等教育シリーズ) 2014 Dannelle D. Stevens, Antonia J. Levi 佐藤 浩章等 (翻訳) 『Introduction to Rubrics: An Assessment Tool To Save Grading Time, Convey Effective Feedback and Promote Student Learning』(原著) ※日本語に訳されたモデルとな るような例が多い
- ■中島英博『学習評価』玉川大学出版部 (第11章、第4部)
- ループリックパンク | 日本高等教育開発協会 (Jaedweb.org) https://www.jaedweb.org/blank-3 ※実際に使われているループリックを参 照可
- 東北福祉大学 ルーブリック評価の例と作り方(2014.8.7作成) https://www.tfu.ac.jp/fd/material/pdf/rubric.pdf
- 全米大学協会が作成したルーブリック

<u>VALUE Rubrics | Association of American Colleges & Universities (aacu.org)</u>
※ (英語) 課題解決やチームワークなど汎用スキルのループリックが利用可

27

29

3.3 ルーブリックの使い方: 使うのはだれ?

教員以外に 誰が使うの?

普通は、

- 1. 教員がルーブリックを作成
- 教員がルーブリックを基に 採点
- 3. 採点結果を学生に返却

※教員=個人・複数人の場合も (TAが加わる場合も)

28

30

ルーブリックの使い方: 学生の参加

- ■学生もルーブリックの使用に参加
- 学生に課題と一緒にルーブリックを配布
- 学生はルーブリックを用いて課題に取り組む
- ・学生は(自己採点をして)ルーブリックと一緒に 課題を提出
- ■学生がルーブリックの作成や他者の評価に参加
- ・学生がルーブリックの作成に参加(基本は教員が 作成し学生が調整/作成から参加する)
- 学生同士の相互評価(複数人による評価)





33

3.4 ルーブリックの利点・不利点

【利点】

評価を効果的・効率的に行える

基本的な利点

- ・評価がぶれない(公平な評価ができる)
- 採点時間が短縮される(より効率的になる)
- ・課題の意図・期待を学習者に明確に伝えることができる

応用的な利点

- タイミングの良い分かりやすいフィードバックができる
- 授業改善にも使える

32

34

32

ルーブリックの利点・不利点

【不利点】

- 要素分解の集合が全体になるのか?
- ループリックを事前に見ることで、学生がいい点数を取る ことばかりを考える (山口2019)
- ・ 妥当性や信頼性を備えたループリックの開発には相応の時間や労力を要する (松下他**2013**)
- →最初の作成は大変だが、一度作ると使い回しや次回作成が楽になる
- ・アカウンタビリティを示すためには付加価値分析(入学と 卒業時の学力比較)や他大学との比較が必要であり、現状 ではルーブリックによる評価の比較可能が課題(松下 2014)

33

35

4.日本の大学でのルーブリックの活用: 広まる途上?

大学での使用:日本では10年前くらいから?

- ■ルーブリックについては、国内大学での研究はほとんどないが英語では状況が一変する(河合2009)
- ■成績評価基準をルーブリックにより明示(文部科学省2020)
- ▶全ての科目 2.3%(2014),5.1%(2018)
- ➤一部の科目 8.4%(2014), 26.2%(2018) ※シラバスは98.4%(2018)
- ■2016年度の山口大学のアンケートでは、15.1%の教員が成績 評価に使用していると回答(449人中68人)(共通教育科目 の他、医学部や工学部など)(山口大学2017)

34

36

CiNii(日本の論文DB)に収録された 論文に見るルーブリックへの関心

星・越川(2020)によると

①2016年以降に増加傾向

②医療・福祉系の学部での報告が多い

③実習や演習等の授業でのパフォーマンスを評価する報告が多い

→ 関心は高まっている?

ちなみに、ルーブリックを授業で活用した後に得られた課題3点

- ルーブリック自体の改善
- ルーブリックの活用
- 対象とする授業や学生の拡大

_

38

ルーブリックが広まる背景: パフォーマンス評価やフィードバックとともに広まる?

■米国では大規模クラスでも学生から提出された課題へフィードバックすることが一般的なため、ループリックのありがたさが実感される ※日本ではこれから広まる?

ルーブリックの必要性(Stevens and Levi 2013)

- ✓ほぼ全員の学生の答案用紙に同じコメントを書くので 腱鞘炎になりかけている
- ✓ 只今午前3時。答案用紙の山は天井に届きそう。採点締め切りを4週間も遅れたが今夜も確実に終わらない。✓ かきり苦労したコメントの字が読めないと学生に不満を含める

36

優れたフィードバックのイメージ ~すぐ、よく分かる

37

39

2020年からの大学教育の転換期以降のルーブリックの広まり

大学教育は2020年度以降、対面からオンライン

Q: この変化に併せてルーブリックは広まるのか?

A: 教員が取り入れたいと考えるか、に依る → 評価しづらい課題や学生へのフィードバックが増えれば(教育が変われば)広まる可能性 もある

38

40

大学教育DX(デジタルトランスファー)でルーブリックは広まる?

- ■DXによる大学教育の変化
- ▶オンデマンド化
- ▶反転学習化
- ▶学習歴のデジタル管理
- ▶アバターの使用
- ≽VRの使用
- ▶オンラインをテコにした大学連携
- ▶その他諸々の提案、取り組み...

39

41

→パフォーマンス評価やフィード バックの増加で広まる可能性あり

ルーブリックの出番なし (非同期型)

- ■対面授業がオンデマンド化されても評価は従来のまま
- ■学習の個別化が進み、選択問題への回答に基づいて学 習内容が選択される場合など

ルーブリックの出番が増えるかも(同期型)

■反転授業(オンデマンド教材視聴による事前学習と双方向対話などの組み合わせ)の増加によってパフォーマンス評価は増える

※デジタル化されたルーブリックをベースに学生の相互評価を用いれば、良いフィードバックができる(教員の時間も節約される?) ※大規模クラスでもZoomプレイクアウトルームやGoogleフォームズ等の活用で早いフィードバックを返せる仕組みを作ることができる。

40

まとめ

42

- 1. 教育評価が求められ、かつ多様化する時代に
- 2. 評価しづらい教育成果にルーブリックは有効
- ルーブリックとは:パフォーマンス課題の評価軸を可視化

▶構成:4パートで成り立つ

- ▶作り方:既存も参考に
- ▶使い方:学生の参加も
- ▶利点・不利点:評価を効果的・効率的にするが、 不利点も指摘されている
- 4. 今後の日本の大学でのルーブリックの活用: オンライン化の内容次第

44

参考資料

- Bloom, B. S. (1968), Learning for Mastery, Instruction and Curriculum, Regional Education Laboratory for the Carolinas and Virginia, Topical Papers and Reprints, Number 1.
 星格、越川茂樹 (2020), 大学教育においてループリックを自己評価に活用した影響と課題、教師予研究, 23 (1), p. 21-31
- ・河合久(2009) 「李観的な評価をめざすループリックの研究開発」平成 13・14 年度科学研究費補助金 【基礎研究 C)研究成果報告書
- 栗田 佳代子 (2020) UTokyo Online Education 東大FFP 2020 03kurita20200508 final.pdf (u-tokyo.ac.jp)
- ・ 松下佳代、小野和宏、高橋雄介 (2013) レポート評価におけるルーブリックの開発とその 信頼性の検討、大学教育学会誌、35(1):107-115
- | 極新性型(xc3).人子が終日子第6、33(1).10/73 ・ 松下佳代 (2014) 「学習成果としての能力とその評価ーループリックを用いた評価の可能性と課題」『名古屋高等教育研究』 第14号 235-255 ・ 文部科学省 (2020) 平成30年度の大学における教育内容等の改革状況について(標要) https://www.mext.go.jp/content/20201005-mxt_daigaku03-000010276_1.pdf
- Stevens and Levi (2013) Introduction To Rubrics: An Assessment Tool To Save Grading Time, Convey Effective Feedback and Promote Student Learning
- 山口豪(2019) デジタルコンテンツのルーブリック評価に関する考察 --汎用的デジタルコンテンツルーブリックの提案--『京都大学高等教育研究』第25号 47-57
- 山口大学(2017)山口大学 大学教育再生加速プログラム(YU-AP) アニュアルレポート 2017 http://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/*otml/doc/annualreport2017s.pdf

42

ご清聴ありがとうございました

FD学習会「大学で教えるためのループリック 【基礎編】」の質問、コメント、忌憚のないご意 見など、お待ちします。

43

45

5. Q&A

第15回 名城大学 F D学習会

大学の授業運営における 著作権への考え方について

- ■日時 2021年 9月 2日 (木) 10:00~11:30
- ■講 師 木村 友久 教授 (帝京大学 共通教育センター長)
- ■会場 Zoomによるオンライン開催
- ■対 象 学内教職員、非常勤講師、大学院生

企画趣旨

新型コロナウィルス感染拡大に伴い、全国の大学では遠隔授業が多く行われました。このような背景のもと、2020年4月28日には改正著作権法第35条が施行され、2021年4月からは授業目的公衆送信補償金制度が本格的にスタートし、この間は多くの教育関係者から注目を集めました。しかし、教育と著作物は元々密接な関わりがあるにも関わらず、内容が複雑であるため把握してきれていない方も多いと言われています。本FD学習会では、様々な事例を通し、対面・オンラインのいずれの授業にも役立つ内容をご講演いただきます。是非ご参加をお願いいたします。

こんな方にオススメ

- ○著作物の教育利用に不安がある方
- ○対面・遠隔授業に役立つ著作権の基本を学びたい方
- ○改正著作権法第35条運用指針を確認したい方

申し込み方法

下記URL等からお申し込みください。

https://00m.in/Plevg

お申し込み後、参加方法の詳細が、自動メールにより送付されます。



≪お問い合わせ≫

名城大学 大学教育開発センター

TEL: 052-838-2032 (内線: 2653)

第15回 FD 学習会

「大学の授業運営における著作権への考え方について」 アンケート結果報告について

1. 実施概要

· 日 時:令和3年9月2日(木)10:00~11:30

・開催方法: Zoom によるオンライン開催

・テーマ:大学の授業運営における著作権への考え方について

・講師: 帝京大学 共通教育センター センター長 木村 友久 教授

・参加者数:124人(専任教員87人、非常勤講師21人、事務職員16人、大学院生0人)

2. アンケート方法等

・アンケート方法:Google フォーム

・質問項目:以下のとおり

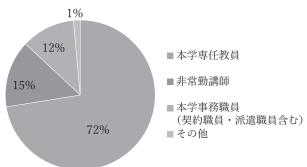
①所属をお知らせください。

②本日の内容は、理解できましたか?

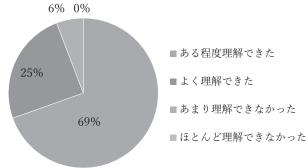
- ③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか?
- ④本学習会の満足度について教えてください。
- ⑤講演の感想をお聞かせください。
- ⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。
- ⑦テーマ、ご希望の講師(学内外問わず)について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせく ださい。
- ·回答者人数(質問①~④):69人
- ・質問⑤~⑦については主な意見のみを示しています。(※一部抜粋・改稿を含む)

3. アンケート結果

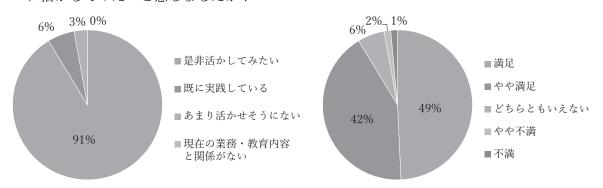
①所属をお知らせください。



②本日の内容は、理解できましたか?



③本日学んだことを、学部や個人の教育活動 ④本学習会の満足度について教えてください。 に活かしてみたいと感じましたか?



⑤講演の感想をお聞かせください。

- ・興味深いテーマをわかりやすく説明して下さったが、テーマが豊富すぎてスピードは速く、 理解が追いつけないところがあった。
- ・本当にとてもわかりやすかった。もう一度見直したい。
- ・自分にとってはやや難解で、どこまで理解できたか自信はないが、自分が行っているあることが著作権の侵害にあたることがわかり、改善していきたいと思った。
- ・実例の紹介だけでなく、実例と条文解釈および法概念との関連性が説明されていて、勉強に なりました。
- ・現状の教育環境において重要な内容だったと思います。ただ、情報量が多く十分理解できて いない部分もあるので、もう少し勉強する必要があると思いました。
- ・少しレベルが高く感じました。初心者向けに、遠隔授業で実際に何が使えて何がダメかの実 例に絞った基礎的な説明もいただければ、有難く思いました。
- ・分かりやすい説明でしたが、内容が膨大で十分消化しきれていません。また勉強して行きます。
- ・授業と授業以外、35条とそれ以外の考え方があることがわかり有意義であった。
- ・微妙な問題が多くあり、よりいっそう気を付けないといけないと思った。
- ・具体例が参考になりました。同一性保持権については、具体的にどのような場合に侵害になるのかについて、もう少し詳しい話をうかがいたいと感じました。
- ・最後のご挨拶でも指摘されていたように、財産権だけでなくて人格権にも配慮すべき、など は大変重要なことだと改めて思いました。
- ・1回では学びきれない充実した内容でした。複数回に分けてでも学習会を受けたいです。

⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。

- ・著作権については、学生にも指導をするので、しっかりした理解が必要と感じたため。
- ・公衆送信と著作権との関係を理解したかったから。
- ・本テーマについて不安を持って仕事をしていたため。
- ・オンライン授業が持続しそうなため、どのようにすれば良いかと思いまして参加しました。

- ・講義資料の作成で外部資料を引用するときの注意点を知るため。
- ·You tube の取り扱いについて知りたかったから。
- ・知らないうちに著作権を侵害しないようにと思って。
- ・授業運営に当たって著作権や公衆送信権の考え方や具体的事例について知りたかったから。
- ・WebClass の講義資料において、どの程度まで公開資料を引用できるのかわからなかったため。

<u>⑦テーマ、ご希望の講師(学内外問わず)について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせくだ</u>さい。

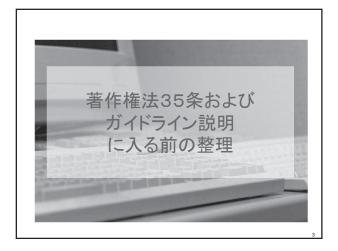
- ・コロナ禍での効果的なアクティブラーニング手法の研究。
- ・コロナ禍にて教育環境の激変に対してセンターのお仕事が大変なご苦労かと存じます。心より感謝しております。今後ともご指導頂ければと存じます。ありがとうございました。
- ・同じ先生または同程度に専門家である先生による、同じテーマでの講習。
- ・今回のような著作権に関することは、今後の授業を行う上で不可欠なものですので、今後も、 特に遠隔授業に関する法令等についてレクチャーしていただけますとありがたく存じます。
- ・本日も少しお話しがありましたが、書籍、論文、雑誌などへの著作物の引用についての注意 点などを講演いただけると幸いです。
- ・講義に出席している学生の多様性にどのように配慮するか、というテーマがあればと思います。たとえば外国人その他「マイノリティ」の属性をもつ学生にハラスメントにならないように、など。また色弱の人にもわかりやすい色使いについても、最近自分では気を付けて調べたうえで使うようになりましたが、自分が色弱でない限り、気が付きにくいのではないかと思います。そういうことも含めて一つのテーマとして学習できる機会があるとよいのではないでしょうか。

第15回 名城大学FD学習会 2021年9月2日(土) 10時00分~11時30分 大学の授業運営における 著作権への考え方について 2

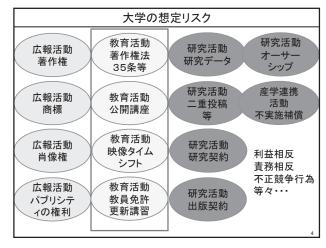
目 次

- 1. 説明に入る前の整理
- 2. 著作権法の確認
- 3. 著作権法35条以外の権利制限・・・条文で検討
- 4. 改正著作権法35条の説明
- 5. 令和3年度版ガイドライン説明 具体的な対応事例 異時公衆送信教材の実例と考え方
- 6. その他補足説明 初等中等教育機関との相違点・学生の行動変容
- 7. まとめ・今後の検討事項

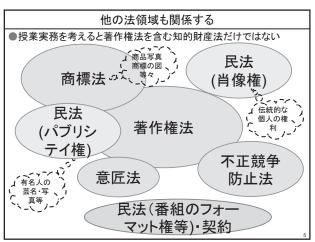
3



4



5





2021. 5「法学 I (共通基礎科目)」の授業スライドから

●映画「ローマの休日」の一場面を使いさんまの映像を重ねる
・ 創味食品「ハコネーゼのCMを企画する際に、
クリアーすべき権利関係を検討して下さい。
CMは下記YouTubeサイトで閲覧できます。
https://www.youtube.com/watch?v=Worl-G/zkB-o&list=PL784Mc/uckWJZSXdMRCLqMoB1qnMqs&index=1
ヒント:「ローマの休日」封切りは西暦1953年

映画の著作権が公開後50年間から70年間に延長されたの

ヒント:「ローマの休日」封切りは西暦1953年 映画の著作権が公開後50年間から70年間に延長されたの は、2004年1月1日施行の改正著作権法。

【検討事項】

1. クリアーすべき知的財産権のリストアップ

2. 具体的な権利関係の調査

8

2021. 4「法学 I (共通基礎科目)」の授業スライドから ●ロバート秋山の動画

https://www.youtube.com/watch?v=YLFxrqEezuk

- 1. ワークシート①に感想を記入してください。
- 2. ロバート秋山が収益を上げるために、何をすればよいでしょうか。
- 3. 利益を独占するためには、どのような方法があるでしょうか





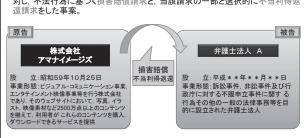
9

Google等の画像検索の利用

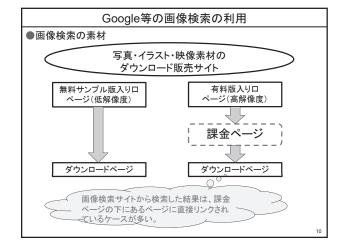
●画像検索の素材

①約半年間(H25/7/5~H26/1/15)、写真6点を被告が運営するウェブサイトで掲載

②原告は、本件写真の著作権者、独占的利用権者又は著作者であると主張。被告に対し、不法行為に基づく損害賠償請求と、当該請求の一部と選択的に不当利得返 温速成れ た事実



10



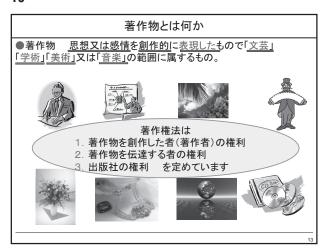
11

Google等の画像検索の利用

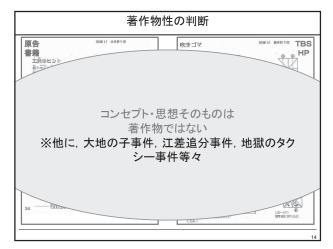
- ●フリー素材だと思って使ったのに・・
- 「知らなかった」では済まない
- ・「指摘されてすぐ消した」でもダメ

ウェブサイト上の素性がわから ない素材は使わない方が良い 必ず許諾条件を確認!





14



15

タコの滑り台事件のスライド教材作成例と考え方

●タコの滑り台の著作物性が争われた事件

・2021年4月28日に、第一審判決が東京地裁で出された。

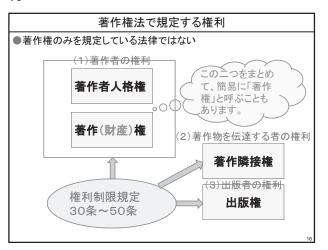


是立区北東洋公園に設置されているタエの滑り会 出所:<u>https://parks.prfj.or.jp/kitashikahama/facilities</u>

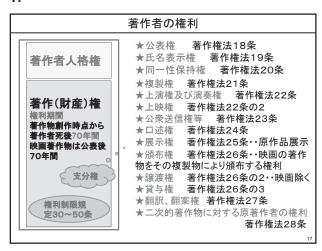
長年に渡り、公園のタコ型遊具(滑り台)を製作してきた会社が原告となり、類似遊具を制作した会社を著作権侵害で訴えた事件。第一審判決文はまだ公開されていないため、詳細な判示内容は不明。報道では、「遊具としての性質があるにすぎないとして、『美術品』とは認めず、著作物性が否定された」とされた模様。

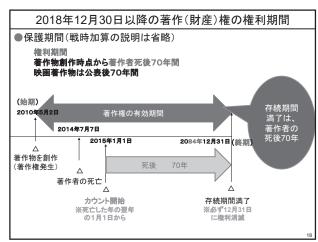
※タコの滑り台は芸術品?類似遊具を訴えた裁判で判決 朝日新聞デジタル2021年4月28日記事 https://www.asahi.com/articles/ASP4X6V2BP4XUTiL06J.html

著作物→→思想又は感情を創作的に表現したもので「文芸」「学術」 「美術」又は「音楽」の範囲に属するもの。 16



17





著作物を伝達する者の権利

著作隣接権

実演、音の固定

を行ったときに始まり、 翌年から70年間 ただし、放送事業者と 有線放送事業者の権利については、 放送あるいは有線放送

を行ったときから50年

★実演家の権利

著作権法90条の2~95条の3 氏名表示、同一性保持、録音録画、放 送、送信可能化、商業用レコード二次 利用、貸与権等 音本最初

に固定した ★レコード製作者の権利●○ 著作権法96条~97条の3 複製、送信可能化、商業用レコード二次 利用、譲渡、貸与等

★放送事業者・有線放送事業者の権利 著作権法98条~100条の5 複製、放送、有線放送、伝達(放送を受 信し、影像を拡大する特別の装置を用 いてその放送を公に伝達する権利)

出版権

「複製権者」が、そ の著作物を文書又 は図画として出版 すること等を引き受 ける者に対し 与える権利。

出版者、

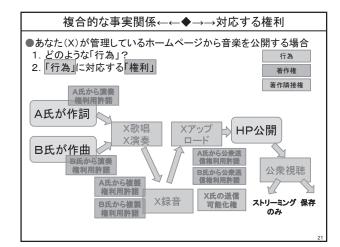
出版者の権利

★出版権の内容等

複製権等保有者は、その著作物につい て、文書若しくは図画として出版すること (電子計算機を用いてその映像面に文書 又は図画として表示されるようにする方式 により記録媒体に記録し、当該記録媒体に 記録された当該著作物の複製物により頒 布することを含む。)又は当該方式により記 録媒体に記録された当該著作物の複製物 を用いて公衆送信を行うことを引き受ける 者に対し、出版権を設定することができる。 ★出版権者の義務 6か月以内に出版する義務

継続して出版する義務(著作権法81条)

21



22

著作者人格権は35条の権利制限の射程外

- ●パーマー大佐の「森のくまさん事件」
- ・パーマー大佐(太田プロ所属)が、「森のくまさん」の訳詞を パロディ化した歌詞で歌唱。https://www.youtube.com/watch?v=tbmhHiLDlps
- ・訳詞者の馬場氏が、訳詞の著作権と著作者人格権を根拠に提訴 →→最終的に和解に至る。

現訳詞

パーマー大佐 側の歌詞

現訳詞

事実関係? 権利関係?

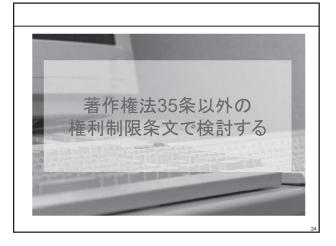
23

著作者人格権は35条の権利制限の射程外

●森のくまさんの権利者

- ・日本音楽著作権協会(Jasrac)の楽曲検索システムで調べると
- 1 馬場祥弘 訳詞 JASRAC
- 2 アメリカ民謡 作詞 P.D. ←パプリックドメイン
- 編曲 JASRAC 3 玉木宏樹
- 4 アメリカ民謡 作曲 P.D.
- ※パプリックドメイン

著作権の保護期間経過により誰でも利用できる。



著作権法38条の適用可能性←かなり厳しい

●著作権法38条(営利を目的としない上演等)

- 第38条 公表された著作物は、営利を目的とせず、かつ、聴衆又は観衆から料金(いずれの名義をもつてするかを問わず、著作物の提供又は提示につき受ける対価をいう。以下この条において同じ。)を受けない場合には、公に上演し、演奏し、上映し、又は口述することができる。ただし、当該上演、演奏、上映又は口述について実演家又は口述を行う者に対し報酬が支払われる場合は、この限りでない。
- 2 放送される著作物は、営利を目的とせず、かつ、聴衆又は観衆から 料金を受けない場合には、有線放送し、又は専ら当該放送に係る放 送対象地域において受信されることを目的として自動公衆送信(送信 可能化のうち、公衆の用に供されている電気通信回線に接続してい る自動公衆送信装置に情報を入力することによるものを含む。)を行 うことができる。

※3項から5項は省略

著作権法40条の適用可能性←これも厳しい

●著作権法40条(政治上の演説等の利用)

- 第40条 公開して行われた政治上の演説又は陳述及び裁判手続(行政庁の行う審判その他裁判に準ずる手続を含む。第四十二条第一項において同じ。)における公開の陳述は、同一の著作者のものを編集して利用する場合を除き、いずれの方法によるかを問わず、利用することができる。
- 2 国若しくは地方公共団体の機関、独立行政法人又は地方独立行政 法人において行われた公開の演説又は陳述は、前項の規定による ものを除き、報道の目的上正当と認められる場合には、新聞紙若しく は雑誌に掲載し、又は放送し、若しくは有線放送し、若しくは当該放 送を受信して同時に専ら当該放送に係る放送対象地域において受 信されることを目的として自動公衆送信(送信可能化のうち、公衆の 用に供されている電気通信回線に接続している自動公衆送信装置 に情報を入力することによるものを含む。)を行うことができる。
- 3 前項の規定により放送され、若しくは有線放送され、又は自動公衆 送信される演説又は陳述は、受信装置を用いて公に伝達することが できる。

27

著作権法41条の適用可能性←これは使えない

●著作権法41条(時事の事件の報道のための利用)

第41条 写真、映画、放送その他の方法によつて時事の事件を報道 する場合には、当該事件を構成し、又は当該事件の過程において見 られ、若しくは聞かれる著作物は、報道の目的上正当な範囲内にお いて、複製し、及び当該事件の報道に伴つて利用することができる。 28

著作権法41条の適用可能性・・・???

●著作権法41条(検討の過程における利用)

第30条の3 著作権者の許諾を得て、又は第67条第1項、第68条第 1項若しくは第69条の規定による裁定を受けて著作物を利用しよう とする者は、これらの利用についての検討の過程(当該許諾を得、又 は当該裁定を受ける過程を含む。)における利用に供することを目的 とする場合には、その必要と認められる限度において、いずれの方 法によるかを問わず、当該著作物を利用することができる。ただし、 当該著作物の種類及び用途並びに当該利用の態様に照らし著作権 者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない。

FD、SD、学内の会議等?

28

29

著作権法30条の2の適用可能性←これは使える

●写真の撮影・録音又は録画時に結果的に同時記録された著作物 形式的には著作権者等の許諾が必要となるが、一定条件の下に許 諾不要となった(平成25年1月1日から施行された法律改正)。

著作権法30条の2(付随対象著作物の利用) 結果としての写り込み

- 1 写真の撮影、録音又は録画の方法によって著作物を創作するに当たって、当該著作物に係る写真の撮影等の対象とする事物又は音から分離することが困難であるため付随して対象となる事物又は音に係る他の著作物(当該写真等著作物における軽微な構成部分となるものに限る。以下この条において「付随対象著作物」という。)は、当該創作に伴って複製又は翻葉することができる。ただし、当該付随対象著作物の種類及び用途並びに当該複製又は翻案の態様に照らし著作権者の利益を不当に書することとなる場合は、この限りでない。
- 2 前項の規定により複製又は翻案された付随対象著作物は、同項に 規定する写真等著作物の利用に伴って利用することができる。ただし 当該付随対象著作物の種類及び用途並びに当該利用の態様に照らし 著作権者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない。

30

著作権法30条の2の適用可能性←積極的に使うべき

●「引用」の考え方

第32条(引用)

- 1 公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合に おいて、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、 批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行なわれるもの でなければならない。
- 2 国若しくは地方公共団体の機関、独立行政法人又は地方独立 行政法人が一般に周知させることを目的として作成し、その著作の 名義の下に公表する広報資料、調査統計資料、報告書その他これ らに類する著作物は、説明の材料として新聞紙、雑誌その他の刊行 物に転載することができる。ただし、これを禁止する旨の表示がある 場合は、この限りでない。



●「引用」の判断

- 1. 引用が公正な慣行に合致する
- 2. 報道, 批評, 研究その他の引用の目的上正当な範囲内で 行なわれる

【従来からの判断基準】

明瞭区別性・・・引用側と被引用側が明瞭に区別されている

主従関係・・・・・引用側が主で、被引用側が従

出典明示・・・・・明示方法が公正慣行の範囲内であるか否かの 公正な慣行

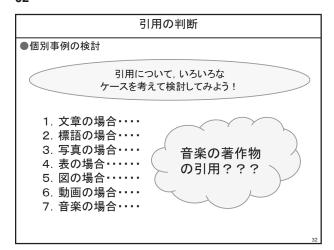
判断は著作物の種類で異なる

必要最小限··· 同 上

正当な範囲内を 判定する基準

但し, 文字の著作物ではその通りであるが, 音楽の著作物などでは 引用として扱われる局面は限定される。

32



33

引用の判断

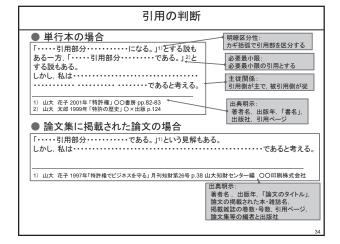
●レポートの場合

「大学の授業は、選択することができる。それは、学生が主体的に学問に取り組めるということである。」(1)、と言われるように、一般的に大学では高校とは異なり、学生が自らの選択により能動的に学習することが求められる。そして、能 動的学習を通じて、社会人として必要な基礎力、例えば、行動力、考え抜く力、コ ミュニケーション力などを身につけることにもつながる。

(1)山口太郎, 『入学前に知っておきたい大学での学び』第6版, 山口出版者, 2010年, p125.

- (1) 引用の箇所は、「 」 等で囲む(明瞭区別性)。 ※「」等内の文章は勝手に変えない
- (2) 質的量的共に、自説が主に、引用箇所が従になるようにする(主従関係)。
- (3) 参考とした書籍や文献等と該当ページを明記する(出典明示)。
- (4) 自説を補強等するために必要な箇所のみを引用する(必要最小限)。

34



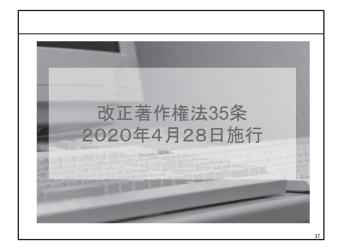
35

引用の判断 ● 新聞記事の場合 「・・・・・引用部分・・・・・・となった。」1)とある。 1) 山大知財新聞 2014年4月24日朝刊「全学生への知財教育必修化スタート」 出典明示: 新聞名、記事が掲載された日付、 朝夕刊の別、「記事のタイトル」 ● Webページ(インターネットのページ)の場合 「・・・・・引用部分・・・・・・・となった。」1)という見解もある。 1) 山口大学「全学生への知的財産教育必修化スタート」 http://www.yamaguchiu.ac.jp/library/user_data/upload/lmage/topics/2013/130422-1.pdf 2014年4月24日アクセス

36

引用の判断

- 写真あるいは図の場合・・・考え方
- ・基本的には、引用の4条件「明瞭区別性」「主従関係」「出典明示」 「必要最小限」を素直に読むと、引用概念を適用することは難しい。
- ・前述の東京美術倶楽部事件を,引用の観点から「一般化した解釈(絵画, 写真, 図その物の引用可)として解釈するか, 絵画鑑定書の ような特殊事例として認められたと解釈するのか意見が分かれて
- ・現時点では、写真・図の引用は、そこに比較配置しなければ説明が 不可能な場合を除き極力控えた方が良いと考えられる。あるいは、 権利者からの許諾を受けて掲載することが望ましい。
- ・学会により扱いは微妙に異なるが、一般的に自然科学系の論文で は他人の写真を引用で使用することは少ない(許諾を取る)。



グレー部分が黒と白に変化(2020年4月28日施行)

●改正条文 第35条(学校その他の教育機関における複製等)
1 学校その他の教育機関(営利を目的として設置されているものを除く。)において教育を担任する者及び授業を受ける者は、その授業の過程における利用に供することを目的とする場合には、その必要と認められる限度において、公表された著作物を複製し、若しくは公衆送信(自動公衆送信の場合にあつては、送信可能化を含む。以下この条において同じ。)を行い、又は公表された著作物であって公衆送信されるものを受信装置を用いて公に伝達することができる。ただし、当該著作物の種類及び用途並びに当該複製の部数及び当該複製、公衆送信又は伝達の態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない。

2 前項の規定により公衆送信を行う場合には、同項の教育機関を設置する 者は、相当な額の補償金を著作権者に支払わなければならない。

3 前項の規定は、公表された著作物について、第1項の教育機関における授業の過程において、当該授業を直接受ける者に対して当該著作物をその原作品若しくは複製物を提供し、若しくは提示して利用する場合又は当該著作物を第38条第1項の規定により上演し、演奏し、上映し、若しくはし述して利用する場合において、当該授業が行われる場所以外の場所において当該授業を同時に受ける者に対して公衆送信を行うときには、適用しない。

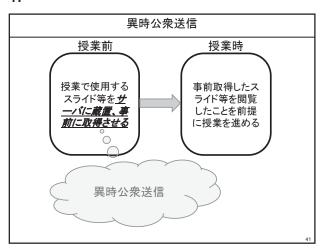
39

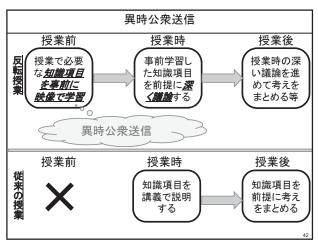
グレ一部分が黒と白に変化(2020年4月28日施行) ●従来存在していた主要なグレーゾーンが*おおむね*消滅した 条文を素直に解釈すると、施行日以降は補償金管理団体との契約なしの異時公衆送信は個別の権利処理が必要になる。 授業の過程で利用する公表された著作物の複製 従来通り無許諾かつ無償で複製可能 遠隔授業における同時公衆送信(対面授業の延長線上) 従来通り無許諾かつ無償で公衆送信可能 手続きが 一定の異時公衆送信 利用はできない 補償金徴収分配団体への補償金の支払いで利用可能

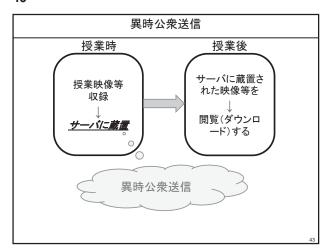
40

+ 1. 1	<u>+</u>	MISC LA	h//	le construe and	i-/ilu	/ = l= = = = l · · · · l	/	740404 0
まとぬ	- ~					ı/chosakuk		
授業()適程(-おける利用行	「 <i>為と</i> 授業日的	J公茨达信佣(i	真金制度(者·	作権法第35条		
		対面授業		スタジオ型授業	遠隔合同授業等 スタジオ型授業 オンデマンド授業 同時中継 同時中継 合同授業 遠隔授業		同時中継	
送信側※2	教員			いる	いる	เงอ	いる	いる
达信钥***	生徒				いない	いない	いる	เหล
受信側	教員				いない	いない (受信例に教師が いる場合もある)	いる	いない
	生徒			いる	いる	いる	いる	いる
著作物利用用		複製	公の伝達	公衆送信	公衆送信	公衆送信	公衆送信	公衆送信
教授と		同時	同時	同時 (or異時) (異時:予復習用 のメール送信	同時 (or異時) (異時:予復習用 のメール送信	異時	同時※3	同時※3
授業目的公衆送信	許諾の 要否	許諾不要 (35条1項)	許諾不要 (35条1項)	許諾不要 (35条1項)	許諾不要 (35条1項)	許諾不要 (35条1項)	許諾不要 (35条1項)	許諾不要 (35条1項)
補償金制 度上の取 扱い	補償金 の要否	無價 (35条1項)	無償 (35条1項)	補償金 (35条2項)	補償金 (35条2項)	補償金 (35条2項)	無償 (35条3項)	無償 (35条3項)

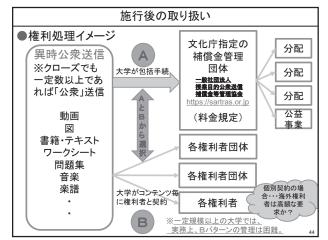
41



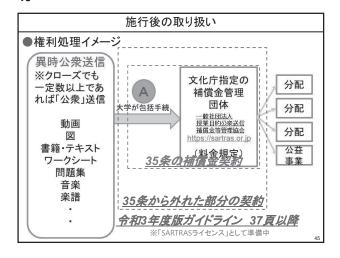




44



45



46

補償金を受ける権利の行使

●授業目的公衆送信補償金を受ける権利の行使 第104条の11

① 第35条第2項(第102条第1項において準用する場合を含む。第104条の13第2項及び第104条の14第2項において同じ。)の補償金(以下この節において「授業目的公衆送信補償金」という。)を受ける権利は、授業目的公衆送信補償金を受ける権利を有する者(次項及び次条第4号において「権利者」という。)のためにその権利を行使することを目的とする団体であって、全国を通じて一個に限りその同意を得て文化庁長官が指定するもの(以下この節において「指定管理団体」という。)があるときは、当該指定管理団体によってのみ行使することができる。

② 前項の規定による指定がされた場合には、指定管理団体は、権利者のために自己の名をもって授業目的公衆送信補償金を受ける権利に関する裁判上又は裁判外の行為を行う権限を有する。

但し書きに該当する場合は権利者が権利行使

47

授業目的公衆送信補償金規程

●補償金

第3条(授業目的公衆送信の回数に関わらず支払う補償金の額) →児童生徒学生等の人数/年

幼稚園60円 小学校120円 中学校180円 高等学校420円 高等専門学校

-1学年~3学年420円 4学年~5学年720円 大学720円 省庁等大学校720円

- 幼稚部30円 小学部60円 中学部90円 高等部210円 保育所60円 放課後児童クラブ60円

第5条3項

特別支援学校

通信制教育機関において授業目的公衆送信が行われる場合であって、第3条の規定を適用するときは、該当する補償金算定対象者の総数に乗じる1人当たりの補償金額(年額)を、第3条第1項に定める額の50%の額とする。

48

授業目的公衆送信補償金規程

●補償金

第3条2項

教育機関が行う公開講座又は免許状更新講習や、社会教育施設及び教育センターが行う授業において授業目的公衆送信を行う場合、本条第1項の規定に基づく補償金の支払いとは別に、授業目的公衆送信する著作物等の種類や授業目的公衆送信の回数にかかわらず、300円に、4月1日から9月30日まで(前期)、及び10月1日から翌年の3月31日まで(後期)に分けた期毎の授業数を乗じて得た額を支払うものとする。

(1) 授業数とは、前期、後期それぞれの期間中に授業目的公衆送信を行う講座又は講習の総定員数(期毎に行う講座又は講習単位に、1回あたりの定員の数に開催回数を乗じて延べ定員数を算出し、その結果を合計した数)を30で除した数(余りがある場合は1授業として加算する)をいう。 ・・・以下、省略。

授業目的公衆送信補償金規程

●補償金

(前条によらない場合の補償金の額)

第4条 前条にかかわらず、教育機関で授業目的公衆送信を行う都度、 当該教育機関の設置者が補償金を支払う場合は、授業目的公衆送 信を行った(イ)著作物、(ロ)実演による音声及び映像、(ハ)レコード に固定された音声、(二)放送による音声及び映像、及び(木)有線放 送による音声並びに映像ごとに10円とし、これらを合算した額に、当 該授業目的 衆送信を受信した履修者等の総数を乗じて得た額(個 別)とする。

本本条の適用を受けようとする設置者は、4月1日から9月30日まで (前期)、及び10月1日から翌年の3月31日まで(後期)の期毎に、当 該教育機関・・・以下、省略。

令和3年度版ガイドライン 名称は「改正著作権法第35条運用指針」

51

著作物の教育利用に関する関係者フォーラム

●フォーラム構成員

< 教育関係団体>

全国都道府県教育委員会連合会 全国市町村教育委員会連合会 日本私立小学校連合 会 全国連合小学校長会 日本私立中学高等学校連合会 全日本中学校長会 全国 本 王国建市小字校長云 日本私立中字局等字校連合会 全日本中学校長高等学校長協会 日本私立高等専門学校協会 一般社団法人国立大学協会 立大学団体連合会 公益財団法人私立大学通信教育協会 一般社団法人公一般社団法人公丁中 10 世祖 10 日本私 -般社団法人公立大学協会 全国公立

般社団法人日本写真著作権協会 一般社団法人日本書籍出版協会 日本放送協会 電協会 一般社団沿人日本自和田原原の 一般社団法人日本雑誌協会 公益社団法人日本芸能実演家 日本ケーブルテレビ連盟 一般社団法人日本音楽著作権協 協同組合日本脚本家連盟 版同和官日や脚中水連組 一般社団法人日本本の脚本 単純 は 一般社団法人日本本の 一般社団法人日本 一般社団法人日本大田本 一般社団法人日本民間放送連盟 一般社団法人日本民間放送連盟 一般社団法人日本民間放送連盟 一般社団法人日本 大部間協会 一般社団法人日本美術著作権連合 公益社団法人日本文藝家協会 一般社団法人教科書著作権協会 一般社団法人学術著作権協会 一般社団法人超教育

一般社団(AC) 1... 協会 [オブザーバー(関係省庁)] 文化庁著作権課 文部科学省総合教育政策局政策課 文部科学省初等中等教育局情報 教育・外国語教育課 文部科学省高等教育局高等教育企画課

https://sartras.or.jp/wp-content/uploads/unyoshishin 2020122

52

基本的考え方

●基本的考え方の方向性

改正35条の施行により異時公衆送信が可能となった

従来の「対面型」授業とほぼ同等のことが 異時公衆送信で実現できるようなった

しかしながら、異時公衆送信の特性に合わせて - 定の配慮が求められる箇所がある

35条1項の但し書きが厳密に適用されるであろう 『ただし、当該著作物の種類及び用途並びに当該複製の 部数及び当該複製、公衆送信又は伝達の態様に照らし 著作権者の利益を 不当に害することとなる場合は、この 限りでない。』対面、同時・異時公衆送信を問わない

53

令和3年版ガイドラインの説明

- ●従来議論があった箇所が明確になった
- ・公表された著作物であって公衆送信されるもの
- ・受信装置を用いて公に伝達することができる。
- 大教室であっても受講者全員と教員分
- ・公開講座、教員免許更新講習、履修証明プログラムがガイドライン中 に記述された←←但し、学生数ベースの単価とは別算定
- ・①送信された著作物の履修者等による複製
- ②授業用資料作成のための準備段階 や授業後の事後検討におけ る教員等による複製
- ③自らの記録として保存しておくための教員等または履修者等による 複製は、授業の過程での行為とされた。
- ④授業参観における保護者への印刷物配布

54

令和3年版ガイドラインの説明

●複製の定義が示された

手書き、キーボード入力、印刷、写真、複写、録音、録画その他の方法により、既存の著作物の一部又は全部を有形的に再製することをいいます(著作権法第2条1項15号。著作物だけでなく、実演、レコード、放送・有線放送の 利用についても同様です。

該当する例

- 黒板への文学作品の板書
- -ノートへの文学作品の書き込み
- ・画用紙への絵画の模写
- ・紙粘土による彫刻の模造
- -コピー機を用いて紙に印刷された著作物を別の紙へコピー
- ・コピー機を用いて紙に印刷された著作物をスキャンして変換したPDFファ イルの記録メディアへの保存
- キーボード等を用いて著作物を入力したファイルのパソコンやスマホへの 保存
- ・パソコン等に保存された著作物のファイルのUSBメモリへの保存
- ・著作物のファイルのサーバーへのデータによる蓄積(バックアップも含む)
- ・テレビ番組のハードディスクへの録画

令和3年版ガイドラインの説明

●授業の範囲が示された

【該当例】

- ・講義、実習、演習、ゼミ等(名称は問わない)
- ・初等中等教育の特別 活動 学級活動・ホームルーム活動、クラブ活 動、児童・生徒会活動、学校行事、その他)や部活動、課外補習授業
- 教育センター、教職員研修センターが行う教員に対する教育活動
- 教員の免許状更新講習
- 通信教育での面接授業、通信授業、メディア授業等
- ・学校その他の教育機関が主催する公開講座(自らの事業として行う もの。収支予算の状況などに照らし、事業の規模等が相当程度になる ものについては別途検討する)
- 履修証明プログラム
- ・社会教育施設が主催する講座、講演会等(自らの事業として行うも \mathcal{O}

令和3年版ガイドラインの説明

●授業の範囲が示された

【該当しない例】

- ・入学志願者に対する学校説明会、オープンキャンパスの模擬授業等
- 教職員会議
- 大学でのFD、SDとして実施される、教職員を対象としたセミナーや 情報提供
- 高等教育での課外活動(サークル活動等)
- ・自主的なボランティア活動(単位認定がされないもの)
- 保護者会
- 学校その他の教育機関の施設で行われる自治会主催の講演会、PT A主催の親子向け講座等

57

令和3年版ガイドラインの説明

●参加主体の説明が示された

【教育を担任する者】

- 授業を実際に行う人(以下、「教員等」という)を指します。
- 該当する例 ・教諭、教授、講師等(名称、教員免許状の有無、常 勤・非常勤などの 雇用形態は問わない
- ※教員等の指示を受けて、事務職員等の教育支援者及び補助者ら が、学校内の設備を用いるなど学校の管理が及ぶ形で 複製や公 衆送信を行う場合は、教員等の行為とする。

【授業を受ける者】

- ・教員等の学習支援を受けている人、または指導下にある人(以下、 「履修者等」という)を指します。
- →該当する例 ・名称や年齢を問わず、実際に学習する者(児童、生 徒、学生、科目等履修生、受講者等)
- ※履修者等の求めに応じて、事務職員等の教育支援者及び補助者 らが、学校内の設備を用いるなど学校の管理が及ぶ形で複製や公 衆送信を行う場合は、履修者等の行為とする。

58

令和3年版ガイドラインの説明

●高等教育部分の説明から抜粋→著作物の種類

○著作物の種類によって、そもそもこの規定を適用することが適切で はないものがあります。例えばコンピュータのプログラミングの授業を 行うために市販のアプリケーションソフトを複製して学生に提供したり 公衆送信したりすることは、プログラムの著作物という種類に照らし て著作権者の利益を不当に害する可能性が高いと考えられます。

もっとも、ソースコードを書面にプリントアウトしたりその書面を公衆送 信したりするような場合であれば、アプリケーションソフトの市場での 流通を阻害するとは言えないと考えられます。

59

令和3年版ガイドラインの説明

●高等教育部分の説明から抜粋→著作物の種類

○この規定により著作権者等の許諾を得ずに著作物を複製又は公衆 送信する場合、複製又は公衆送信できる分量については、「授業に おいて必要と認められる限度において」と定められています。市場で の流通を阻害するような利用が著作権者等の利益を不当に害するこ ととなりかねないことを考えると、著作物の種類によっては著作物の 全体が利用できるのか、部分の利用に限られるのかが異なることも あります。このことについてどの著作物の種類が全部の利用ができ るか、あるいはそうでないかを網羅的・限定的に示すことは困難です が、例を挙げながらその考え方を示します。

まず、短文の言語の著作物などの場合、表現形式によっては一つ の著作物の全体の利用をせざるを得ないことや、また、主に鑑賞を 目的とした絵画や写真の著作物の場合は部分的に複製又は公衆送 信することによって同一性保持権の侵害になるとの考え方もあります そのような種類の著作物であれば、一つの著作物の全部を複製又は 公衆送信をしても著作権者等の利益を不当に害するとは言えない可 能性があります。

60

令和3年版ガイドラインの説明

高等教育部分の説明から抜粋→著作物の種類

また、論文の著作物の場合、小部分の利用にとどまる場合ばかりで はなく、全文を通読する必要がある授業もあり、その論文が市場に流 通していないような場合には、一つの論文の全部を複製又は公衆送 信しても、著作権者等の利益を不当に害することとなる可能性は低 いと考えられます

なお、この項でいう「複製又は公衆送信」は、授業に供する著作物 を単体で利用する場合について述べたものであり、授業風景や解説 の中継映像や動画の中で影像の一部として、又は背景的にこれらの 著作物が利用されている場合(専ら著作物等自体を提供するような 行為にならない場合)は、著作物の種類に関わらず、著作物の全部 が複製又は公衆送信されていても著作権者等の利益を不当に害す る可能性は低いと考えられます。

令和3年版ガイドラインの説明

●高等教育部分の説明から抜粋→著作物の種類

○厳密には「著作物の種類」という観点での区別ではありませんが、著 作物の種類とも関連して著作物が提供されている状況や著作物を入 手する環境によって、授業の目的で著作物の全部を複製することが、 著作権者等の利益を不当に害することになったり、そうでなかったり することもあります。以下はそのような観点から考え方を説明します。 つのコンテンツの中に複数の著作物が含まれている場合、コンテ ンツと著作物の相互関係によって著作権者等の利益を不当に害する かどうかの分量が異なることもあり得ます。例えば、放送から録画し た映画や番組であれば、通常、全部を複製することは著作権者等の 利益を不当に害する可能性が高いので、そのうちの必要な一部分に とどめて複製することが考えられます。その一部分に音楽や言語の 著作物等が素材として含まれていた場合、その一部分の利用が授業 のために必要な範囲(専ら当該素材としての著作物等自体を提供す るような行為にならない場合)であれば、その素材としての著作物等 については全部の複製をしていても著作権者等の利益を不当に害す ることとなる可能性は低いと考えられます。

令和3年版ガイドラインの説明

●高等教育部分の説明から抜粋→著作物の種類

以上のことを踏まえると、論文等を全部複製することについては、 当面は

- ①当該論文が市場に流通していないこと、
- ②論文集などの編集物に収録されている他の論文が授業とは関係 ないものであること、
- ③定期刊行物に掲載された論文等の場合、発行後相当期間を経過していることといった基準で著作権者等の利益を不当に害しない範囲を判断することが適当と考えられます。
- ・著作権者等の利益を不当に害しないようにするためには、まず教育機関における著作権に関する意識の啓発が必要ですが、それと同時に教育関係者がその著作物を一般的な手段で入手することができるかどうかが一つのカギになります。

容易に入手できる場合には、それを全部複製することは著作権者 等の利益を不当に害する可能性が高くなり、逆に入手困難な場合に は、その可能性が低くなることになります。この場合、入手の困難性。

63

令和3年版ガイドラインの説明

●高等教育部分の説明から抜粋→著作物の種類

の判断基準としては、従来であればその著作物(出版物)が絶版となっているかどうかが一つの分かりやすい目安とされていましたが、電子書籍の普及によって絶版になる可能性は低くなり、サブスクリプションや電子図書館その他の様々なサービスで利用可能になっている場合があります。ICTを活用した教育活動の展開や学生自身の学修の充実のためには、そのような選択肢が拡大することは望ましいといえます。もしコンテンツの新たな選供方法の開発により、学生自身の費用負担も少なく容易に論文全部の入手ができるような環境ができれば、この規定を活用して論文を複製する際に全部利用も可能となるような基準は限定的に考えることができるかもしれませんが、現時点では個別に判断せざるを得ないと考えられます。

64

令和3年版ガイドラインの説明

●高等教育部分の説明から抜粋→著作物の種類

(全部を複製又は公衆送信しても著作権者等の利益を不当に害することとはならない可能性が高い例)

- ●俳句、短歌、詩等の独立した短文の言語の著作物
- ■新聞に掲載された記事等の言語の著作物
- 雑誌等の定期刊行物で発行後相当期間を経過したものに掲載され た記事等の言語の著作物
- 上記に関わらず、論文の著作物であって専門書、論文集等に掲載されたものについては、授業の目的に照らして全文が必要と認められる場合であって、出版物全体に占める当該論文等の分量、当該出版物の流通の状況や当初の出版時に想定された読者対象かどうか、その出版物が出版後相当期間を経過しているか、入手が容易であるかなどを勘案して、個々の履修者が購入することが必ずしも合理的ではない場合

65

令和3年版ガイドラインの説明

●高等教育部分の説明から抜粋→著作物の種類

- ■主に鑑賞を目的とする写真、絵画(イラスト、版画等を含む。)、彫刻 その他の美術の著作物、及び地図又は学術的な性質を有する図面、 図表、模型その他の図形の著作物
- マークなどにより、事前の個別許諾手続きを不要とする著作権者の 意思表示(条件が明示されているものを含む。)がなされた上で、又は そのような取り扱いがルール化された環境で提供されている著作物

66

令和3年版ガイドラインの説明

- ●高等教育部分の説明から抜粋→著作物の用途
- ○その著作物がどのような目的で作成され、市場でどのように供給されているかによって、著作権者等の利益を不当に害することもあります。
- 例えば、学部の授業の内容がある資格試験と関連がある場合に、 主として当該資格試験を受験しようとする者に向けて販売されている 問題集を、授業の過程で演習問題として学生に解かせるために複製 又は公衆送信するようなことは、当該著作物の本来の流通を阻害することになります。
- ○授業の履修に当たり、学生が手許に持っている教科書に掲載されているグラフ等の図版を授業の過程でスクリーンに投影して説明するために複製するような場合であれば、本来教科書の複製は、特にそれを学生に提供する場合には、授業の過程といっても著作権者等の利益を不当に害する可能性が高いと考え必要がありますが、これはその教科書に掲載されている個々の著作物をスクリーンに投影するために複製する中間的な行為に過ぎないので、教科書からの複製であっても不当に害することとはならないと考えられます。

令和3年版ガイドラインの説明

- ●高等教育部分の説明から抜粋→番組等、複製・公衆送信・伝達の 態様
- ○番組を録画したものの一部を授業の中で再生して視聴させる場合、一般的には、教員のメインの機械から大型ディスプレイに投影したり、個々の学生が開いているPCのモニターに投影したりすれば足りるでしょう。したがって、学生にその録画物によって何らかの操作をさせたりするような特別な学修形態でない限り、学生の人数分の複製物を作成して配付するようなことは著作権者等の利益を不当に害する可能性が高いと考えられます。
- ○「公衆送信の態様」に照らして著作権者等の利益を不当に害する場合の例としては、LMSで学生の履修状況を管理するのではなく、ホームページなどオープンなネットワーク環境で履修者以外にも誰でも受信できるような態様で公衆送信することが考えられます。アクセスするためのIDとパスワードで管理することも一つの方法ですが、授業の過程で利用することを実質的にコントロールできているかどうかが重要です。

令和3年版ガイドラインの説明

●高等教育部分の説明から抜粋

- <著作権者の利益を不当に害する可能性が高い例>
- ■文書作成ソフト、表計算ソフト、PDF編集ソフトなどのアプリケーションソフトを授業の中で使用するために複製すること
- 授業の中ではそのものを扱わないが、学生が読んでおいた方が参 考になると思われる文献を全部複製して提供すること
- 授業を担当する教員等及び当該授業の履修者等の合計数を明らか に超える数を対象として複製や公衆送信を行うこと
- 授業の中で回ごとに同じ著作物の異なる部分を利用することで、 結果としてその授業での利用量が小部分ではなくなること
- 授業を行う上で、教員等や履修者等が通常購入し、提供の契約をし、又は貸与を受けて利用する教科書や、一人一人が演習のために直接記入する問題集等の資料(教員等が履修者等に対して購入を指示したものを含む。)に掲載された著作物について、それらが掲載されている資料の購入等の代替となるような態様で複製 や公衆送信を行うこと(ただし、履修者全員が購入していることが確認され

. .

69

令和3年版ガイドラインの説明

●高等教育部分の説明から抜粋

ている場合であって、問題の解説等を行う目的で付加的に複製等を行うことは許容される余地がある。)

- 美術、写真等であって、必要と認められる範囲で全部の利用が認められている著作物を、市販の商品の売上に影響を与えるような品質で複製」たり製木」たり、て提供すること
- 質で複製したり製本したりして提供すること 授業のために利用するかどうか明確でないまま素材集を作成するような目的で、組織的に著作物をサーバへストック(データベース化) すること
- MOOCs (大規模公開オンライン講義、誰でもアクセスできる)のような態様で、著作物を用いた教材を公衆送信すること

70

令和3年版ガイドラインの説明

■高等教育部分の説明から抜粋

引き続きフォーラムで検討しているもの

- ① 著作物レンタルや、デジタルサービス(デジタル教材、データベース、ワークシート、フォトサービス等)、コンテンツ配信契約、有料放送、有料音楽配信等のうち、教育利用であるか否かに関わらず複製、公衆送信して利用することが禁止されていることを定めている契約を、それぞれのサービスを提供する者との間締結した場合において、当該契約により入手した著作物を利用すること。
- ② コピーやアクセスの制限をかけられた著作物の複製又は公衆送信利用。例)Blu-ray Disc/DVD などの映画の著作物等上

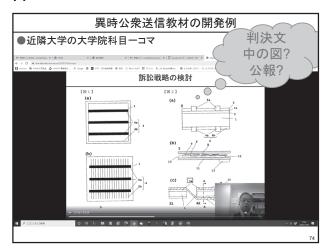
70

71

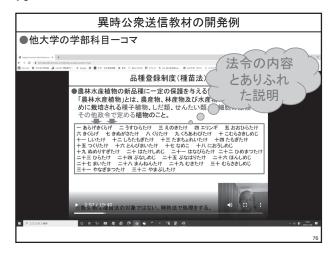
72

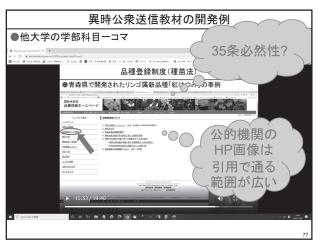
境界線上の検討例

- ●当初無料放送であった番組が有料のネット配信に移行した場合
- ・無料放送時に教員が録画した場合
- •有料のネット配信のみとなった場合
- →ストリーミングのみ
- →ダウンロードタイプ
- ・有料のネット配信と再放送が併用されている場合
 - 但し書き『権利者の経済的利益』毀損への対応・・・
 - →授業内容との関連性 →有料配信の価格 →ストリーミングへの操作 →コンテンツ内容の性格
 - →ストリーミンクへの操作 →コンテンツ内容の性格 →コンテンツの全部か一部の利用か →授業の速報性
 - →再放送頻度 →授業の専門領域 →コンテンツの市場性
 - 等々の要素を総合判断



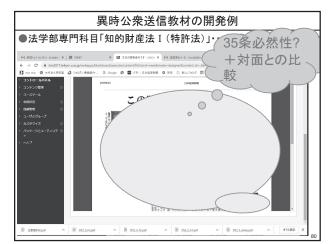








80



81

改正35条とSARTRASライセンスの境界

●令和3年度版ガイドライン37頁以降・・・具体的な制度設計の途中・35条の補償金制度の境界線から多少外側に位置し、教育遂行上の観点からはライセンス等による担保で使われることが望ましい領域を補完する。補償金制度と、その周縁部にあるSARTRASライセンスが一体運用されることで教育現場の利便性を上げることができる。

※ここから先の文章はガイドラインから抜粋・・

- ・許諾の対象となる著作物等・・・著作権者又は著作隣接権者の団体 又は著作権等管理事業者から、本協会が教育機関等の利用について管理の委託又は再委託を受けた著作物等
- ・許諾の対象となる利用の範囲・・・教育機関等において、以下の各項に規定される利用と著作物等の範囲において行われる教育に係る著作物等利用(以下「教育目的利用」という。)のうち、著作物等を公衆送信(送信可能化を含む。)し、受信装置を用いて伝達し、複製し、又は当該複製物を譲渡する以下の各号に定める利用(以下「複製・公衆送信利用等」という。)

82

改正35条とSARTRASライセンスの境界

- ●令和3年度版ガイドライン37頁以降
- ② 高等教育を対象とした許諾の対象となる利用
- (ア)教育機関において、履修者等が当該授業の履修終了後も当該授業の過程において使用に供された教材を継続して利用できるよう、教員が当該教材の複製・公衆送信利用等をすること。ただし、当該教材等の複製取は公衆送信の受信者数が、当該授業の履修者等の数を超える複製・公衆送信利用等は除く。また、継続して利用できる期間は、当該履修者等の当該教育機関への在学中であり、かつ利用許諾契約の有効期間内に限る。
- (イ)教育機関等の教職員が、教職員会議等それぞれの組織内で実施される会議における教育目的利用のために当該会議で使用する資料の複製・公衆送信利用等をすること。ただし、当該資料の複製数又は公衆送信の受信者数が、当該教職員会議等に参加する資格を有する者の数を超える複製・公衆送信利用等は除く。また、複製・公衆送信利用等をする当該資料は、当該教職員会議等の会議中に実際に検討又は参照する部分に限る。

83

改正35条とSARTRASライセンスの境界

●令和3年度版ガイドライン37頁以降

(ウ)教職員研修(FD、SDとして実施される、教育機関の教員その他の職員を対象としたセミナーや情報提供等を含む。教育機関等の教職員以外の関係者等が対象に含まれているものを除く。)において教育目的利用するために、教職員が当該研修で使用する資料の複製・公衆送信利用等をすること。

ただし、当該資料の複製数又は公衆送信の受信者数が、当該教職員研修に参加する資格を有する者及び講師の数を超える複製・公衆送信利用等は除く。また、複製・公衆送信利用等をする当該資料は、当該教職員研修の会議中に実際に検討又は参照する部分に限る。

84



86

YouTube利用

●受信配信にYouTubeを利用する場合の考え方

・受信について(公に伝達・直接受信)

改正35条施行により『公表された著作物であって公衆送信されるものを受信装置を用いて公に伝達することができる。』ようになった。したがって、受信画像を授業で伝達(教室ディスプレー等で直接視聴)することができる。また、LMS等でURL情報を伝えて、その情報を元に学生が視聴することはYouTubeの本来の使い方であり、問題はない。URLは著作物ではない。

但し、違法にアップロードされた画像を視聴させる、あるいはURL情報を提供することは、但し書きの『権利者の利益を不当に害する』に該当する可能性がある。公式サイトであれば問題がないが、それ以外のサイト利用時はどうしても使う必要がある場合に限定して一部分を視聴させる等の配慮が必要。特に、明らかに違法アップロードされたものが分かる場合は原則として利用を控えた方がよい。

YouTube利用

●受信配信にYouTubeを利用する場合の考え方

・配信(アップロード)について

文化庁のガイドラインでは、視聴者が受講生限定であればYouTube を利用した配信もよいという記述がある。

これは、法律所轄官庁の立場からの改正35条解釈としては、その通りであるが・・・・・

YouTubeの利用規約→お客様のコンテンツと行動→コンテンツのアップロード

『コンテンツをアップロードする際、本契約(YouTube のコミュニティガイドラインを含みます)や法律を遵守していないコンテンツを本サービスに投稿することはできません。たとえば、権利所有者から許諾を得ている、または法的な権限がある場合を除いて、第三者の知的所有権(著作物など)を含むコンテンツは投稿できません。お客様は、本サービスに投稿するコンテンツに法的な責任を負います。』

87

YouTube利用

●受信配信にYouTubeを利用する場合の考え方

・配信(アップロード)について

更に、下記部分に『または法的な権限がある場合を除いて、』の前スライド文言はかからないと解釈します(項目番号が異なるため)。

『本サービスにコンテンツを提供することにより、お客様は YouTube に対して、本サービスならびに YouTube (とその承継人および関係会社)の事業に関連して当該コンテンツを使用(複製、配信、派生物の作成、展示および上演を含みます)するための世界的、非独占的、サブライセンスおよび譲渡可能な無償ライセンスを付与するものとします。これには、本サービスの一部または全部を宣伝または再配布することを目的とした使用も含まれます。』

他人の著作物を利用したコンテンツをアップロードした場合、この点で大きな問題・矛盾が発生します。

88

初等中等教育との違い

●萩生田光一文部科学大臣記者会見録(令和3年6月15日)

https://www.mext.go.jp/b_menu/daijin/detail/mext_00170.html

大臣)

学校の運動会の様子をインターネットで配信する際、その会場で音楽の楽曲等を利用することも著作権法上可能となっています。・・・・これも学校の教育活動の一環なので、・・・・結論から申し上げると問題なく、リアルタイムで配信するものについては構わないと思います。・・・・・留意点として、具体的に、教員、児童生徒、保護者といった必要な範囲に限定すること、また、リアルタイムのストリーミング配信などにより行っていただくことが必要でありまして、「必要と認められる限度」で「著作権者の利益を不当に害する」ことのないようにご注意いただきたいと思います。

初等中等教育だからいえること→大学の場合は異なる

学生への知財(著作権)教育も重要

89

帝京大学八王子キャンパス法学 I (木村担当)の概要



90

帝京大学八王子キャンパス法学 I (木村担当)の概要

●第1回授業スライドから抜粋







→ねらい(予想される効果)

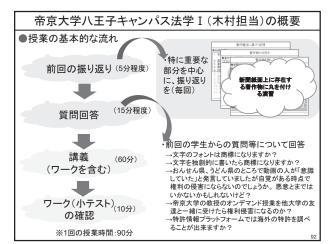
- ・具体的な製品を題材にすることで、学生に興味・感心を持たせる(聞く姿勢に)
- ・実物を見せる、動画を見せる等により、学生の集中力を維持(学習効果の向上)・実製品と知的財産との関連性を把握(知財は決して日常と縁遠いものではない)
- ・実製品と知的財産との関連性を把握(知財は決して日常と縁遠いものではない) ・実社会における知的財産の価値を理解(なぜ知財権による保護が必要なのか)

全授業スライド 心を

91



92



93



94

今後の課題

- ●授業運営に伴う各種実務の組織的対応ないしは体制整備
- ●新たなリスクの探知 教職員間で共有して対応、できるだけ多くの境界事例をリストアップ。
- ●令和3年度暫定ガイドラインで先延ばしされた項目に対する 具体的な対応方法の検討
- ●令和3年度暫定ガイドラインで不合理な項目への対応 例えば、FD時の教材、教員会議等での扱い・・・
- ●補償金分配開始以降のリスク洗い出し
- ●大学発コンテンツの戦略構築・・・教材開発力向上の組織整備

95



教育功労賞表彰報告

教育功労賞制度は、学校法人名城大学職員規則第47条に基づき、各学部及び研究科等において、 教育活動及び教育改善に大きく貢献した者を表彰することにより、職員の教育改善に対する意識を 高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的として表彰するものです。

表彰の種類は、各学部及び研究科等における教育活動及び教育改善に大きく貢献した者及びグループを表彰する教育功労賞と、教育功労賞受賞者のうち、全学的な取組として波及できる可能性のあるものを表彰する特別教育功労賞からなり、いずれも各学部及び研究科等から推薦された者について大学教育開発センター委員会において審査し、大学協議会での審議を経て学長が決定するものです。

令和3年度は1件の推薦があり、大学教育開発センター委員会(令和4年1月6日開催)で慎重に審査した結果、推薦のあった1件を教育功労賞候補者として相応しい旨を学長に報告した後、大学協議会(令和4年1月28日開催)の総意を踏まえ、学長が承認しました。

教育功労賞表彰者について

候補者等氏名	所属学部	推薦対象となった活動・テーマ
佐藤 布武	理工学部	名城大学建築学科・大学院建築学専攻 優秀作品集

※審査の結果、令和3年度特別教育功労賞については、該当なしとなりました。

教育功労賞候補者推薦書

大学教育開発センター委員会委員長 殿

学部・研究科・センター等

理工学部

下記の教育職員(グループ)を「教育功労賞要項」に基づき、教育功労賞候補者として推薦します。

教育功労賞候補者

 所属学部等
 理工学部 建築学科
 候補者氏名
 佐藤 布武

 取組タイトル
 名城大学建築学科・大学院建築学専攻 優秀作品集

【グループの場合は、以下にグループ名等を記載してください。】

グループ名

学部等・氏名(代表) 学部等・氏名

学部等・氏名 学部等・氏名

1. 推薦理由

1) 経緯

建築学科には5つの専門分野(構造系/材料・生産系/環境・設備系/計画系/歴史・意匠系)がある。これらは対象が建築・都市である点が共通するが、構造系/材料・生産系/環境・設備系の3系は理工学部の他学科に近い工学的側面を有するが、計画系は芸術的側面、歴史・意匠系は文科系的側面を有する。そのため、学科の研究や活動の成果について、一元的に在学生間で共有すること、および受験希望者に的確に伝えることが難しかった。

2) 名城大学建築学科·大学院建築学専攻 優秀作品集

佐藤布武氏はこの状況に対し、2018年度より、次の構成からなる優秀作品集を発案・編集・創刊した。

- ○優秀論文:修士論文、卒業論文(工学部門/計画部門)
- ○優秀作品:卒業設計、2~4年生の建築設計課題

更に2020年度には、学生主体の編集委員会を設置し、上記に次の項目を加え大幅な質的向上を 図った。

- ○若手教員による巻頭討論
- ○5系ごとの学びの概要、研究活動、研究テーマと卒業論文・制作リスト なお、2018年度版は建築学科のホームページに掲載し、2019年度版および2020年度版は、本学

ウェブオープンキャンパスサイトに掲載し、更なる活用を開始した。

3) 活用方法とねらいとする効果

この優秀作品集は、全在学生と当該年度の修了生・卒業生に配布している。優秀論文と優秀作品に選出され、優秀作品集に掲載されることは学生にとって大変名誉なことであり、彼らの学生の学習意欲を大いに刺激する。

また、学科ホームページやオープンキャンパスを訪れた高校生には閲覧してもらい、当学科の 取り組みと魅力の伝達を通じ、受験生の当学科の的確な理解と受験意欲を刺激している。

以上の通り、佐藤布武氏の取り組みは、学生教育および学外広報に多大なる貢献をするものであり、ここに教育功労賞候補者として強く推薦する次第である。

2. 取組の発展性について

同一学科に工学・芸術・文科という3つの専門分野群が並走するのは、建築学科固有の特徴であるうが、本取り組みは次の3点において全学的な波及効果が期待できる。

1)優秀論文・卒業設計のみならず2~4年生の各課題も掲載していること

高校生にとっては、入学後の成長過程をイメージでき、各学科の専門性に対する興味を促すことができる。新入生にとっては、各学年における成長過程とスキルの到達目標をイメージでき、学習意欲を刺激できる。在学生にとっては、各学年におけるスキルの到達目標をイメージさせるとともに、競争意識と学習意欲を刺激できる。

2)ホームページやオープンキャンパスでの活用 当学科について、受験生の理解や興味を刺激することができる。

3) 学生主体の取り組みとすること

優秀作品集の編集作業は多大なるエネルギーが必要である。内容と編集作業の基本形が明確になるまでは、佐藤布武氏のような尽力はやむを得ないが、これを持続可能な取り組みとするためには、学生主体の取り組みとすることが不可欠である。本取り組みはそのモデルを示している。

3. その他教育活動に係る特記事項

本取り組みに必要な優秀作品集の印刷費は、「学びのコミュニティ創出支援事業」の中の次の取り組みとして支援いただいた。この場を借り、感謝の意を表す。

学科作品・論文集「イヤーブック」の編集による総合デザイン教育

7. 資 料

大学教育開発センター要項

(目的)

第1条 大学教育開発センター(以下「本センター」という。)は、全学を対象としたファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)活動の実施及び各学部、研究科への FD 活動・教育の質向上の取組の支援により、本大学の教育改善を推進することを目的とする。

(業務)

- 第2条 本センターは、前条に定める目的を達成するため、次の業務を行う。
 - (1) 教育に係る調査・研究・提言に関すること
 - (2) 教員の教育力向上に関すること
 - (3) 入学前教育及び入学後の学修支援に関すること
 - (4) 高大連携及び接続教育に関すること
 - (5) その他必要な事項に関すること

(センター長)

第3条 大学教育開発センター長は、学長の命を受けて本センターの業務を総括し、代表する。

(委員会)

- 第4条 本センターの業務に関する基本事項を審議し、実施するために、大学教育開発センター委員会(以下「委員会|という。)を置く。
- ② 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 大学教育開発センター長
 - (2) 学務センター長のうち1名
 - (3) 各学部から選出された教育職員 各2名
 - (4) 独立研究科から選出された教育職員 各1名
 - (5) 教職センターから選出された教育職員 1名
 - (6) 大学教育開発センター事務部長
 - (7) 学務センター事務部長
 - (8) その他委員長が必要と認めた者

(委員長及び副委員長)

- 第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。
- ② 委員長は、大学教育開発センター長をもって充てる。
- ③ 副委員長は、委員の互選による。

(任期)

- 第6条 第4条第2項第3号、第4号、第5号及び第8号の委員の任期は2年とする。ただし、再 任を妨げない。
- ② 委員が欠けた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

- 第7条 委員会は、委員長がこれを招集し、その議長となる。
- ② 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。
- ③ 委員会は、委員の過半数の委員の出席により成立する。
- ④ 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は、議長がこれを決する。

(委員以外の出席)

第8条 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

- 第9条 委員会は、必要に応じて専門委員会を置くことができる。
- ② 専門委員会の運営に関する事項は、委員会において別に定める。

(事務)

第10条 委員会の事務は、本センターが分掌する。

附則

- ① この要項は、平成29年4月1日から施行する。
- ② 従前の「FD 委員会要項」は、この要項の施行の日から、これを廃止する。

令和 3 年度 專任教職員 所属別 FD 活動参加状況

	所属	所属人数	R3前期 授業改善 アンケート	R3後期 授業改善 アンケート	第23回 FD・SD フォーラム	第13回 FD 学習会	FD 学習会 第14回 FD 学習会 · 新任教員 FD 研修会	第15回 FD 学習会	教育功労賞	教育年報	学外セミナー・研究集会等 への派遣
	学長	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0
	法学部	45	41	39	8	6	7	8	0	0	6
	経営学部	29	28	30	3	2	2	1	0	0	1
	経済学部	29	28	30	14	3	1	7	0	0	6
	理工学部	172	148	159	19	32	16	29	1	1	23
	農学部	45	37	37	6	9	4	5	0	0	0
教員	薬学部	67	19	24	15	11	9	16	0	2	2
, p	都市情報学部	25	26	40	5	3	4	5	0	0	5
	人間学部	22	22	23	6	3	4	8	0	1	1
	外国語学部	20	25	28	7	1	5	3	0	2	3
	教職センター	8	8	10	5	2	0	4	0	0	0
	小計	463	382	420	88	72	52	86	1	6	47
	監査室	2	002		0	1	2	2	0	0	0
	総合企画部(愛知総合工科含む)	15			6	2	0	1	0	0	13
	総務部	23			0	0	0	1	0	0	0
	涉外部	8		-	0	0	0	0	0	0	0
	財務部	12		-	0	0	0	0	0	0	0
	施設部			-							0
		9		-	1	0	0	0	0	0	
	東京オフィス	1			0	0	0	0	0	0	0
	開学100周年事業室	1		-	0	0	0	0	0	0	0
	入学センター (日は) へん)	18		-	0	1	0	0	0	0	4
	学務センター (保健センター含む)	30		$-\!\!\!/-\!\!\!\!/$	7	1	1	1	0	0	0
	教職センター	4			0	0	0	0	0	0	0
	大学教育開発センター	4			3	1	1	2	0	0	29
	学術研究支援センター	11			2	1	0	0	0	0	0
	総合研究所	1			0	0	0	0	0	0	0
	キャリアセンター	16			0	0	0	0	0	0	0
職員	情報センター	5			1	1	0	1	0	0	0
貝	社会連携センター	2			0	0	0	0	0	0	0
	障がい学生支援センター	2			0	0	0	0	0	0	0
	国際化推進センター	5			0	1	1	0	0	0	0
	附属図書館	5			0	0	0	1	0	0	0
	法学部	6			0	0	0	0	0	0	0
	経営学部	5			0	1	0	0	0	0	0
	経済学部	6			1	0	0	0	0	0	0
	理工学部	13			0	2	0	0	0	0	0
	農学部	15			0	0	1	0	0	0	0
	薬学部	11			0	0	0	0	0	0	0
	都市情報学部	1			0	0	0	0	0	0	0
	人間学部	1			0	0	0	0	0	0	0
	外国語学部	1			1	0	0	0	0	0	0
	ナゴヤドーム前キャンパス事務室	12			1	2	0	0	0	0	0
	附属高等学校	6			0	0	0	0	0	0	0
	小計	251	0	0	23	14	6	9	0	0	46
	計	714	382	420	111	86	58	95	1	6	93
*\ -\-	####################################										

[※]本集計表は、専任教職員のみの参加状況集計表であり、「令和3年度 FD·SD活動一覧」で記載した参加者数(非常勤講師・他大学等参加者含む)とは必ずしも一致しない。

8. おわりに

あとがき

大学教育開発センター

本報告書は、令和3年度の本学におけるFD·SD活動、正課外教育活動及びその詳細についてまとめたものです。

本学のFD・SD活動は、各学部・研究科等を主体とし、大学教育開発センター委員会がサポートする形で企画運営、各種取組を推進しています。平成12年度から始めたこの活動は、一昨年度から SD活動も含める形で新たにスタートし、発展しています。

大学教育開発センターは、大学教育開発センター委員会とともに、国の文教政策の動向を踏まえ、 本学の発展のため、今後も引き続き教育改善に取り組みます。

本報告書により、本学のFD・SD活動等の現状を確認いただき、次年度に向け、抱負を新たに していただけますと幸いです。

最後になりますが、各FD・SD活動の企画・運営、そして本報告書の企画・編集にご協力いただきました皆様方に、心より御礼申し上げます。

令和4年3月

発 行:名城大学 大学教育開発センター

編 集:名城大学 大学教育開発センター

住 所: 〒468-8502

名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地

電 話:(052)838-2033 FAX:(052)833-5230

